

512  
197

9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

始





197  
572-152  
127

PRINCIPLES OF ECONOMICS

BY

F. W. TAUSSIG, PH.D., LITT.D., LL.D.

HENRY LEE PROFESSOR OF ECONOMICS  
IN HARVARD UNIVERSITY

經濟學原理

米國  
大學教授  
長谷部文雄譯  
タウシグ著

京都  
弘文堂  
書房

大正  
12.6.28  
内交



PATRI·DILECTO  
FILIVS·GRATVS

我が親愛なる父上に  
感謝に満てる子供より

### 序

この書は、私自身が之を邦譯するつもりで、第一版發行後あまり間もなき頃、原著者から其の許諾を得たものである。その時著者から送られた書簡は、私の不始末のために只今紛失してしまつてゐるが、しかし其れと同時に著者の恵まれた本書の第一版は、*With the Compliments of the Author* といふ附箋を存せるまゝ、今私の手に保存されてある。私の藏書印の傍に大正元年十月と記入してあるによつて考ふれば、私が著者から翻譯許可の通知を受けたのは、第一版の發行された一九一二年の十月のことである。それから今日まで、既に十年以上の歳月が経つたが、現在及び將來の私には、之が全譯を完了し得るの望が全く絶えてゐる。しかるに、私の職を奉ずる京都帝國大學の大学院學生たる長谷部學士が、一兩年前から此の書の翻譯を企て、くれられ、茲に先づ其の第一篇が公刊されるゝことゝ爲つたのは、原著者に對する私の宿約が——たとひ他人によ



つてとは云へ——遂に果されんとする所以であつて、私は何よりも先づ之を喜ぶものである。更にまた私は、此の譯本が印刷に附せらるゝ前、その稿本の一部を通讀することにより、譯文がまことに忠實であり且つ平明であり、それは私自身が企てたよりも、遂に善き翻譯となつたことを確め得て、私は原著者に對し、自ら其の約を果たさざりし罪を償ひ得たるが如き安心を有つものである。

私が嘗て本書の翻譯を思ひ立つたのは、我國に適當な經濟原論の著書がなく、さうして恰も本書は其の欠陥を補ふの有力なる助けとなるであらうことを、信じたりしが爲めである。過去十年間における我國經濟學界の進歩は、確に顯著であつたと謂はなければならぬが、さうして其の間、有力なる著書及び翻譯も少からず公にされたのであるが、しかし、經濟原論全體に亘り本書の如く包括的に諸般の問題を取扱ひ、殆ど經濟全書の觀あるものに至つては、未だに其の類書を見ない。乃ち十年前に本書によつて補ふべかりし欠陥は、十年後の今日、依然として元のまゝ、

である、と見て差支ない。私は本譯書が我が讀書界のため、猶ほ暫く少からざる貢獻を爲すであらうことを信ずる。

原著者は米國經濟學界の元老である。さうして此の書は、彼れが一生の所得を集大成したものにちかい。私は勿論著者と見るところを殊にする可なり多くを有つ一人であるが、しかし私は、此の書が經濟學を學ばんとする人々にとり好個の參考書たることを、茲に裏書するに躊躇せざるものである。原著者の目的に至つては、彼れの原序に明かである。今敢て之を贅しない。

一九二三年六月一日

河 上 肇



## 譯者例言

一 本譯書は、F. W. Taussig, Principles of Economics, 3rd ed. revised, 1922. \* の全譯である。私は、本書が少くとも經濟的事實に極めて豊富だといふ點に於て、之を譯出して公にすることにの徒事ならざるを思ふ。又、邦語を以て公にされた經濟原論に良いものが少い今日、此の譯書が相當に歡迎されるであらうことは、私の密に期待するところである。

二 私が本書を初めて知つたのは、大正九年の秋、私が京都帝國大學經濟學部に入學した當時、偶々一友人から借讀した河上先生の經濟原論ノートに於て、あつた。然し此の翻譯に志したのは、翌十年十月の末、矢張り河上先生から、本書を翻譯することの徒勞ならざること、及び先生が此の翻譯權を有つて居られること、を教へられた頃であつた。爾來私は、大學規定の前後三回に亘る試験を受ける爲に費した時間以外の殆んど總ての時間を以て、原著第二訂正版に據りつゝ、此の翻譯に従事して

\* マクミラン會社出版。上下二卷よりなる。



來たのであつたが、丁度上巻を一應譯了した翌十一年の暮、偶々第三訂正版を手に入れたので、舊稿をば全部この第三版に據つて改譯し、茲に之を公にすることになつたのである。

三 本譯書が公にされたに就ては、直接に或は間接に、幾多の先輩及び友人に負ふところ實に莫大であるが、就中、河上先生は常に私の翻譯を快く承認されたのみならず、譯出に、出版に、諸々の懇篤なる指導を賜はり、畏友法學士宮川實君は、私の譯稿の全部を原著と對讀されて、幾多の決定的な助言を與へられ、又、弘文堂出版部の諸氏は、誠に忠實に、此の印刷及び校正の勞に當られた。實に、感謝に耐へない次第である。

四 私は本書の譯出に當り、能ふ限りの時間と微力とを以て、原文に對する忠實と譯文の平明とに努めたが、一つには時間の都合上、二つには力の足りない爲に、不本意ながら、氣の付かない誤譯、不適譯があるだらうと思ふ。が此等の有り得べき諸々の缺點は、大方の叱正を俟つて、

他日之を訂正したいと思つてゐる。

五 各節の見出しは、原著に於ては各章の冒頭に纏めてあつたものを、私が便利と思つたので各節に分配したのである。脚註の内、(\*)印のものは私が付けたのである。尙、本文全部に亘つて私は、原意を明かに傳へんが爲に無数の言葉を補つたが、其等は殆んど總て之を明示せず、只だ、特に必要と思つた場合に限り、之を( )内に六號活字を以て入れて置いた。

六 本譯書は今後約一年間に、本書全八篇を各々獨立の分冊として刊行し、そして第八篇に於ては、全篇に亘る細密な索引を付する豫定である。

七 本書の印刷成らば私は、先づその第一冊を取つて之を、崇高なる人格と秀れたる教養との主たりし、故商學士岡田憲章兄の靈に捧げたい。數年の間私の浴したる兄の純情は、身心共に前途の暗澹たりし當時の私に取つて、何よりも尊き心の糧であつた。今や兄の現身は此の世に在ら



すして、復た共に相語るの日なしと雖も、兄の肖像は私の書齋の壁上に掛り、兄の遺贈にかゝるマルクスの「資本」は私の書架に輝く。兄の靈や、必ず此の心からなる貧しき供物を莞爾として享けられるであらう。

大正十二年六月

譯

者

## 第一版 序

余は本書に於て、經濟學上の諸原理をば、教育あり且つ理解力ある人ならば、嘗て斯學を組織的に研究したことが無くても、之を了解し得るやうに述べようと試みた。此の意味に於て本書は初學者向きに書かれたものであるが、然し本書は、諸々の難問題を巧に誤魔化したり、嚴正な推理を避けたりしてはゐない。何人と雖も、注意の持續を要する一と鎖の推理に従事するを欲せぬ者は、諸々の經濟現象を理解することも、諸々の經濟問題を取扱ふ準備をすることも、出来ない。余は、明瞭ならしめんが爲に、また余の諸々の結論そのものと同じく、それ等結論の據つて立つ諸々の論據を注意して記述せんが爲に、全力を盡した、が然し余は、一切の問題を單純化したといふやうな詰らぬ風はしなかつた。

題目配列の順序は、體系に對する嚴正な尊重に依つてよりも、寧ろ説明の便宜に依つて、之を決定した。概して、或る問題に這入る場合には



必ず、其れに關する諸々の主要な結論をば、その最後まで追求し得るやうにした。然し乍ら、經濟學の相異なる諸部分の間の關係は極めて密接であるから、往々にして必然に、若干の問題の考察を半途にして止め、その結語は之を後段に譲らねばならなかつた。租稅論は、その配列上の位置に關して謂へば、恐らく最も困難であつた。其れは經濟學と極めて密接な關係にあるから、其れに關する多少の考察は肝要だと思はれた。然しより、嚴正な意味に於ける財政は、其れに關する諸問題が經濟學的なると全く同様に政治學的なので、之を省略することにした。斯くしても尙、租稅論に適當な位置は、之を見出すに容易ではなかつた。が余は遂に、此の問題に關する諸章を最後に置くことにした、——なるほど其等を、斯くの如く社會主義に關する諸章の後に置いては、全體の調子がだれるかも知れないけれども。

本書に於て取扱ふところは、主として近代諸國の産業狀態、就中、合衆國に於ける其れである。經濟史及び經濟的發展に關しては、偶々其れ

が當代社會の諸問題のこれ或は他を例證する場合に限つて之に觸れ、其の爲に章を設けては考察しなかつた。若干の題目に關しては、經濟學者達が彼等の間の論争に於て之に多大の注意を拂つてゐるが、茲には殆んど或は全然、注意を拂はなかつた。また余は、定義、方法論、及び學說史に關する章或は節——之は普通には設けられてゐる——を全然設けなかつた、また主觀的價值論のやうな、余の判斷に依れば其の賛成者達が考へるほど現實世界の諸現象を説明するに役立つはしないところの、題目に就ては殆んど語らなかつた。同種の此等及びその他の諸問題は、之をその問題に關する専門書に譲るに如くはない。余は、本書が専門學者の注目を受くるに足ることを希望する、が本書は、専門學者以外の人々に依つて讀まれんが爲に書かれたものである。

本書は教科書の通型に従つて書かれたものではなく、また主として教師や學生の必要に應ずる爲に計劃されたものでもない、がしかし余は希望する、經濟學の實質ある課程を授ける諸學校に於て、本書が役立つも



のとなるであらうことを。本書が若年者向きにではなく大人向きに書かれてゐるといふ事實は、之が斯かる目的の爲に、不適當ではなくて寧ろ適當だといふ論證でなければならぬ。本書は百科辭典的書物でもなく、また有りふれた教科書でも無いが故に、多量の脚註を掲げることや、參考書に關する細かい注意を與へることはしなかつた。が一般に知られてゐない事實や數字を引用した場合には、その出所を擧げて置いた。また本書全八篇の各々の終りには、眞に重要な書物及び論文を擧げて、尙進んで讀み且つ研究する爲の暗示を與へて置いた。

余は本文に於て、機會のある毎に、余に多大の刺戟を與へた當代の諸學者に負ふ余の恩義を明かにした。また原稿及び校正刷の訂正に於ける多大の援助に就て、即ち形式並びに實質に關する諸問題に就て、余は、  
 ハアヴアド大學の R. F. Foerster 博士及び E. E. Day 博士に負ふてゐる。

ハアヴアド大學に於て

一九一一年三月

エフ・ダブルユー・タウシグ

## 第二版 序\*

第二版に於ては、若干の重要な問題に關する議論を時勢に適應させる目的を以て、諸々の變更を加へた。合衆國に於ける銀行業に關する章は之を全然書き更へた、そして今や其れは、聯邦準備金銀行制度に關する詳述、及び、この新しい法規の根柢を爲せる諸原理に關する考察を收めてゐる。トラスト及び合同に關する章は、一九一四年に制定された法律に關聯して、大いに書き更へられた。勞働保險に關する章では可なりの訂正を加へ、以て、英蘭及び合衆國に於ける近年の顯著な進歩に對する注意を促した。租稅殊に所得稅に關する章、及び若干の他の題目に關する章も、同様に之を時勢に適應せしめた。

原理及び一般的推理に就ての諸問題に關する限りでは、本文は、諸々の小さな點に於ける訂正を除けば、第一版の儘である。

一九一四年十二月

エフ・ダブルユー・タウシグ

\* 第二版の序は第三版に於ては省略されてゐる。



### 第三版 序

一四

第三版に於ては、本文を通じて訂正を加へ、その配列を可なり變更し且つ可なり多くの増補をした。若干の部分の位置を變更したが、殊に、上卷に於ける「資本」に關する章の内數節は、之を下卷に於ける「利子」に關する章の所に移した。以前には別々の項目の下に散布してゐたところの、貨幣制度改革案に關する諸部分は、今や之をこの題目に關する別章を設けてそこに集め、且つ新材料を以て之を補充した。また「巨富」に關する一章を別に設けて、之に主として新材料を包含せしめた。第六(勞働問題)篇に於ては、「勞賃及び勞賃制度」に關する一章を設けて之を序論とした。他方に於て、兩金屬主義に關する數節、その他重要さの減じつゝある諸題目は、之を省略した。下卷に於ける「一般財産税」に關する章も亦全部之を省略した。

が最も重要な變更は、這般の大戦の諸事件に依つて強ひられ或は暗示されたものである。合衆國の銀行制度に關する章は、大戦中に起つたところの、諸々の大きな且つ急速な變動の爲に、全然書き更へられた。紙幣に關する章は之を擴張して、その戦時發行高に關する説明を包含せしめた。下卷の最終篇即ち租税原理に關する篇は、之をすつかり訂正して、最早適切ならざる若干の詳論を削除した。

此の數年は實に諸々の經驗をしたが、此等の經驗に依つて、經濟學原理に重大なる變更を加へねばならなくなつた、と謂ふ事は出來ない。寧ろ反對に、經濟學者達の豫言及び警告が動かすべからざるものとなつたのである。しかし、大戦は全く異常な諸現象を齎した、そして此等の現象は、一方諸々の卑近な諸原則を大いに例證してゐるが、他方では矢張り一步進んだ説明を要求してゐるのである。かくて余は、極めて廣い範圍の題目を包含する一著書の許す範圍内に於て、大戦の齎した諸々の經濟學的教訓を表はさうと努めた。



一九三一年九月

エフ・ダブルユー・タウシグ

一六

目次

第一篇 生産組織

第一章 富と労働……………三—二四

第一節 経済學の研究対象……………三

第二節 富、自由財、經濟財。富と福祉……………六

第三節 財は只だそれが稀少なばかりでも經濟財となり得る、併しそれは通常労働を要するが故に經濟財となる……………一〇

第四節 活動には厭はしいものと愉快なものがある。労働は通常、継続的であり、單調であり、厭はしいものである……………一三

第五節 或る種の労働は常に愉快である……………一七

第六節 大抵の労働の厭はしきは労働に對する世の一般の見解を改善することに依つて、又労働時間を短縮して餘暇をより多くすることに依つて軽減される……………二〇

第二章 生産に於ける労働に就て……………二五—五一

一



第一節 初期の英國派經濟學者は有形物に費された勞働のみが生産的だと考へた。この見解に對する駁論。……………二五

第二節 勞働は效用を創造するに過ぎない、效用に結果する勞働は總て生産的である。無形の富があるだらうか。……………二九

第三節 不生産勞働といふやうなものがあるだらうか。有害な物に費された勞働。……………三四

第四節 裁判官と辯護士との勞働、軍人の勞働。……………四〇

第五節 掠奪的勞働。『ビジネス』。法律と不生産的勞働。……………四四

第三章 分業と近代産業の發達……………五二—八二

第一節 分業の二形態、單純分業と複雑分業。……………五二

第二節 單純分業から生ずる利益、巧妙、繼續、才能への適應。……………五四

第三節 複雑分業から生ずる利益、機械の發達。第十八世紀の産業革命。……………五七

第四節 分業とは無意識的協力のことである。交換。……………六四

第五節 交換は昔は或る限られた經濟的地域で行はれた。低廉輸送(鐵道)はその地域を廣くする。……………六七

第六節 市場がより廣くなれば分業がより細くなる。肉屋業に依つての例證。……………七一

第七節 地理的分業——合衆國と英國とに依つての例證。……………七四

第八節 地理的分業から生ずる二種の利益。……………七八

第四章 大規模生産……………八三—一一四

第一節 大規模生産の發達——綿製品製造業、製鐵業、農具製造業に依つての例證。……………八三

第二節 大規模生産の利益、——機械の使用、一般出費の節約、賣買、副生産物の利用、實驗。……………八八

第三節 大規模生産の制限は主として監督の困難から生ずる。農業の場合。その他の諸産業。制限の一原因としての有能な管理者の稀少。この人間的素因は普通に社會主義者に依つて無視されてゐる。……………九三

第四節 横斷的合同と縱斷的合同。一例としての製鋼會社。他の諸例。縱斷的合同への傾向は横斷的合同への傾向よりも弱い。……………一〇一

第五節 競争は往々にして浪費となる、なるほどその浪費は外見よりは少いけれども。合同は産業の一部分に君臨してゐるに過ぎない。……………一一〇

第五章 資本……………一一五—一三七



第一節 生産は時間的に擴つてゐる。此の事實は分業に依つて蔽はれてゐる。現代に於ける設備と機械との使用の遞増。……………一五

第二節 生産者用の富と消費者用の富、資本。……………一一九

第三節 資本は剰餘を基礎とする。……………一二三

第四節 どんな意味で資本が貯蓄に基くか。蓄藏と、放資の爲の貯蓄との比較對照。……………一二四

第五節 放資は労働者への前貸を意味する。財産の不平等と前貸との關係。放資及び前貸の仲介業者。……………一二九

第六節 資本の維持は其の創造と同様に、貯蓄を必要とする。……………一三三

第六章 産業の會社組織……………一三八—一五七

第一節 組合と會社。有限責任。法的見地及び經濟的見地から見たる會社。……………一三八

第二節 會社組織からの諸々の利益。大規模作業が容易になる、新しく且つ冒險的な放資が鼓舞される、貯金と放資とに對する刺戟。……………一四三

第三節 讓渡の容易は、危險を分配し従つて放資を鼓舞する爲に、及び管理を有能者の手に齎す爲に、役立つ。しかし其れは大きな弊害をも生ずる、——欺瞞、株式賭博、不徳者の管理。……………一四七

第四節 放資媒介業者の重要さの遞増。信任された銀行家及び管理者の力。……………一五四

第五節 多額の會社財産が極めて安全だといふことは、有閑階級をしてより永久的のものたらしめる。……………一五六

第七章 生産力を影響する原因若干……………一五八—一八二

第一節 労働の生産力に及ぼす高い勞賃(豊富な食物)の效果。高い勞賃は概して、能率の原因ではなくてその結果である。……………一五八

第二節 生産力に及ぼす熟練と理解力との效果。普通教育。専門教育——個人に及ぼすその效果と社會に及ぼすその效果。……………一六五

第三節 指導。實業家、科學者。指導を鼓舞するものとしての自由と可動性。指導への諸々の動機。……………一七三

第四節 社會の非物質的裝備、教育に依つて、及び遺傳に依つて、如何に影響されるか。……………一七九

第一篇の參考書類……………一八二



第一篇 生產組織



## 第一章 富と労働

### 第一節 経済學の研究對象

經濟學の範圍及び内容を正確に定義することは、その研究の初めの階段に於ては重要なことではない。斯學の研究對象の精密な分界や、斯學の他の諸學問に對する關係は、その主要なる諸結論に就て多少の知識を得てからでなければ、これを理解することが出来ない。その研究の出發點に於ては、斯學で取扱ふ問題の性質はどんなものであるかといふ事を、一例を以て示せば充分である。一つのよい例が、我々の最も手近かな使用物の一つであるところの、水の經濟的地位に於て見出される。

人口稀薄な社會に於ては、若し泉水や河水が豊富であるならば、水は總ての人々に自由に得られる。其の所有權に關しても、該社會が其れを處分すべき方法に關しても、何等の問題も起り得ない。總ての者が幸福にも、無制限な供給を受け得る。誰も、其の一部分を占有すること、或は其れを獲得するため労働に従事することに依つて、利益を得ることは出来ない。



斯かる状態にある水は、「自由」財 (a "free" good) であつて「經濟」財 (an "economic" good) ではないと謂はれてゐる。斯かる水は、それに關しては何等の經濟問題も起らないといふ意味で、經濟財ではないのである。誰も彼も、その欲しいと思ふ總てを得てゐる、そしてそれに依つて仕合せである、それ以上そこにどんな問題があるであらうか。

ところが或る階段——それは極めて早く現れるかも知れない——に達すると、その水を便利に使用し得られるやうにする爲に多少の勞働が費されるやうになり、従つて其れは、最早嚴密な意味での自由財ではなくなる、しかし乍ら此の階段では未だ、何等複雑な經濟問題は起らない。個人は井戸を掘るかも知れないし、泉或は河の水をその住居まで管で引くかも知れない。此の場合には、寧ろ根本問題と看做しても差支ないところの最初の經濟問題が起る、即ち、此の便利の供給に對してどれだけの努力を拂ふ價值があるか、といふ問題が起る。しかし此の問題は、個人が自分自身の慾望のみを充す爲に自ら努力する限りは、やはり極めて單純である。そこには他の人々との交渉も無く、賣却も行はれず、價格問題も生じない。もし人々が、自身自身の慾望を充す爲にのみ働く筈であるならば、六つかしい經濟問題は全く起らないであらう。

ところが或るより複雑な階段に達すると、水が、或る人々に依つて持込まれて他の人々に賣られるやうになる。東洋の町では、樽や革囊を持った水配達の姿が今でもよく見られる。我々の都市でも、往々にして私人が、泉の水や蒸溜水の入つた籃細上の壘を賣つてゐる。此の場合には、賣却及び價格に關する諸問題が生じる。何が、依つて以て水が賣られる條件を決定するか。何が、水を供給する人々の収入を決定するか。彼等は利益を得つゝあるかどうか。——此の場合には、問題がより單純でなくなつて來る。

なほもう一つの階段(此の階段は必ずしも、より後になつて現れるわけではない)に達すると、水を獲得する爲に共同作業が行はれるやうになる。此の場合には、問題は、やはり比較的單純であるかも知れないし、或は近代社會の厄介な問題の一つとなるかも知れない。伊太利を旅行する者は、村有の泉水が其の水道に依つて供給されてゐるのを見る、歐羅巴の若干地方では、より大きな町に於てさへも、公有の泉水が極く近頃まで、供給の主たる源となつてゐた。その水は、最早嚴密な意味での「自由」財ではない、何となれば、其れを欲する場所に齎らす爲に努力と出費を要したから。しかし、その努力はつと以前に爲されたものであつて新にする必要がなく(維持費を要せず)、しかもその水は極めて豊富であるからして、人々はその水をば何



等の制限もなしに使用し得るのである。しかし乍ら現代の都市に於ては、事情が一變して來た。其處には、大きな貯水池や、精巧な唧筒場や、大管や導管が設備されてゐる。斯くして水は、豊富に而も便利に、どの家庭にも供給されてゐる。しかしその設備に對しては、常に莫大な創設費のみならず、不斷の維持費が掛つてゐる。そこでいろ／＼な問題が起る。誰に、その經費を出させ、又その供給を管理させるか。公有にするか、それとも私有にするか。又、公有にしても私有にしても、その賣却條件をどう定めるか。——その水は、若しそれが公共管理の下にあるならば、やはり村有泉水の場合のやうに、總ての人々に對して無料で供給されるといふことも考へられる、或は、その使用者達から支拂が要求されるかも知れない。此の場合には、利潤に關する問題や、健全な社會政策に關する問題や、起り得べき獨占利得に關する問題や、財政上の考慮と衛生上の考慮との間の撞著に關する問題が、生じる。即ち經濟學に關する實に複雑な諸問題が簇生して來るのである。

## 第二節 富、自由財、經濟財。富と福祉。

此等の相異つた種類の狀態を表はす爲に、よく、若干の準術語が用ひられてゐる、「自由財」

〔“free goods”〕、「經濟財」〔“economic goods”〕、「公共財」〔“public goods”〕、「富」〔“wealth”〕がそれである。

自由財とは何か、又經濟財とは何か、といふことは今略述した許りである。新鮮な空氣や、氣候や、日光は、自由財の明白な例である、最も單純な狀態の下にある水や、人口稀薄にして樹木の繁茂せる國に於ける立樹も亦、その例である。

稀少 (scarcity) —— 即ち、需要に比較しての稀少 —— は、經濟財の耳印である。水は、これを使用する場所でその欲するだけの分量を得る爲に努力せねばならぬ場合には、一つの經濟財となる。新鮮な空氣は、將來或は、かなり多數の人類に取つて一つの經濟財となるであらう。それは既に、多數の人々が大きな部屋或は廣間に集つてゐる場合には經濟財である。斯かる部屋には扇風器や、空氣抜き、發動機が取付けられる、そこで、如何にすればその必要な努力が最も巧に指導されるか、誰にその出費を負擔させるか、といふことが問題になる。人口が大都會に集中し、そして其處の空氣を汚濁させる諸能因が増加するにつれて、衛生に適ふやうに空氣を保つ爲め精巧な手段を採る必要が生じないとは限らない。若しそうなれば、水の場合に於けると同じ複雑な諸問題が、即ち、新鮮な空氣の相對的稀少に依存する一切の問題が、現



はれて来るであらう。

「公共財」は、個々の人々には無料で供給されるが、それは、誰かが其れを得る爲の努力及びその結果なる出費を免れ得ないところの、經濟財である。その使用者達には自由に得られても、それは自由財ではない。公有泉水の水がそうである、公共教育、公園、博物館、公開音樂會、橋梁、及び公道もそうである。どんな財を公共財とするか、又誰にその設備費を出させるか、——總ての人々に賦課するか、或は若干の人々のみに賦課するか、——此等は公共團體の職分に關する問題であつて、その出費の支辨は租税に關する問題である、そして此等は、經濟學者が取扱はねばならぬところの、最も困難且つ重大な諸問題の中に位する。

昔の經濟學書に於ては、普通に、經濟學 (political economy) (此の political economy という言葉は、今日では、より簡単な "economics" という言葉に依つて驅逐された) は「富に關する學問」だと定義された。此の用法では、「富」は、公共財を含む一切の經濟財を意味してゐる。どちらの言葉——富或は經濟財といふ——を用ひても、經濟學が取扱ふべき對象——即ち、人々が欲しいと思つても自由には得られないところの、従つて努力や、努力に依つて得られる満足や、産業組織やに關する諸問題を提出するところの、いろいろの物——を表はすことが出来る。

或る社會に生活してゐる人々は、その社會に自由財が多ければ多いほど、そして「富」の範疇に入る物の種類が少なければ少いほど、明かに暮し易いわけである。清淨な水や新鮮な空氣が無盡藏に有つて、誰でもそれを自由に消費し得る所では、生活條件がそれだけ容易である。若干の恵まれた土地の住民は、その温暖な且つ變化のない氣候のお蔭で、他の土地では防暑防寒の爲に費さねばならぬところの多量の勞働を免れてゐる。一見矛盾のやうではあるが、或る社會に富の性質を帯びたものが多ければ多いほど、其の社會は不幸だと謂ふことが出来る。その矛盾はすぐに解ける。凡そ或る社會の富はその社會の福祉が依存する物の總和ではない、——社會の福祉が依存する物の中には、その社會の有する經濟財と同様に、その社會の有する自由財も含まれてゐるのである。自由財が多くなればなるほど、生活條件が容易になる。經濟財が多くなればなるほど、經濟問題を惹起する貨物の範圍が廣くなり、従つて「富」に關する學問の範圍が廣くなる。

自由財が豊富だといふことは、それ自體に於ては社會に取つて有利であるけれども、必ずしもその最高程度の繁榮と共存するものではない。熱帶諸國及び半熱帶諸國の生活條件は、大體に於て温帶諸國のそれよりも容易である。即ちそこでは、或る種の食物が全く或は殆んど自由



に得られるし、又防寒の準備をする必要がない。しかしその氣候は、その住民の精力を搾取し、又その肉體的活動力と智的能力との發達を阻碍する。だからして温帯地方の住民は、彼等が征服せねばならない障礙そのものから却つて、結局は彼等をより大きな繁榮に導くところの資源をば、自分自身の内に獲得するわけである。個々の人々に就いて見てもそうである。常に豊富な資産を自由にしてゐた者は、往々にして忍耐と意氣とを缺ぎ、従つて結局は、出發點でより困難な事情に遭遇しなければならなかつた者に依つて、富貴に於ても幸福に於ても凌がれることになる。

### 第三節

財は只だそれが稀少なばかりでも經

濟財となり得る、併しそれは通常勞

働を要するが故に經濟財となる。

前節では、富は努力の結果であると謂つた。しかし或る貨物は、たとへ其れが努力なしに得られるとしても、富——經濟財——になる場合がある。例へば或る自然の賜物は、若しその分量が有限であるならば、富となり得る。

隕石は、普通には地球の表面に觸れる前に熱に依つて分解されるが、或る場合には地上に達する。それは、稀少であり、而も今日では科學的探究の爲に、或は單なる好奇心を満す爲にさへも珍重されてゐるから、或る價格で賣れる、従つてそれは、なるほど自然の賜物ではあるけれども、經濟學上の意味での自由財ではない。或る地方の海岸には、多量の海藻が附近の岩から波に依つて打上げられるが、それは肥料として有用である。其の用(Use)は、多數の他の物の用と同じく間接である、即ちそれは、直接には慾望を充さないが、しかし慾望を充す爲の諸作用の補助物である。だから明かに、それはやはり富となり得る。若し海藻が、總ての者がその欲する總てを得られるほど多量に絶えず海岸に打上げられるならば、其れは、嚴密な經濟學上の意味での自由財であらう。しかし、若し其れが惠まれた場所に有限量にしか堆積してゐないならば、そして若し多數の農夫が其れを使用することを熱望してゐるならば、其れは、人がまだ手を觸れぬ先に、海岸に横つてゐるまゝ、或る價格で賣れるであらう。又、嘗ては餘りに多量で只でも賣れなかつたところのその同じ分量のものが、人口の増加に依つて賣買物の範圍内に齎らされ、従つて經濟學が取扱ふところの財の一つとなり得るのである。

自由財の範圍が狭くなり、經濟財即ち富の範圍が廣くなるといふことは、財の稀少が自然的



ではなくて人工的な場合にも同じく現れる。水若しくは材木の供給は、或る一定社會の必要を充す爲には充分である場合でも、暴力や古くからの慣習法に依て、或る個人或は數人の者に支配されるやうになるかも知れない。此の場合にその所有者が、若し他の人々に與へる分量を制限するならば、此等の物はその所有者自身の所得の源となり、従つて、經濟財の目錄に載るに至るであらう。獨占は、それだけで、經濟學が取扱ふべき若干の問題を惹起する。

此のやうな最も簡単な稀少は例外だと思はれるかも知れない、又普通に財或は貨物と看做されてゐる物に關しては、斯かる稀少は實際例外である。即ち前に擧げた例は例外的のもので、大多數の場合に於ては、貨物は、其れを形成する爲に多少の勞働が適用されてから經濟財となる。なるほど稀少(即ち相對的稀少)はやはり、富或は經濟財といふ觀念の基礎となつてはゐるけれども、その所謂稀少は、自然に依つて供給された材料を人間の用に適合するには人間の勞働に俟たねばならぬ、といふ意味での稀少である。勞働若しくは或る種の努力は、常に、經濟現象の根底を爲すところの原因或は條件である。

しかしながら、一大部門の物に對しては、この所説は通用しない、即ち數量を限られた自然的諸能因がそれであつて、土地はその最も顯著なものである。此等の物は、普通には財とも商

品とも呼ばれてはゐない、が併しそれ等は、數量が有限であり而も慾望充足の爲に甚だ有用なものであるから、嚴密な意味での經濟財である。農地、森林、鑛山——これ等は總て往々にして、單に其の數量が自然的に制限されてゐるが爲に經濟財となることがある。此等のものは、幾つかの最も複雑な社會問題や經濟問題を提出するのであるが、それに就ては適當な場所で説明するであらう。

#### 第四節

活動には厭はしいものと愉快なものがある。勞働は通常、繼續的であり、單調であり、厭はしいものである。

何が勞働を構成してゐるかといふことは、簡単な問題だと思はれるかも知れない。大抵の人々は、そんなことは知り過ぎてゐると謂ふであらう。けれどもそれに關しては、經濟學の心髓に觸れてゐるところの、従つてそれ等に對する結語は經濟學の全問題を説明し盡してからでなければ語れないところの、幾つかの問題が起るのである。

或る種の活動は愉快であり、或る種の活動は厭はしい。或る種の活動はそれを遂行すること



の快樂を得る爲に企てられ、或る種の活動は報酬を得る爲に企てられる。しかし此の二つの満足が同時に同一の活動から得られることも珍しくはない、その場合にはその活動は、それ自體が快樂の源であると共に、或る報酬を齎らすわけである。

努力の性質が筋肉的或は精神的だといふだけでは、愉快な活動と厭はしい活動との、或は快樂を得る爲に企てられる活動と報酬を得る爲に企てられる活動との、區別をすることは出来ない。登山のやうな、困難であると共に日に雨に曝されるところの烈しい肉體的勞働が、旅行家に依つては快樂を得る爲に、案内者に依つては報酬を得る爲に、企てられてゐる。競技に従事することは、最も卑近な娛樂であると共に、卑近な一職業である。普通には利得を得る爲に従事されてゐるところの多數の仕事——例へば木細工をし、庭を作り、繪を畫き、劇を演ずること——も、やはり、その遂行が與へる満足を得る爲に、多數の人々に依つて行はれてゐる。

それにも拘らず、人々が生計を營む爲に遂行する活動の大部分が快樂を與へない、といふことは事實である。その主たる理由は、活動が生計を得る爲に有效であるが爲には、其れが規則立つた、變化のない、長く繼續されるものでなければならず、而かも其れが束縛されたもの——この事は重大な意味を有する——でなければならぬ、といふことのやうである。それ自體

が快樂の源となるどころの大部分の活動の特色は、それに新鮮或は新奇といふ要素が含まれてゐること、及び何等の強制も存しないことである。年々山を攀登つてその路を暗んじてゐる案内者は、直ぐにその仕事が煩はしくなる、そして其れは、生計を得る爲には其時の健康や元氣の如何に拘らず自分の足跡を規則正しく踏んで行かねばならぬので、一層煩はしくなるのである。夏休みに例へば嶮山を攀登つて快樂が得られるのは、その登攀に、新奇の興味と自由及び選擇の感じとがあるからである。無爲や怠惰は直ぐ厭はしくなる、しかし、殆んど例外なしに、同一の仕事に絶えず従事することも亦直ぐ厭はしくなる。

野蠻な未開社會に於ては、男は通常、専ら狩獵と戦争とに従事してゐる。耕作とか炊事とかいふ單調な仕事は、女に残されてゐる。狩獵や漁獵は、往々にして最もひどい困難を免れないけれども、それ等は普通には持久的でなく、又大抵の場合には變化や休息に依つて多様化されてゐる。この多様性と急劇な變化とは、競争をする餘裕と卓越の愛著心を満足させる餘裕とを——殺戮をする餘裕をも亦——與へるのであるが、此等の本能たるや、多方面の經濟的活動に於て有力な効果を有するものである。完全な怠惰の期間と熱狂的な活動の期間とが代り合ふ事は、人々がその本能的性向を奔放に満足させてゐるところの初期の社會狀態の特徴である。



文明社會の人類の大群がそれに従事してゐて最大量の生産物を齎してゐる種類の労働は、大抵は継続的な、單調な、従つて厭はしい労働である。此の状態は、分業がずつと精密になつてゐる所では殊に甚だしい。分業の大擴張は、應て説明するであらうやうに、現代に於ける有形財のより大きな豊富と、物質的繁榮の異常な發達とを齎したところの主要な一原因であつた。しかし、それはまた恐らく、大部分の労働に對してより大きな倦怠と無趣味とを齎した一原因でもあつたであらう。或者は大工であり、或者は鍛冶屋であり、或者は靴屋であるといふ風に、今日の分業形態と比較すればより單純であり且つより古い分業形態に於てさへも、必然に作業が規則正しく繰返され、従つて仕事が少ないから單調であつた。しかし今日では、機械が精巧になつた結果として仕事が大變細く分割されてゐるので、一人の職工がその職の仕事の全部をすることは勿論、如何にして其れを爲すべきかを知つてゐることさへも、稀である。彼は、最早完全な靴を作る靴屋ではなくて、毎時毎週機械作業の同一の一小部分に携はるエンプラクトリ一職工である。しかのみならず、人口が稠密であつて財産及び土地の所有權が勵行されてゐる社會では、彼は、命を繋ぐ爲には何か斯かる継続的な労働に従事するの外は無いのである。彼は活動の多様性を缺き、而も自由を缺いてゐる。彼は、競技に於ける熱心な奮闘からは快樂を得る

であらう、が併し、自分の生計を得るための労働そのものからは、殆んど満足を得ることが無い。

### 第五節 或種の労働は常に愉快である

或種の労働は、組織的且つ継続的に之に従事しても、決して煩はしくはならぬやうである。ずつと智的な労働、殊に知識の追求や、周圍の事物に關する飽くことを知らない好奇心の満足に、従事してゐる人々の智的労働の場合がそうである。藝術家氣質の人々——畫家、音楽家、詩人——は、往々にして一種類の活動に對する極めて強い本能的性向を持つてゐるから、何物も彼等をその活動から遮ぎることは出來ず、又何物も決してその努力の快樂を失はしめることは出來ない。又、競争本能を満足させる仕事は總て、絶ゆることなき魅力を持つてゐる。少數の人のみが之を獲得して居り、而も多數の者が之を獲得したく思つてゐるところの物を獲得し得る人は、殆んど自分の仕事に倦むことが無い。俳優は、たとへその仕事は最もつまらない些事の單調な且つ永續的な繰返しを免れないとしても、その觀客の固唾かたつを呑んだ靜寂や百雷の如き喝采に依つて、必ず身にしみる快樂を味ひ得るのである。若し彼が、冷淡な監督者の冷い監



視の下で、而もその監視の下でのみ、自分の役割を終演することをたび／＼厳しく強制されるならば、それは如何に單調な且つ氣の抜けたものになることであらう！ 同様の理由で、指導や指揮の仕事は、殆んど常に、継続的に愉快である。それは卓越の愛著や支配の願望を満足させる、而もそれは、本當の或は外見上の自由といふ要素を持つてゐる。だからして雇主の仕事は、一般に、被傭者の仕事よりも、多くの満足を與へる、従つてそれは往々にして、習慣に依つても然るが如く只だそれを遂行することの愛著のみに依つて、その努力から得られる報酬即ち利潤が有難くなくなつた後も長く繼續されることがある。

斯かる例外があるからとて、我々は、此の世界の労働の殆んど大部分が愉快なものではないといふ事實を見通してはならない。或る改革者達は、總ての労働がそれ自體満足之源となるべき社會組織に到達したいものだと思つた。斯かる人々が、彼等自身の所爲の性質に依つて樂天的になつてゐるのは、尤もなことである。彼等は著述家であり、企圖者であり、改革者である、彼等は通常大變利他的な性質を持つてゐて、何でも義務或は受持つた仕事を爲し遂げることに依つて、その厳格な良心の満足を得てゐる、そして彼等は、全人類を自分と同じ精神で労働させ得るものと信じてゐるのである。若し彼等の心持を普遍化することが出来るならば、此

の世界はすつとより幸福な場所となるであらう。しかし大多數の人々は平凡の徒であつて、彼等は何等特徴のある性向も、何等高尙な人格も持つて生れてはゐない。そればかりでなく、我々の緊要な欲望を充す爲に行はれる此の世界の労働の大部分は、單調な、而も往々にして手荒な且つ下品なものでなければならぬ。例へば溝掘りや穴掘り、種蒔きや刈入れ、槌で打つことや鋸で挽くこと、といふ風に、凡ゆる烈しい肉體的な努力が爲されねばならぬのであるが、此等の努力は、道具や機械に依つて如何に輕減されても、やはり決して労働——この言葉の普通の意味に於ける——以外のものとはなり得ない。

以上は、現時の労働が、機械の使用の發達と労働の専門化の發達とに影響せられて、より甚だしく單調になつてゐることに説き及んだのである。しかし、此の點に於ける變化の範圍は容易に誇張される恐れがある。ラスキンは、美と特色とを具へた労働の悦びを味ひ得たところの、中世紀の職人の仕事の魅力を絮説してゐる。しかし乍ら此の悦びを味ひ得た者は、中世紀に於ても或は他のどの世紀に於ても、恐らくは殆んど無かつたであらう。當時に於ても今日と同じく、大抵の仕事は同一の作業の反復を免れず、そして其れは退屈な且つ強制的なものだと思はれてゐた。我々の社會とは組織が甚だしく異つてゐるところの、昔の社會に於ける生活



状態を描くことは、我々に取つて容易なことではない、しかし當時の人類の大群の仕事が、大體に於て、今日の其れと比較して愉快でも容易でもなかつたといふ事は、間違のないところであらう。

### 第六節

大抵の労働の厭はしきは労働に對する

世の一般の見解を改善することに依つて、又労働時間を短縮して餘暇をより多くすることに依つて軽減される。

人類の物質的條件が——殊に先進文明諸國に於て——改善されるにつれて、普通の労働の厭はしきは軽減され得るであらう。その社會に於ける輿論の變化だけでも、幾らか緩和されるであらう。優越感は、努力からの満足に影響する。稱讃される仕事は誘引的であり、輕蔑される仕事は非誘引的である。より恵まれた階級の人々は、一般に、手工労働及び其れを遂行する人々を久しく蔑んで來た。奴隸制度及びその後を繼承して現れたところの封建制度を基礎とせる諸々の社會に於ては、之が自然の態度であつた、そして之は未だに、現時に於て封建制度の

特徴の多くを眞似してゐるところの、かの有閑階級(Leisure class)の殆ど常の態度である。が段々と進みつゝある社會の民主化は、此の態度を變化し、且つ筋肉的たると精神的たるとを問はず、あらゆる種類の労働の威嚴と自尊とを高めるであらうと思はれる。相異なる諸階級間に於ける移動がより容易になればなるほど、また此等の階級の條件がより平等化すればするほど、あらゆる種類の筋肉労働に對する尊敬の度が高まるであらう、そして、今日其れを厭なものとするに與つて力あるところの諸原因の内、少くともその幾つかのものが除かれるかも知れない。

さりながら、労働の厭はしさをば恐らくは軽減するであらうところの主要な方法は、労働の性質或はその内在的誘引性の變化に依るものではなくて、その苛酷さの軽減に依るものである。労働の厭はしきは、多分、道具が段々と完全になり又機械が段々と多く使用されることに依つて、軽減されるであらう、——なるほど他方から見れば、此の原因からして、労働の單調さが何等軽減されずして恐らくはより甚だしくなるかも知れないけれども、より重要なのは、労働時間が短縮され、且つそれに應じて休息と變化とを得る爲の時間が延長されようだ、といふ希望である。労働の倦怠は、決して其れに費される時間の數に比例してはゐない。健康な者として榮養の充分な者に取つては、初めの數時間の努力は疲勞の源とはならない。或る學者達



は、この初めの數時間——といつても調子の悪い初めの一寸の間は除けねばなるまいが——に於ては、苦痛よりは寧ろ快樂が感じられる、と實際に主張してゐる。智的活動及び或る種の手工業に於てはそうかも知れない、又それは、休日の遠足に於てよく經驗するところである。しかし直接の快樂意識は、大多數の人々の指定された仕事からはそのどの階段に於ても、殆んど生ずることが無い。彼等の一日の勞働の初めの部分と後の部分との間の差は、前者は愉快であつて後者は不愉快であるといふほど甚だしいものではなくて、數時間経つまでは疲勞を感じて來ないが、それから時間毎に段々ひどく疲れて來る、といふくらひのものである。若し勞働時間を過度に延長すると、疲勞が極めて甚だしく且つ根本的になつて來るから、休息と睡眠との時間がその疲勞を回復するに足りなくなる。その翌日は疲勞したまゝで復た勞働を始め、かくして段々と疲勞を増すわけである。英國の初期の工場制度の結果がそうであつた、露西亞のやうな後進國に於ける状態は今でもそうである。此等のひどい状態に於ては、一日の勞働が十一時間、十二時間、甚だしきは十四時間に亘つてゐる。今日の合衆國に於ては、晝夜兼行で作業してゐる製鋼業の幾つか、各々十二時間の勞働時間より成る二交替制を採つてゐる。若し斯かる工業に於て、二交替制の代りに三交替制を採り、その各々の勞働時間を十二時間から八

時間に短縮するならば、勞働者の生活は非常に向上して可なり幸福になるわけである。

勞働時間短縮運動は、過去二三代を通じての文明諸國に於ける物質的條件の改善に關する、最も慈惠的な一側面であつた。一日の勞働時間は先づ十一時間と十時間とに短縮されたが、それは一つには勞働者團體の強要の結果であり、二つには工場に雇はれてゐる婦人及び子供の勞働時間制限法の結果であつた。それは今なほ短縮の過程に在る。勞働組合の理想とするところは、現在では、それを八時間に短縮することである、この制限は、より順調な且つ勞賃の高い職業に於ては既に實行されてゐるが、恐らくは段々と大部分の筋肉勞働者に依つて獲得されるやうになるであらう。我々は後段に於て、此の勞働時間短縮の意義、それに依つて得られる利益の性質及び原因、並びに勞働時間短縮運動に附隨して生じたところの若干の謬論を考究する必要がある。しかし人道の友たる者は誰も皆、この運動そのものに對しては同情しなければならぬ。

勞働の厭はしさを——適度の勞働時間と適度な仕事、休養するための自由な時間、あらゆる種類の勞働に對する合理的な尊敬に依つて——どんなに輕減しても、此の世界の勞働の大部分はやはり厭なものだと思はれるであらう。幸運な少數の人々の仕事は、それ自體が愉快なもの

1) 第六篇第五十八章參照。



であつて、それを遂行する主たる目的はそれが齎らす所の報酬ではないかも知れない。しかし大部分の仕事は、今日では報酬を得る爲に受持たれて居り、報酬なしでは遂行されそうにも無く、而もその報酬に比例して熱心に且つ上手に行はれてゐるのである。人類の大部分は、なるほどその労働は厭はしいものではあるが、それでもやはり、全く何もせずに居るか或は野蠻人の氣に入るやうな氣まぐれな努力のみをしてゐるよりは、より幸福だといふことは疑も無く事實である。しかし、労働は一般に苦しいものだと思はれてゐるので、其れに依つて得られる報酬は其れが受持たれる爲の主要な動機である。經濟學上の根本問題は、厭がられる努力とその努力を誘致する報酬との間の關係に、關聯してゐる。

## 第二章 生産に於ける労働に就て

### 第一節 初期の英國派經濟學者は有形物に費

された労働のみが生産的だと思へた。  
この見解に對する駁論。

労働の生産に對する關係は單純だと思はれるかも知れない。けれども其れは、從來鋭敏な思想家達の間大きな見解の相異を惹起したものであり、又今でも若干の解決し難い問題を提出してゐる。

我々は通常、裁縫師は衣服を作り、大工は机を作り、靴屋は靴を作る、と謂つてゐる。大抵の卑近な句がさうであるやうに、此の句は言葉が省略されてゐる、だから其れは誤解を生じ易い。裁縫師の労働は實は、長い一系列の人々——羊群を世話した牧羊者、羊毛の剪取人、海陸路羊毛を輸送した人々、毛梳職工や紡績職工や織工、及びいふまでも無く此等の労働者の道具や機械を作つた人々——に依つて豫め爲されてゐる仕事の仕上をするに過ぎない。同様に大工



は、一つの共通の目的に向つて働いた人々——森林に於ける木挽、製材所に於ける木挽、鐵道に於ける制輪手や機關手といふやうな人々——の一系列の最後の者である。最も簡単な貨物でさへも、其れを作るためには長い一系列を爲してゐるところの多數の労働者が合力してゐるわけである。

しかし諸々の貨物を生産する者は誰かといへば、それは明かに、一纏にした此等一切の労働者である、そこで、此等の労働者のみが富の生産者である、とは謂へないであらうか。余はさきに、富は自由に得られない財から成立つと謂つた。此の富なる言葉は元來、手に觸れることが出来且つ有形である物を指してゐる。ところが多くの労働者は、此の意味の富は何も生産しない。召使、巡査、俳優、歌手、教師がそれである。彼等の仕事の生産に對する關係と、有形物を作り従つて生産を此の言葉の普通の意味で遂行する労働者達のそれとは、その趣を異にしてはゐないだらうか。

これは、多數の初期の經濟學者——殊にアダム・スミスからジョン・ステュアート・ミルに至るまでの英國派經濟學者の意見であつた。彼等の見解はこうであつた、——有形物を生産するやうな労働者のみが生産的であり、その他の労働者は總て不生産的である。なるほど彼等は、その

生産的労働者に關する定義を廣く解釋した。即ち生産的労働者の中には、嘗に直接に材料を取扱つて其れを形成する労働者——例へば日雇労働者、大工、鍛冶屋——が包含されたのみならず、生産活動を指導し且つ鼓舞する人々——例へば筋肉労働者を指揮する雇主、職工長や技師、教師を養成する教師——も亦包含せられた。若しかういふ風に考へるならば、初步の教育でも其れが普及すれば理解力を高め従つて能率を増進するといふ限りに於て、最も下賤な労働者の教師でさへも、或は物質的生産活動に貢献してゐると看做されるかも知れない。しかし解釋の最も廣い範圍を以てしても、種々雑多な仕事に従事し且つそれに依つて生計を得てゐるところの、或る大きな範圍の人々は、やはり謂ゆる生産的労働者の階級には入れられなかつた。單なる娛樂を供給する人々はいふに及ばず、召使、辯護士や裁判官や巡査、總ての陸海軍人——此等の人々は不生産的だとして類別された。アダム・スミスが注意した様に「同一階級〔不生産的労働者の階級〕の中に、最も神聖な且つ最も重要な職業の若干——例へば牧師、辯護士、醫師、あらゆる種類の文人——と、最もつまらない職業の若干——例へば俳優、<sup>道七者</sup>幫間、音樂家、歌手、踊子——とが共に入れられねばならない」のであつた。

此の生産的労働者と不生産的労働者との區別は、夙に攻撃せられ且つ久しく論争せられた。



此の區別は、尊敬さるべきものと認められ且つ屢々必要缺くべからざるものと思はれたところの仕事をしてゐる人々の全階級に對し、或る種の汚名——此等の人々は無用であり、他の人々から扶養されねばならぬといふ非難——を負はせるやうだ、といふことが指摘された。しかし之は結局重要なことではなかつた。或る「不生産的」な仕事が尊敬すべきものと認めらるべきか否かは兎にかくとして、肝要な問題は、此の種類の仕事と社會の福祉の爲に重要な他の種類の仕事との間に差異があるか否か、といふことであつた。——又現在に於てもそうである。このことは、生産的労働と不生産的労働とを區別することが諸々の難問題と矛盾を生じたので、殊に肝要であつた。音楽家は不生産的労働者だと看做された、それなのに彼の樂器——彼のヴァイオリン——を作つた工匠は生産的労働者であつたか。なるほどそのヴァイオリン製造者の労働は、有形の富即ちアダム・スミスが謂つたやうに「賣れる貨物」となつた。けれどもその労働の唯一の目的は、その音楽家に依つて使用される樂器を作ることであつた、従つて此の音楽家と樂器師とは、丁度、羊毛剪取人と織工と裁縫師とが衣服を作る爲に合力してゐるやうに、一つの共通の目的の爲に合力してゐるのだ、と看做するのが矛盾の無い見方ではなかつたか。又斯くして共に同一の目的の爲に働いてゐるとしても、一方を生産的、他方を不生産的として區別す

べきであつたらうか。陸海軍の全成員は不生産的労働者として分類された、けれども軍艦を建造し、銃砲や火薬を製造する人々は生産的だと考へられた。若し前者を不生産的だとするならば、何故後者もそうしないのであるか。

## 第二節

労働は效用を創造するに過ぎない、

效用に結果する労働は總て生産的で

ある。無形の富があるだらうか。

此等の難問題の解答は、一つの觀念——それは、英國の經濟學者達が他の諸方面に於ては援用したけれども、彼等の生産的労働論に關聯しては不思議にも容易に利用しなかつたものである——に依つて表はされてゐる。此の觀念に於ては、生産の究極の目的として満足或は效用が擧げられてゐる。生産をばその目的が效用に在るものとして分析することに依つて、如何に經濟學が種々の方面で利益し且つ屢々統一と首尾一貫とを得てゐるかといふことは、研究を進めるにつれて説明するであらう。

若し、大工は机を「作る」と謂ふのが誤解を生せしめる語法であるとすれば、或る一團の



系列を爲せる労働者達が何か或る物——それがどんな物であらうとも——を「作る」と謂つても、その趣こそ異れ矢張りそれは誤解を生せしめるわけである。柚、木挽、鐵道従業員、大工——此等の労働者そのものは、此の世界に於ける物質の量を増加することは出来ない。人間が爲し得ることの總ては、その形状や組合せを變へることである。そしてまた丁度それをやつてゐるのである。即ち人間は諸々の有形物を形作り、また作り變へてゐる。彼は有形物をば、それが彼の欲望を充すに役立つやうな形態にする。大工や、裁縫師や、料理人の仕事の性質は明かにそうである。我々が「材料生産者」と呼ぶ人々に就て見ても矢張りそうである。人間は植物から、その食物の最大部分とその使用する材料の大半とを得てゐるが、此の植物はその構成分子をば土壤と空氣とから得てゐる。そして植物に就て人間が爲すことは、諸々の條件をばその成長に都合のよいやうに配列することである。人間が使用する鐵物は、地殻の中に在る一定量の貯藏物である。石炭が生産されると謂ふ場合には、我々は、それが地上に齎されて我々が使用し得るやうになることを意味する。

人間が效用或は満足を齎す方法は澤山ある。即ち人間は、常に植物を栽培し、石炭、鐵、銅を鑛山から採掘するばかりではない、又雷に、此等の原料を形作つて其の相異なる諸々の用に

適合させるばかりではない、——人間はなほ此等の物をば、所々方々、時としては極めて遠方に輸送する、そして其處で此等の物が人々の手に入り、遂にその人々の欲望を充すのである。此等の物は商人達に依つて、一組の人々から買はれて更に他の一組の人々に賣られる、そしてこの商人達の間には分業が行はれてゐて、或る者は卸賣で買つて更に小賣商人に賣り、此の小賣商人は更に又、此等の商品をその顧客に賣るのである。「場所的效用」(“place utility”)といふ言葉が、輸送及び取引に従事してゐる人々の貢献を表はす爲に用ひられてゐる、そして此の言葉は、此等の人々が、なるほど商品を形作りはしないが、矢張りその利<sup>ユティリティ</sup>に貢献してゐるといふ事實を明かにするに役立つてゐる。

さて、生産の本質はそれが満足或は效用を生ずるといふことであるから、やがて、效用を生ずる労働或は努力は總て生産的だといふことになる。その演奏に依つて我々に快樂を興へる音楽家は、數時間の間保つ花を作る花屋と、全く同じ種類のことをしてゐるわけである。召使は、我々の住居に家具を供給するところの工匠と同様に、我々の安樂に貢献してゐる。疑も無く、相異なる諸々の労働者に依つて供給される入用品の重要さには等差がある。生活必需品は最も重要である、便宜品及び贅澤品はその次に位する、そして此等の等差は、後に説明するで



あらうやうに、諸々の経済的重要を有する。しかし其れは、我々の現在の目的のためには重要でない、それは、效用を有形物に具體化する生産者と、そうしない生産者とを區別する爲の根據とはならない。若し我々が、諸々の生産者の内幾人かの勤勞を省かねばならぬとすれば、我々は、先づ容易に節約されるものとして、アダム・スミスが不生産的勞働者として擧げたところの幫間や踊子を廢する事が出来る。併し我々はまた直ぐに、歌劇の背景畫家、やくざな書物の印刷者、飽の來る甘い菓子類や有害な酒類の製造者をも廢する事が出来る。又若し之に反して、我々はどんな生産者を最後まで保持すべきかといふことを定めねばならぬ場合には、我々は、雷に生存に缺くべからざる有形物——食物、衣類、住居——を供給する人々のみならず、我々の健康を保持する醫師や、文明の基礎を爲すところの教育を維持する教師をも選り出すであらう。必要缺くべからざる物と無くても濟む物との差別は、決して、效用の有形的資源と無形的資源との差別と同じものではない。

そこで我々は結論する、諸々の慾望を充すところの勞働に従事する者は總て——満足或は效用を齎す者は總て——生産に關與してゐると看做すべきであり、従つて生産的勞働者と呼ぶべきである。確かに、どんな詭辯を弄しても、有形の富を形作る人々と他の種類の效用を齎す人

々との區別からは、經濟學上重要な結論は何も出て來ない。凡そ或る區別若しくは分類の價値標準は、その區別若しくは分類に基く或る一定の部門に入れられた物に關して、その部門以外の物には通用しないところの重要な命題を設けることが出来るか否か、といふことである。

此の結論に依つて我々はまた、一つの類似の問題——無形の富なるものがあるだらうか、といふ問題を片付けることが出来る。かの古い命題を否定した人々——效用を有形物に具體化しない勞働もやはり生産的だと主張した人々——は屢々、「無形の」富のやうなものが有ると主張した。この言葉は確かに、普通の語法とは一致してゐない。我々は通常、富とは何か保存し且つ蓄積し得る物だと考へて居り、又富といふ言葉に依つては手に觸れ得る物を意味してゐる、そして富なる言葉を此の意味に解するに於ては、無形の富と謂ふことは用語上の矛盾である。しかし我々が、かのより專問的な従つてより正確な言葉、即ち「經濟財」といふ言葉を用ふる場合には、我々は、人間の諸々の慾望を充し且つ自由には得られないところの、一切の物及び勤勞を包含する。アダム・スミス及びその後繼者達に依つて不生産的勞働者と呼ばれた人々の勤勞は、此の項目に這入るのである。其れは所望され且つ珍重され、時には甚だしく珍重されてゐる、そして其れは人間の努力に依つて生じてゐる。此等の努力に依つて得られる報酬は經濟



學上の重要な題目であり、又此等の努力に依つて供給される效用は、最後まで分析すれば社會の所得を構成するところの、效用の總和中の重要な一部分である。若し我々が富なる言葉に依つて、經濟問題を惹起するところの總てのものを表はさうとするならば、我々は、此の言葉の内容を「經濟財」なる言葉の内容と同じところまで擴張せねばならない、そしてそうすれば、無形の富と謂つても差支ないであらう。

### 第三節

不生産的な労働といふやうなものが  
あるだらうか。有害な物に費された

労働。

用語を斯くの如く解釋するならば、その結果として、一切の労働が生産的労働の部門に屬することになる、と思はれるであらう。若し、管に肉屋や麵麩屋のみならず、理髮師やヴィオリン弾きも此の部門に這入るものとすれば、誰か不生産的労働者と看做さるべき者が残るであらうか。

明かに、若干の人々は生産的活動の範圍外に居る。乞食、盜賊、詐僞師、やくざのもの——此

等の者は寄食の徒である。盜賊や詐僞師は往々猛烈に——繼續的にすることは少いが——努力する。しかし彼等の活動は全く掠奪的である。彼等は社會に對して何も寄與しない、彼等はたゞ、他の人々の物を奪はうとするに過ぎない。だから、彼等の努力に對して「労働」なる言葉を適用すべきか否かは免にかくとして、それが生産的労働と呼ぶべきものでないことは確かである。

法律に違反せずに又意識的過失なしに營まれてゐるが、確かに如何はしく見わたるところの若干の労働に關しては、一種異つた問題が起る。その調劑者が有害だと知り、或はよくても無害無益だと知つてゐるところの諸成分を含む詐僞的の藥が、虚偽の廣告の宣傳に依つて廣く使用されるやうになるかも知れない。其れを調劑し、且つ其れに關する虚偽を根氣よく流布する爲に献げられた労働は、満足を與へる物を生産するもの、従つて生産的労働と看做さるべきものだと言へるであらうか。

猶一種異つた他の例を取て見るに、殆んど總ての社會に於て酒類の生産及び販賣に費されてゐるところの労働に關しては、何と説明すべきであらうか。生理學者間の定説に依れば、此等の興奮劑は弱いものを用ふれば大した害はないであらうが、強い酒を用ふると非常に有害だと



のことである。貧困と罪惡との非常に多くが酒類の使用の普及から生じてゐること、過去數十年間に於ける酒の消費量減少が人類の改善を齎したこと、若し泥酔を根絶し得るならば此の世界が遙かにより幸福な場所となるに相異なること、——此等のことは確かである。ところで斯くの如き有害物の生産に費された勞働に關しては、經濟學者はどう説明すべきであらうか。

此等の場合は區別して考ふことを要する。それは、詐偽と瞞著との場合であるかも知れない。又それは、誤り導かれた慾望ではあるが、矢張りその慾望が本當に感じられ且つ本當に充されたといふ場合であるかも知れない。

詐偽と瞞著とは、或る人が、その期待し且つ期待させられたものを獲得しないことを意味する。普通の賣却に於ては、賣手は法律に依つて、その賣却品の質に關する保證を爲すべきものと看做されてはゐない、即ち、*caveat emptor* (買手をして用心せしめよ) である。しかし、保證或は保證に等しい細密な説明がされてゐる場合には、その買手は法廷に於て賠償を得るのである。

法律に依つて爲されてゐる區別は、大體に於て經濟學者が爲さうとする區別である。その詐偽的な薬は、一服の味を付けた水或は化粧したアルコールであるかも知れない。しかし、その

買手が此の種の物を欲して居り、且つ其れが役に立つであらうと考へるが故に其れを買ふ限りに於ては、その調劑者は満足を與ふる物の總量を増加するわけである。その買手が或る物を欲して居り、而も欺かれて何か他の物を買はされた場合には、譯合が別になる、何となればその場合には、彼が感じた慾望が充されないからである。その買手が、自分の欲する物が何であるかを適確に知らないで、口車に乗せられて何か賣手が賣らうとしてゐる物を買はされた場合には、その中間の譯合になる。この場合には往々にして區別することが困難である。その買手は愚なのであるか、或は騙られたのであるか。その賣手は全く偽をいつたのであるか、或は單に誇張して自分の商品を稱讚したに過ぎないのであるか。法律が爲し得ることは、この事情の闡明を援けることである、そして此のことは、誤解の結果が重大な場合に殊に必要である。それ故に、純良食物法及び純良藥劑法、並びに賣藥の調合藥劑をその貼紙に精確に記載することを命ずる法規が、出來てゐるのである。

慾望が本當に感じられ且つ本當に充された場合には、その満足を齎す勞働は、經濟學者に依つては生産的だと判決されねばならない、而も此のことは、たとへその最後の結果が有害だつたにしても同じことである。居酒屋の亭主は、たとへ不幸をひき起し勝ちな物を調達するには



しても、やはり生産的労働者である。もし人類の福祉に及ぼす最終の效果に關する諸々の考察に這入るならば、嚴正な經濟學の範圍内の問題とは趣を異にするところの多くの問題が起つて來るに相違ない、これ等の考察は、若し總ての場合に於て根氣よくこれに従事するならば、殆んどあらゆる方面の智識に亘るに相異なる。生理學者の中には、肉は人々の嗜好するものではあるが、營養には不必要であり而も屢々病氣の一原因となる、と信じてゐる者がある。又或る生理學者達は、茶や珈琲のやうな刺激物は惡結果を生ずるものであり、我々の健康と幸福とは此等の物を節制することに依つて増進される、と主張してゐる。此等種々の主張者と革新者とを裁判することは、經濟學者の本務に關するものではない。或る物を買ひ若しくは或る勸勞に對して支拂をする人が本當に其れを欲求してゐる限りは、その人にその満足を與へるところのその労働は生産的労働である。經濟學者の與り考察することは、如何なる労働が此の意味に於て生産的であつて如何なる労働が然らざるか、といふこと及び、人々がその諸々の欲望を充す爲に試みてゐるところの諸々の活動のいろ／＼の様子及び結果はどうであるか、といふことである。

専門の賭博者の場合には、生産的——たとへ道徳的には如何はしくても——な労働と掠奪的な労働との間の嚴密な區別を要するかも知れない。例へば、モンテ・カルロに於けるかの贅澤

な賭博場の維持者達は、一方では、殆んど本能とも看做すべき程に普遍的な一六勝負の愛好心に對する御用達をしてゐるに過ぎない、と看做すことが出来る。彼等が此のことをしてゐる限りでは、——その賭博行爲が彼等の顧客達に取つて愉快なものである限りでは、——彼等は、たとへ永久の福祉の爲には斯かる賭博欲の抑制されることが望ましいにはしても、一つの満足を與へる物を供給してゐるわけである。他方に於て、兩當事者——賭博臺取締と賭博者と——が、單に互に相手の金を取らうと試みて勝負事そのものは之を顧みない限りに於ては、双方の活動は共に掠奪的である。丁度どの動機が賭博者の賭の基礎になつてゐるかといふことは、嚴密な心理的分析を要する問題であるかも知れない。疑も無く、此の二つの區別し得べき動機——勝負事の愛著と他人の金に對する貪慾と——は、よく結合されてゐることがある。が勝負事の快樂は顧みられないで貪慾のみが作用してゐる場合も、確かに澤山ある、そしてこの場合には、その賭博場の維持者はたゞ掠奪的であるに過ぎない。

今や我々は、一寸前に考察したやうな品物——有害な結果を與へるかも知れないところの、藥劑と酒精と——に立ち歸つて、或る一定種類の労働が生産的だと謂ふこと、其れは是非實行さるべき労働だと謂ふこと、の間の、明白な差別を注意することが出来る。或る欲望は労働



に依つて充されるかも知れないが、それに依つて幸福——否、最高の性質の幸福が増進されることは限らない。法律は、競馬や賭博、或は酒の製造及び賣却をば、斯かる満足と與へる物は一切之を人々に與へぬに如くはないと考へられてゐるが故に、禁止するかも知れない。此の種の禁止法を制定すべきか否かは、くり返して謂ふならば、極めて廣い範圍の諸問題を惹起するわけであるが、經濟學者は、此等の問題の解決に對しては疑もなく貢獻することが出来るけれども、其等に關する結語を述べることは決して出来ないものである。或る勤勞を生ずる勤勞は、經濟學者の見地からすれば嚴正に生産的であるかも知れない、しかし其れは、實行されない方がよいところの生産的勤勞の一種であるかも知れない。

#### 第四節 裁判官と辯護士の勤勞、軍人の勤勞

勤勞。

我々が「生産的」といふ言葉に付する意味は、なるほど嚴肅且つ重要ではあるが矢張り不生産的だとアダム・スミスに依つて看做された職業の一つ——即ち法律業に依つて、一層よく例證される。我々は辯護士と、裁判官、巡査、獄吏とを合せて一團とすることが出来る。或る意味に

於て、彼等の勤勞は必要でない。彼等は直接には、有形財の生産の、或は消費者に勤勞又は效用を提供することの、助けとはならない。彼等は、諸々の生産過程に對する直接貢獻要因であるよりは、寧ろ已むを得ない助手である。若し總ての人々が正直であり、誠實であり、公正な心の持主であり、公平な仲裁者の裁定に快く直ちに從ふならば、法律を業とする人々及び之に附隨してゐる總ての人々の仕事は省かれるに相違なく、或は少くとも取るに足らぬ程度に縮小されるに相違ない。若し徳行が普遍的になれば、巡査や獄吏は跡を絶つに相違なく、又辯護士は殆んど或は何も仕事が無くなるに相違ない。けれども、複雑な社會に於ては法律を業とする人々の仕事——人間の性情が現在の儘である以上は——必要缺くべからざるものと爲ることが、總ての者の經驗に依つて明かである。財産が蓄積され且つ不平等となるにつれて、人々の間の交換が増加するにつれて、別々の人々間の精密な關係が法律に依つて注意深く定められるやうになるにつれて、その複雑な制度を解釋する仕事は別個の職業者の手に移されることになる。争論の決定は裁判官に委任され、事件の秩序立つた處理は辯護士の忠言に依つて助けられ、法律の遵奉は警察に依つて勵行される。疑も無く、不出來な法律制度は、より立派な制度の下で足りるに相違ないよりも、多くの此の種の勤勞を必要とする、従つて公平な觀察者



は、我々の現代社會の法律が出来ただけ有効に作用してゐるか否かを疑問とせざるを得ない。しかし或る拙劣な手段でも、なるほど其れはよく適合された手段よりはより多くの勞働を要するけれども、やはり有用である。

同じやうな考察が陸海軍にも當嵌まる。軍人の仕事の直接の目的は破壊である。彼は、その社會の他の人々に依つて扶養されねばならない、彼は、その社會の幸福に對し直接に貢献するわけではない。けれども軍事的保護は、殆んど全歴史を通じて、産業を引續き平和に營んで行く爲に必要缺くべからざる一條件であつた。軍人は巡査と同様に、人間の悪い激情のために必要なのである。又、防禦が必要でなく、従つて武備が國家的虛榮心或は馬鹿げた張合ひから維持されてゐる場合でさへも、軍人はやはり、國民がして貰ひたいと思ふこと従つて國民が報酬するところのことを遂行するといふ意味で、生産的勞働者と看做されねばならない。陸海軍は危険な玩具に過ぎぬかも知れない。しかし、若し人々が下品な裝飾品や下等な娛樂に對して支拂ふならば、それもやはり、陸海軍を維持することに劣らず馬鹿げたことである。人々の嗜好の價値を判斷することは、經濟學者の役目ではない。

實際場合に依つては、軍隊は、經濟學者の見地からすれば明かに不生産的である。其れが全

然侵略のためのみに使用される場合がそうである。海賊は明かに生産的勞働者ではない。ところが不幸にも、歴史上の英雄の多くは海賊と擇ぶところが無かつた。ナポレオン一世の軍勢は、その侵入した至る所で貢物を徵發しつゝ、歐羅巴中を雲霞のやうに押し廻つた。ナポレオン時代の戦亂が起つたのに就ては、根深い歴史的勢力が與つて力あつたことは疑ひ無い。古い封建的社會秩序と、佛蘭西革命につれて起つた新しい社會秩序との間には、多少の衝突は免れ難いことであつた。しかしその衝突は、ナポレオンの支配的精神の爲にその終りの頃に於て、一方では單なる侵略と化し、他方ではその侵略に對する蕩盡的防禦と化した。その防禦は必要であつた、けれどもその侵略と防禦とに用ひられた一切の努力は、之を最後まで分析すれば勞働の無益な適用であつた。

此の軍事問題考察の方法が、我々の仲間である經濟學者の誰かに依つて淺薄だと判斷されてはならないから、——恐らく多くの獨逸人はそう考へるであらう、獨逸人の當代の文明に於ては戦争に對する準備が極めて大きな役割を演じて來たのである、——此の問題の單なる經濟的方面のみが考察さるべき唯一のものではない、といふことを附言して置かう。此の問題に關しては、全く一經濟學書の範圍を超越したところの、複雑な政治問題や社會問題が現れて來るの



である。如何なる種類の題目と雖も、一部分経済的なる問題を他の見地からもよく考察するの必要をば、此の題目よりも明白に示してゐるものはない。経済學上のみの問題としても、人類の産業的進歩は屢々不思議な方法で進んで来た。文明は、南北戦争に於てのやうに、火薬馬車に乗つて進んで来たのである。また侵略そのものが、時にはより幸福な結果を生ずることがある。英吉利人は最初、全く掠奪する精神で印度を占領した。しかし彼等の統治は、今も變らぬ暴力に據りつゝ、その土著民族の物質的福祉を大いに増進した。又文明國民間の争闘に於ても、やはり、その原因が何であつたかは兎にかくとして、一見理由の無いやうな戦争から屢々より進んだ秩序とより高い繁榮とが生れ出た事がある。總ての賢明な讀者は此の種のことを想ひ浮べて、軍備と戦争とが、生産的労働なる概念の基礎となれる原則に對する關係に就いて茲に述べたところを、制限し且つ判断するであらう。

### 第五節 掠奪的労働。『ビジネス』。法律と不生産的労働。

或る種の活動が生産的なりや否やといふことに就いては、考察すべき問題がまだ残つてゐる。

即ち、現代の社會に於て遂行されてゐる取引行為の中に、何か不生産的だと判断されるべきものがあるであらうか、といふ問題である。

不徳な輩が瞞され易い人から表向きは「放資」或は「投機」の爲に資金を出させて、よい頃にその金を持つて逃亡する場合には、その輩の労働は、なるほど組織的であり且つ奮闘的であるかも知れないが、明かに掠奪的である。嘗に彼等のみならず、彼等が雇つてゐる書記や助手も亦（その共犯たるを無罪たるとを問はず）不生産的である。そこで次のことが主張される、——明かに掠奪的であつて法律に依つて犯罪とされる活動の範圍外に、その経済的結果は實質上同じく掠奪的であるところの活動が、法律の認めた範圍内にも有るのである。此のことは、もし卑近な一例を取るならば、一般の投機的取引に就て主張される。我々のよく組織立つた近代社會に於ては、非常に多額の賣買が、市場に於ける金儲けの機會を當てこんで行はれてゐる。或る人は、その欲しくも無いところの、又決して手にすることも無いところの、小麦や綿花を買つてゐる、そして彼は、若し價格が騰貴すれば直ぐにその名義上の權利を賣つて、謂ゆる利潤を懐にするのである。斯かる取引が效用の總和に對して何等かの寄與をするであらうか。此の場合に於ては、トランプや骰子での賭博に於ては一要素となるかも知れないところの、勝負事に



伴ふ快樂は取るに足らぬ役割しか演じてゐない、と臆断し得る、その動機は、たゞ何とかして金を儲けることに過ぎない。此の種の最も顯著な活動が株式取引所で行はれてゐる、——そこでは賣買が、生産或は社會所得に貢献するところの之といふ効果も無しに、非常に旺んに行はれてゐる。此の取引には込入つた装置——仲買人、番頭、役人、それ自身の定期刊行物——が必要である。ところが單なる詐欺師の番頭が不生産的勞働者であるやうに、仲買人の番頭も、若しその仲買人自身が寄食階級の者だとすれば、やはり不生産的勞働者でなければならぬ。

しかし此の種の主張は一層押し進められた。普通に「ビジネス」と呼ばれてゐるもの、大部分が、同じく輿論に依つて禁止されるやうになつた。當に通常投機業者と呼ばれてゐる人々のみならず、不動産を「賣買」する——利潤を得るために土地を賣買する——人々、及び株券や債券を「取扱ふ」銀行家達も亦、單なる寄食者だと謂はれてゐる。否、あらゆる種類の一切の實業家が、社會主義學者に依つて、實質的に不生産的——即ち、彼等が直接に管理及び監督の仕事をしてゐない限りに於て——だと宣告された。「ビジネス」は此等の學者に依つて、他の人々の無智或は弱點に乗じて利益を獲る一方法たるに過ぎないと裁断され、従つて社會に取つては無用だと宣告された。

茲に擧げた諸問題に就ては、若干の極めて複雑な事柄を考察してからでなければ、解答することが出来ない。しかし、此等の問題を取扱ふべき方法及びその得られるべき解答の性質は、なるほど後段の結論を幾らか豫想してゐるが、茲に之を示すことが出来る。ところで、不生産的だと思はれてゐるところの一組の活動の一つ——投機的取引——に關しては、その非難が一部分は道理だといふことを認めねばならない。貨物及び有價證券の投機的取引の内、若干のものは或る有用な目的に役立つけれども、その他のものは大抵たゞの賭であつて、その經濟的效果に於ては下等な賭博に似たものである。我々が定めた標準——その勞働が效用の總和を増加するか否かといふこと——に依つて判断するならば、單なる賭博的投機に従事する人々は總て不生産的勞働者である、即ち當にその本人のみならず、その本人の註文を遂行する仲買人、その註文を記録する書記、その仲買人の事務所に於ける「同示機」を組立て、動かせる技師も亦、不生産的勞働者である。此等の者は總て、何等の有用な目的にも役立たない仕事をしてゐる人々の階級に屬する。

同一の標準が種々の實業家の活動にも適用されるべきである、しかし此の場合には、その活動の利害を差引して見ると利益の方が多いいふことが、投機業者の場合よりも遙かに明白であ

1) 第二篇第十一章参照。



る。投機的取引の大部分は恐らく何等の效用も無いであらうが、實業家の所爲の大部分は大きな效用を有する。實業家は、大いに生産的だと非難するところの社會主義者達の告訴は、肯綮に當つたものではない。産業の管理者或は指導者の職分は生産に於て大きな功勞あるものである、たとへば、銀行家のやうに、たゞ助言し淘汰し鼓舞するに過ぎないのであつて、直接には産業の管理に携はらないとしても、彼は、貨物の豊富及び慾望の満足に對して、著しく追加してゐる。しかし、産業の大中心地に於ては何所にでも、「ビジネス」に従事してゐる人々にして實質上は寄食的な所爲をしてゐる者が澤山に見出されるであらう、といふことは矢張り事實である。彼等は、一寸とした取引に依り、賣買に於ける機敏に依り、土地や有價證券の價格の騰貴を待つことに依り、生計を——恐らくは極めて安樂な生計を——立て、ゐる。往々にして彼等は、個人的には尊敬に値する眞面目な、著實な市民である、賭博的投機業者達に諸々の便宜を供給する株式仲買人達は、概して實際さうである。此等の尊敬すべき人々は、若し彼等が掠奪的寄食的階級に屬してゐると謂はれたならば、憤慨して怒るに相違ない。しかし、經濟學研究者に提供されてゐる最も注意すべき現象の一つは、あらゆる種類の人々が、産業界に於ける自分の地位及び職分に關して無智なことである。仲買人や商人は、技師や書記と同様に、自

分の働いてゐる小局に眼を奪はれて、其れが全體としての社會に對する關係に就ては何も知らない。或る職業の信用の程度は勿論、依つて以てその職業に従事するところの精神でさへも、一般的福祉に對するその職業の效果を知る爲の正確な手掛りにはならないのである。

掠奪的行爲を禁止することは、我々の生活を支配してゐる法律制度——私有財産制度——の目的とするところである。それ故に、管に肉體的暴行のみならず、詐欺や瞞著も亦禁止され且つ處罰されてゐる。法律の此の目的は大體に於て達せられてゐる。合法的に生計を得てゐる者は、普通に満足の總和に寄與してゐる。彼は、他の者が快く報酬する仕事を遂行する、或は、より専門的な經濟學上の言葉で謂へば、彼は效用を齎す、従つて彼は生産的勞働者である。若干の社會主義的學者に依つて多少とも明かに是認されてゐるところの見解に従へば、筋肉勞働者の仕事のみが生産的であつて、有産階級の所得インカム・インギグ、稼ぎや金儲けは總て不生産的だといふのであるが、此の見解は現行制度に對する非難の度を過したものである。しかし我々は、私有財産制度の作用に對する非難が誇張されてゐるからといつて、法律の柵は越へてゐないが經濟學者が掠奪的従つて不生産的だと看做さねばならぬところの、所得を獲得し或は財産をすら作り得る活動の機會が現在する、といふ事實を看過してはならない。



此の種の機會の幾つかは、現行の法律の缺點に起原してゐる。嘗ては一般的福祉の増進に役立つと思はれ、又恐らく或る階段に於ては役立つたであらうところの諸々の遺方が、經濟的條件の變動につれて、今では全く役立たなくなり、或は一部分しか役立たなくなつてゐる。斯くして株式會社即ち社團法人が、技術の改良を促進する爲に、又より豊富にして多様な生産物を得る爲に、甚だ有效な仕掛となつて來た。ところが他方では、依つて以て社團法人が組織されるべき規定——殊に我が米國の諸州に於ける——が往々にして、社會主義的批評家が非難する通りの弊害、即ち單なる詐欺と掠奪とを可能ならしめるものとなつてゐる。社團法人の設立に關する法律をば、長所は保ち短所は棄てるやうに改正することは、今や合衆國に於ける緊急問題の一つである。

結局に於て慾望を充す爲に役立つ活動と然らざる活動とを明白に區別することは、その活動の結果を最上の判斷に依つて嚴密に比較考量した後<sup>に</sup>於てさへも、往々にして不可能である。例へば、法律は單なる賭博的契約を禁じてゐる。けれども賭<sup>か</sup>であるところの取引は、その外形を見ただけでは、之を社會に取つて有用な他の取引から區別することが出來ない。或る人々は「適法」な取引に従事して居るが、一方、同じ種類のこと<sup>に</sup>「不適法に」従事してゐる他の人々は

「賭事師」であるといふことは、公衆に依つて漠然と意識されてゐる。しかし、是認して差支ない取引と是認してはならない取引とを精確に區別することは、實業家に取つても裁判官或は經濟學者に取つてと同様に、如何に彼が賢明であり博識であつても困難なことである。詐欺や瞞著に關する法律に就てもそうである。人々が自分で選擇する自由を有し且つ自分自身の判斷に従つて行動する限りでは、機敏であり用心深い人々は愚鈍であり不注意な人々よりも、より上手に懸引をするであらう。いつ或る人が他の人を瞞すのであるか、いつ彼は他の人自身の利害に關してはその人の獨立判斷にのみ任せるのであるか。(これを識別することは殆んど不可能である。)恐らくは、私有財産制度及び競争取引から生ずる大きな一般的利益を確保するために、我々は常に、生産的行爲と掠奪的行爲との境界線上に在るところの、若干の行爲を許さねばならぬであらう。若し法律にして、勞働が大體に於て慾望を充す爲に適用されるやうに規定してゐるならば、若し法律が大抵の不生産的行爲を禁止してゐるならば、若しその法律制度が全體としてよく作用してゐて、以上述べたやうな掠奪的活動がその制度の不備の結果に過ぎないならば、——此等の掠奪的活動は已を得ないものとして、その制度の一般的利益で之を埋合はせるに如かないであらう。人間の手配りの絶對的完全といふことは望まれることではない。



### 第三章 分業と近代産業の發達

#### 第一節 分業の二形態、單純分業と複雑分業。

分業 (the division of labor) は近代社會に於ける最も重要な事實の一つである。經濟理論に關する最も六つかしい問題、最も普通に廣く行はれてゐる謬論、法規に關する最も重要な問題——これ等のもの、幾つかは分業から生じてゐる。

分業は、これを二つの項目の下に分つことが出来る。一方には、より單純な形態の分業が行はれてゐて、此の分業の下では、一人の労働者が一つの生産階段の全部を完成してゐるのである。例へば裁縫師、靴屋、大工はその夫々の職を營んでゐる。他方には、より複雑な形態の分業が行はれてゐて、此の分業の下では、總て一つの生産階段に屬する諸々の作業が幾つにも分割されてゐるのである。ずつと原始的な産業階段に於ては、靴師が鞣皮師でもあつたかも知れない、そして鞣してない皮から靴を作るまでの全過程が、かうして一人の手で行はれたかも知れない。が今日では、靴そのものが既に一人の靴屋の手では作られてゐない、それは、一工場内

の多數の別々の労働者の作物であつて、その内の或る人々は鞣皮を截り、或る人々はそれを縫ひ、或る人々は底を付け、なほ或る人々は踵を付けるに止まるといふ風に、細かく分割された別々の作業に依つて作られてゐるのである。

明かに、此の二つの分業形態を嚴密に區別することは出来ない。どの職人も、一つの生産作業を初めから終りまで完成することはない。裁縫師は、その材料を織物師から買ひ、織物師は、その羊毛を農夫や牧畜者から買ふのである。織物師と牧畜者とは更に又、その道具を機械師から買ひ、機械師はその材料を鐵職と材木職とから買ふのである。翻つて裁縫師は、必ずしも自分の仕事をば、その干與してゐる階段の全部だけさへも完成するわけではない。その仕事は、截手と縫手との間に分たれるかも知れない、同様にまた、織物師の仕事は織工、羅紗打ち業者、染物師の間に分たれるかも知れない。單純分業と複雑分業との間の相異は、實質的には程度の相異である。とはいふもの、此の程度の相異が重大である。此の二種の分業形態は、幾らか相異つた利益を齎し、また相異つた社會状態を惹起する。



## 第二節 單純分業から生ずる利益、巧妙、繼續、才能への適應。

我々は先づ單純分業を考察しよう。その起りはすつと昔に在る。よく知られてゐる職業は、極めて古くからあつたものである。それ等の職業の名前が、姓ファミリーとして近代人の間に採用された範圍を見れば、比較的單純な社會状態、たとへば家族名パトリックが成立の過程にあつたところの中世に於て、いろいろな仕事が多様な風に分たれてゐたか、といふことが明かになる。カーペンター(大工)、メイイスン(石屋)、スミス(鍛冶屋)、ウィーヴァー(織工)、ドレイパー(反物商)、テイラー(裁縫師)、ダイアー(染物師)、サッドラー(馬具師)、シューメーカー(靴師)、ミラー(粉屋)、ベーイカー(麵包屋)、クーパー(桶屋)、及びその他の斯様な普通の姓を見れば、どんな種類の分業が比較的變化なく數百年間維持されたか、といふことがわかる。

此の分業形態から生ずる生産上の主要な利益は、同一の仕事の絶えざる練習から得られるところの巧デクスターリティーの増加である。我々は、練習の效果に就ては極めてよく知つてゐるものだから、練習から得られる熟練を當然のことだと臆断する。讀むこと、書くこと、着物を着ること、深

靴の紐を編上げること——これ等のことは久しい習慣や反復の結果として、殆んど努力せず容易に爲されてゐる。ピアノを演奏することやタイプライターを打つことは、慣れない者には驚くべきことであるが、熟練した者には何でもないほどに容易なことである。職人や技手が巧妙になれば、その各々が多種の仕事を遂行せねばならぬのでその何れにも未熟な場合に於けるよりも、その生産能力が非常に大きくなるわけである。

二三の他の利益が亦、單純分業から生ずるものとして列挙されてゐる。同一の仕事を中絶せずに行なう場合には、時間が節約される。大工は、假に農夫より巧者でないとしても、やはり一定の日時の間に、片手間で繕ひ仕事をしようとする農夫よりも、多くの仕事を仕上げる事が出来る。また或る利益が、仕事を労働者の能力に適應させることに依つて得られる。練習と熟練とが巧妙の最も重要な原因であるところの仕事に關してさへも、人々の天賦の能力の間には相異がある。技手の内で、最も六つかしい仕事に必要な確かな眼と巧な手を持つてゐる者は、僅かにその一部分に過ぎない。若しより六つかしくない仕事は之を普通の能力の人々に委して置いて、此等の人々をば主として最も六つかしい仕事に没頭せしめるならば、それは明かに有利である。比較的單純な仕事に就て見てすら、個々の労働者の能力には差異がある。



電車の運轉手の仕事は、大人なら誰にでも出来るどころの最も單調なもの、やうである。ところがそれは、注意の或る一定の確實さと油断なさを要するのであつて、これは總ての勞働者に具つてゐるものではない。此の種類の差異は、どこまで専ら天賦の能力の結果であるか、どこまで教育や環境に依つて惹起され或は増大されるか、といふことは之を茲で考察する必要がない。たゞ斯かる差異が現在してゐる限りは、各個人をしてその最大の才能を有することのみをさせた方が利益である。

最後に擧げた分業の素因——いろ／＼の仕事をいろ／＼の才能に適應させること——は、頭で働く人々と手で働く人々との間に於て最も重要なことである。なるほど筋肉的訓練と同様に智的訓練が行はれてゐるが、また教授と練習とは技手の職に於てと同様に辯護士の職に於ても有効ではあるが、後者に取つては天賦の才能がより一層重要である。創始、監督、指揮を要する一切の仕事に於ては殊にそうである。技術上に於けると智的生活に於けるとを問はず、指導者たるの能力を有する人々と、被指導者階級に屬するの外なき人々との間には、重大な結果を生ずる相異がある。生れながらの指導者たる人々が、きまりきつた機械的或は書記的の仕事は之を斯かる能力の無い他の人々に委せて置いて、彼等のみしか爲し得ないところの、或は彼等

が最も上手に爲し得るところの、仕事に専ら従事し得る場合には、往々にして極めて大きな利益が得られるのである。

しかし乍ら大多数の人々は、何等の特殊の才能を持つてはゐない。彼等に取つては、組織的訓練に依つて始められ或は助けられる繼續的練習が、どの特殊の仕事に於てもその熟練の——たゞへ唯一の原因ではないとしても——主たる原因である。大體に於て分業は、能力特殊化の結果であるよりは寧ろその原因である。大部分の巧妙な人々は、彼等が久しく或る一定の技術を業としてゐるから巧妙なのであつて、彼等が生れながら巧妙であるから其れを業としてゐるのではない。

### 第三節 複雑分業から生ずる利益、機械の發達。第十八世紀の産業革命。

今や我々は、我々がより複雑な形態の分業と名付けたものに向はう。此の分業形態は、過去一世紀半を通じての産業の發達の、即ち極く近頃になつて加速度的の歩調を以て進んだ發達の、著しい特徴である。その産業上の變動と事物の新しい秩序の特色とは、之を極く簡潔に表



はせば、機械が道具に取つて代つたといふことである。

分業が齎す能率上の利益は、主として、反復に依つて得られるところの巧妙から生ずるのであるが、單純分業の下でよく知られてゐる職の中には一つとして、同一動作の繼續的の反復に還元されたものがない。大工、石屋、鍛冶屋、裁縫師——此の各々は全體としてのその職を修めてゐた、従つて彼等は、絶えざる練習に依つて上達してはゐたが、矢張り、その仕事の一部分から他の部分に轉じてゐたのである。此等の工匠が使用したところの手段は、その仕事の別々の部分に適應した種々様々の道具であつた。「道具」とは、この言葉が今なほ普通に用ひられてゐるやうに、手道具のことであつて、それは人間の腕力に依つて動かされ、従つてそれを用ふるには適合、判断、手加減が必要なのである。

分業がだん／＼細密になるにつれて、職業の数が徐々に増加して各職業の限界が縮少し、従つて各職業が益々同一の規則正しい手續に還元されるやうになつた。かくして織物の製造は、紡績工、織工、羅紗打ち、染色工の間に分割された。紡績工と織工との間の分割——それ自體は最も古い分割の一つである——は結局甚だ重要なものとなつた、といふのは其れが、機械と動力との劃期的應用の一つに起因を興へたからである。凡そ、同一動作の斷じざる反復が或る

産業技術の重要な一部分となつてゐる場合には、之に人間の筋力以外の他の力を應用することが出来る。勿論如何なる機械も、——近頃のその極めて精巧な形態のものでさへも、——巧妙と手加減との點では人間の手と競争することは出来ない。しかし、同一のことを反復して爲さうとする場合には何時でも、機械を通して働くところの自然の盲目的の力が、總ての人間の手と同様に、また實際大抵の人間の手よりも上手に、其れを遂行することが出来るのである。單純分業は段々と發達して動力の應用が出来るやうになつた。動力の應用から生じた利益は極めて大きかつたので、分業上に或る反動が現れた、即ち動力の應用が誘因となつて、諸々の生産階段を尙一層細かく分割し、それ等の階段を益々同一動作の反復に還元し、かくして自然力をば尙一層よく利用することが出来るやうになつた。

機械と動力との使用への大變動が襲來したのは、第十八世紀の後半のことである。織物業が先づその影響を蒙つた。一七六四年には、ハーグリーブス(Hartreeves)が多軸紡績機を發明した、一七六九年には、アークライト(Arkwright)が之に匹敵する紡績機を發表した、一七七九年には、クロムプトン(Crompton)がハーグリーブスの趣向とアークライトの趣向とを結合した機械を發明して、紡績機を尙一層完全なものとした。これ等三つの機械は總て、纖維を撚



る仕事の機械的反复の爲に作られたものである、そして間もなく水力が、此等の機械を運轉する爲に適用せられた。その後久しからずして、織ることも亦同一の原理に支配されるやうになつた。動力織機は段々と精巧になつて、第十九世紀の初めには着々と手織機を駆逐し始めた。そして同世紀の終までには、舊式の機業は、英蘭や合衆國のやうな先進諸國では既に過去のものとなつてゐた。此等の發明物が最初に適用された織物原料は綿花であつた、蓋し、綿花は一様な且つ同質の繊維を持つてゐるので、整一な速力で断えず運轉されてゐる機械に對しては、之が最も容易に當嵌められるからである。羊毛、亞麻、及び絹は、その繊維がより不揃ひな爲に、その後多くの補助的發明物が出來てから、綿花よりも後れて機械的過程に従つた。此等の繊維の中で最も繊弱な且つ最も不揃ひな絹が、動力機械に依つて大規模に操業されるやうになつたのは、やつと近年のことである。

織物工業の初期に於ては、之に對して水力が用ひられた、しかし水力は、間もなく蒸氣機關に依つて補充され、次いで大方驅逐された。蒸氣機關はワット (Watt) に依つて、一七八一年に、役に立つ働きをする程度にまで作られた。それは先づ、鑛山から水を汲み出す爲に大規模に用ひられた、——この場合には明かに動力が應用され得る、何となれば其れは、最も簡單な

動作の不變の遂行を必要とするから。それは間もなく進んで、嘗に織物業及びその他の製造工業の廣い範圍に對してのみならず、輸送にも亦應用せられた。蒸氣は一八〇七年にハドソン河に於て、フルトン (Fulton) に依つて航行に用ひられた。蒸氣を輸送に應用したもので事より重要なのは、一八三〇年にステイヴンソン (Stephenson) に依つて完成されたところの機關車であつた。これは現代の鐵道を創造したものであり、従つて——聽て説明するであらうやうに——分業のなほ一層の發達の起點を劃したものである。

引續いて現れた幾多の大發明——その中では上述の諸發明が最も重要なものであつた——に依つて、産業革命 (Industrial Revolution) として知られてゐるところのものが齎された、——即ち、人類の歴史のどの階段に於ても同様な單期間には現れたことの無い、大きな技術上の變動、及びその結果なる經濟的並びに社會的條件の變動が齎された。その根本的經濟的特徴は分業の細密といふことであつて、そこでは諸々の生産階段が別々の作業に分割されて、その各々が断えず反復され、従つてそれが機械に依つて遂行され得るやうになつたのである。大工の鋸挽き、鉋削り、矧合せ、線形——これ等の各々は、今日では、通常工場に於て別々に機械に依つて遂行されてゐるのであるが、此の工場は著々と段々より大きくなり、且つこの職のいろいろ



ろの作業をばなほ一層細分しようとしてゐる。昔の靴屋は自分一人で靴を作つた、が現代の工場に於ては、靴が八十ばかりの相異つた過程を経て作られてゐる。鑪くわの製造業に就て見るに、或る大工場では（一九二二年）、鋼鐵がその工場に到達してから商品として鑪が出来上るまでに、各一片が九十の別々の作業或は取扱を通過せねばならなかつた。鐵細工業に就ても、織物業の細密な全過程に就ても、印刷業や書物製造業に就てもさうであり、機械や道具の製造業のものに就ては殊にさうである。今日使用されてゐる機械は、動力應用の初期に於て夢想されたよりもすつとより複雑であり、且つより有効であつて、同一動作の自動的反复の原理をば、その範圍外だと久しく思はれてゐた仕事にまで擴張した。なるほど手の仕事はまだ廢れてはゐない、熟練な労働者や融通の利く道具は、産業上なほ廣く用ひられてゐる、がしかし其等が働く範圍は、だん／＼と狭くならうとしてゐる。各産業部門に於て、その諸々の生産階段が相續いて機械的過程に従ふやうになるにつれて、その残りの生産階段の範圍がより狭く且つより單純になつて來るのであるが、而も此の範圍内では發明家が、動力を應用し得る新しい機會を絶えず發見してゐるのである。斯くして分業の性質及び作用が、根本的に且つ殆んど普遍的に變革されたのである。

分業の此の近代的發達からの主要な利益は、事實上無限量にあるところの自然力から生じたものである。一旦動作の同一性が得られた以上は、そう六つかしい仕事もなく、そう込入つた作業もないからして、それが機械に依つて二六時中反复され得ることになる。だから、先づ機械を作る爲に、次いで其れを動かせるところの自然力を導く爲に適用された人類の労働は、昔のより單純な道具の製造及び使用に適用された同量の労働よりも、遙かにより多くの仕事を仕上げるわけである。石炭と落水とは動力の偉大な源である、そして、なるほど自然は此等のものを無制限に供給してはゐないけれども、機械の應用は、人類の必要を充す爲にはまだ何等の制限に依つても拘束されてはゐない、又恐らく將來に於ても我々が豫想し得る限りでは拘束されないであらう。すべての生産作業に要する労働が、前世紀の諸々の産業的變動に依つて非常に減少された、又今世紀に於ても、恐らくは矢張り急速に且つ大いに減少されるであらうと思はれる。

現代は機械時代だと謂ふのは適切である。現代を特色づけてゐる諸現象は、主として機械使用の諸々の結果である、従つて我々は此等の結果に對し、本書に於て度々注意を拂ふであらう。此等の結果がその中に見られるところのものは、資本の増殖、及び資本を支配してゐる實



業家の力と重要さとの遞増、大規模生産の普及及び多數の産業部門に於ける獨占への傾向、労働者の新しい地位、雇主と被雇者との間の廣い懸隔、及びその結果なる労働者團體と雇主聯合との發達、諸々の工場に於ける婦人及び幼年者の雇傭から生ずる重大な社會問題、殊には、労働階級の人々の個性の喪失、及び社會的諸階級間の境界線の擴大、である。複雑分業の此等一切の結果に就ては、研究の進むにつれて詳説するであらう。

#### 第四節

分業とは無意識的協力のこころである。

交換。

分業とは明かに、或る一定の産業部門の種々の作業を遂行する人々が、その最終の結果を齎すために結合することである。それはまた明かに、相異なる諸々の産業に従事してゐる人々が、その社會の種々の慾望を充すために結合することである。各人は、彼の特種の生産物を寄與して總ての人々に使用させる、そして各人は、他の人々に依つて寄與された諸々の生産物を使用する。だから分業はまた、合力或は協力 (the combination or cooperation of labor) だとも謂ひ得られる。

合力は或は、生産を意識的に管理し且つ調節することに依り、その結合生産物を直接に分配することにより、従つて交換を生ずることなしに、計劃的に遂行されるかも知れない。希臘や羅馬の古代文明時代に於ては、金持や特權者の設備の中でいろ／＼の職が、その全<sup>ホムスホーゼ</sup>家中の利益の爲に諸々の奴隸に依つて營まれてゐるのが瞥見される。中世紀の初期に於ても亦、農奴の仕事が専門化してゐて領主の必要物に對し現品で貢がれてゐるところの、領地が見られる。現時に於てさへも、個々の成員間に分業は行はれてゐるが交換は行はれてゐないところの、共産的社會の例がある、そこでは各成員が、その共同所得を得る爲に自分の役目を盡し、そしてその共同所得から公平だと思はれる分前を受けてゐる。なるほど斯かる社會は、かの古代の家<sup>ハムスホーゼ</sup>中や中世の領地のやうに自足状態に近くはない、即ちそれは、外部の世界と可成り大規模に賣買しなければならぬが、之に反してかの昔の組織體は、極く僅かの物(例へば、鹽や鐵)しか買はなかつた。けれどもその社會自身の範圍内に於ては、分業は何等成員間の交換を生じないのである。

しかし乍ら普通には、分業は、その自然の派生現象として、相異なる諸々の労働者に依つて生産された種々の貨物の交換を随伴した。右に擧げたやうな場合は經濟史上に於て比較的稀で



ある、兎に角それ等の場合は、近代産業界の諸現象を理解する爲には何等の手掛りにもならない。近代産業界に於ては、分業は殆んど常に交換を意味する、従つてその労働者間の關係は、意識的且つ計劃的の合力が行はれてゐる社會の其れとは、その趣を甚だしく異にしてゐる。近代社會の労働者達が合力して結合生産物を齎してゐることは、正しく事實である、しかし、そこには協力の意識が缺けてゐる。個人は結合生産物のことを考へてはゐない。たゞ若し偶々彼が、經濟學者の著書や學說に通曉してゐて、それを念頭に置きつゝ労働に従事するならば、はじめ彼は、自分は或る結合生産物を得る爲の小さな一作業を遂行して居り、そして他の人々がその結合生産物を得るために爲してゐる種々様々の寄與に協力してゐるのだといふことに、氣が付くのである。物、それに對して彼が労働するところの物は、共有物の一部分ではなくて、各個人自らに依つて賣買され、世話され且つ守護されてゐるところの私有財産である。彼はたゞ、自分が賣るところの特殊の生産物と、依つて以て自分が他の生産物を買ひ得る條件とを考へるに過ぎない。彼は、斯うして行はれる交換の結果に専心し、そして自分自身の爲に最も有利な交換條件を獲ようと試みる。私有財産と交換とは殆んど普遍的に分業の結果であり、そして交換といふ現象は近代世界の支配的現象である。

## 第五節

交換は昔は或る限られた經濟的地域

で行はれた。低廉輸送(鐵道)はその

地域を廣くする。

第十八世紀の産業革命以前の數世紀間に於ては、典型的の交換形態は、小さな都會或は町と直ぐその周圍の農業地方との間の交換形態であつた。之は、より單純な分業形態の、即ちよく知られてゐる手工業 (handicraft) の時代であつた、即ち近代の機械時代に先立つ道具時代であつた。近代初期の都市は、大體に於て自給自足してゐたところの一つの産業的社會の中心であつた。その都市の中で、その市民達がいろ／＼の技術や職を營んだ。その都市に對して、その周圍の田舎民達が食物や原料を齎し、そしてその都市に於て、彼等が自分達の買物をした。その都市の職人達は、當時の經濟組織の極めて著しい特徴であつたところの、同業組合 (guild) に結合されてゐた。各職業は、徒弟 (apprentice) を訓練し雇職人 (journeyman) を雇ひ、そしてその職業の知識を代々傳へたところの、同業組合の成員に對してのみ開放されてゐた。同業組合の組織、及びその成員たる資格の規定と制限とは、その初めには、保護と相互扶助及び技術上



の熟練の維持を確實にする爲に避くべからざるものであり、又疑もなく有益なものであつた。ところが後には、その規定が独占の手段となつた、即ち同業組合は既に、それを包含する産業組織が産業革命の諸々の大發明に依つて絶滅されたよりも寧ろ前に、その有用性を失つてゐたのである。しかし乍ら、同業組合制度に關するこれ等の事情は、我々の現在の題目に對しては密接な關係がない。同業組合制度が分業に關係を有する限りでは、それは、獨逸人が都市經濟と呼んだところのもの——産業の都市組織の一部分であつた。たとへば一三五〇年から一八〇〇年までの、英蘭と西歐の大部分との地圖を見ると、各々多かれ少かれ孤立した經濟的地域の中心であるところの、相當の大きさの多數の都市が點在してゐる。なるほど、相異なる諸國の間、及び一國內に於ても相異なる經濟的地域の間には、特種の貨物が多少交換された、がしかし主要な交換は、都市とその周圍の農業地方との間で行はれた、そして當時の工藝的技術の特徵は、中世の同業組合に組織されたところの、かの卑近な諸々の職業の間に分業が行はれたといふことであつた。

此の産業組織が、現代を特色づけてゐるところの産業組織に依つて取つて代られた歩調は、最初は徐々であり且つ漸進的であつた。しかし第十八世紀に於て、産業革命が大變動の勃發を齎した。我々は、此等の變動への進路を開いたところの第十六世紀及び第十七世紀の出來事は之を考慮することなしに、その最後の結果を初期の單純分業と對照することが出来る、又そうすることに依つて、現代の状態をよりよく理解することが出来るのである。

經濟的地域が非常に擴張されて來た。其れは、一國の全部を包含するやうになり、或る方面では全世界を包含するやうになつた。分業は、嘗に一都市内の相異なる諸々の職業の間に行はれてゐるのみならず、相異なる諸々の都市及び諸々の國の間にも全く同様に行はれてゐる。他方に於ては、諸々の職業そのものが更に、より小さな職業に分割されて來た、そして各職業の別々の部分が遠く相離れた場所で從事されてゐる。斯様な傾向は、現代の輸送上の進歩——それ自體も機械が導き入れられたことの結果であつた——に依つて非常に促進された。動力の——殊に蒸氣機關を通しての——使用は、産業革命の主たる素因であつた、そしてそれは、牽引と航行とへのその應用からして最も大きな効果を擧げたのである。

一つの劃期的の發明は機關車の發明であつた。道路は、英蘭では、テルフォードとマカダムとがその車道敷設方法を工夫したものの、第十八世紀の後半期に於て大いに改良された。同時代には運河もまた既に開鑿されてゐた、そして其れは、佛蘭西に於ても英蘭に於ても仲々廣



く利用されてゐた、また合衆國の國民は、常にその特殊の産業的事情に刺戟されて熱心に交通機關の改良方法を求めてゐたが、遂に第十九世紀の初め二十五年間に車道と運河とを使用するやうになつた。しかし一八三〇年には機關車が現れた。此の場合に於ては、蒸氣機關の——また實に技術上の大進歩の殆んど總ての——場合と同様に、その有効な工夫の最後の成功は、多數の發明家の引續いた多くの實驗の結果であつた。ステイヴンソン (Stephenson) が一八三〇年に機關車を發明した——といふよりは寧ろ完成した。斯くして現代の鐵道が創成された、そして其れに依つて、第二の産業革命が、或は少くとも産業革命の第二期が始つたのである。鐵道と相並んで水運上にも大改良が行はれた。蒸氣を航行に應用することは外輪に依れば比較的簡單であつた、従つてそれは第十九世紀早々に完成された。しかし外輪汽船は、餘りて不格好であり、又大海を横切つての航行に充てるには餘りに難破し易かつた、それで大洋の航行には、第十九世紀の中頃エリクスンが推進器を發明する迄は、大した變化は起らなかつた。が水運上の變化はどれも、鐵道に依つて惹起された變化のやうに重大なものではなかつた、蓋し、陸上輸送は緩慢で而も高價であつたし、又その高價は廣大な地方での分業に大障礙を與へたものであつたが、之に反して帆船に依る水上輸送は常に比較的低廉だつたからである。

## 第六節

市場がより、廣くなれば分業がより細かくなる。肉屋業に依つての例證。

アダム・スミスが、一七七六年即ち近代の初期に注意して謂つたやうに、分業は市場の廣さに依つて制限されてゐる。村の靴屋は、彼が手を擴げ得る經濟的地域内で賣捌き得るだけの靴しか作り出さないであらう。靴を作る仕事を、皮を截つ者、縫ふ者、踵を付ける者、型をとる者の間に分割することは、その總ての者の結合勞働に依つて生産されるだけの靴が賣れるのでなければ、實行され得ないわけである。現代の靴工場は、その精巧な機械と非常に進んだ分業とに依つて、毎日數千足の靴を生産してゐるが、此等の靴は、その中央供給所から達せられる多數の人々の中だけで、それ／＼賣れて行くのである。

分業は低廉輸送の結果市場が擴張されるにつれて段々と進んで來たが、その状態に就ては、他に多くの例を擧げることが出来る。家具は今日では、往々にして材木の供給地には近くこの品物を使用すべき人々には遠く位置してゐるところの、大工場で製造されてゐる。昔の指物師は、一系列をなせる諸々の機械——その各々は、鋸挽き、鉋削り、溝掘り、轆轤繰り、艶出し、



といふやうな諸々の作業に於て絶えずその役目を果たしてゐる——を世話し且つ嚮導してゐるところの労働者達に依つて驅逐された。犁は、最早村鍛冶屋の手では作られないで、大工場で製造されてそれから地上に廣く賣捌かれてゐる。若し斯うして賣捌く事が出来なかつたら、犁を工場で多量に製造することは出来なかつたし、従つて其れを製造する爲に細かい分業は行はれなかつたであらう。市場の擴張の最も著しい結果の一つが、肉屋業の變遷の中に見られる。三十年前までは、肉屋はその仕事をば、數千年前にやつてゐたのと同じ様に遂行した。彼は近所の農夫から家畜を得て、その肉を近所の顧客に供給した。ところが合衆國の大部分に於ては、肉屋は今日では、家畜を千頭も屠つてゐるところの大罐詰工場に依つて驅逐された。此等の工場に於ては、屠獸の解剖に於ける數十の別種の階段が、それぞれ別組の労働者に割當てられてゐる。動力の應用は、此所では、幾つかの他の工業に於てのやうには進んでゐない、けれども其れが可能に於ては常に、機械が運轉されてゐる、そして機械が運轉されてゐない階段では、労働者が單一の作業の斷々なる反復に割當てられてゐる(註一)。斯くして動物のあらゆる部分が利用されてゐる、そしてあらゆる部分が一層細かい分業の下で大規模に取扱はれてゐる。そこでその種々様々の形に出来上つたものが——あらゆる品質の肉、脂肉、皮、骨、

角、毛までが——その罐詰工場から數百哩も、時には數千哩も離れた數百萬の人々に賣られてゐるのである。一切の斯かる精巧な組織と分割との基礎となれるものは、生産物を遠方まで輸送し、且つ斯くして其れを一つの中心地から非常に多くの人々に供給するといふ可能性である。

(註一) 『分業が斯くも巧妙に且つ極微に實現されてゐる産業は、この他には見出し難いであらう。動物は検査されて地圖のやうに區割された、そして労働者は、三十以上の専門と、毎時間十六仙から五十仙までの二十通りの賃金とに、分類された。五十仙の労働者は、獸皮の最も繊弱な部分にナイフを使ふ者(Hoorman)か、背骨を割るのに斧を使ふ者(splitter)かに限られてゐる、そしてより未熟な労働者が十八仙、十八仙半、二十仙、二十一仙、二十一仙半、二十四仙、二十五仙等で雇はれる場合には必ず、彼の場所が作られて有り、且つ或る仕事に計劃されてゐるのである。獸皮のみに就ての仕事に九つの部署があつて、賃金は八通りになつてゐる。二十仙の労働者は尻尾を取り去り、二十二仙の労働者は良い柔皮の得られない部分を取り去り、そして四十仙の労働者のナイフは別な肌理はだめの部分を取り取るのであつて、五十仙の労働者のナイフとは「手觸り」を異にする部分を切るのである。熟練は、解剖體の組織に適するやうに特化して來た。……』

『分業は此の産業では、冷蔵車の導入と調味した牛肉の賣出しとにつれて、七十年代の終りに發達した。その市場が此等の革命的發明物に依つて擴張される前には、屠獸者團の規模は小さかつた、何となれば其れは地方的の需要額を供給したばかりだつたから。しかし、毎日居られるべき家畜の數が千頭にもそれ以上にも増加した時には、段々と増加する屠獸労働者の團體或は仲間が併合された、そして最も熟練な労働者が最も困難な仕事に使用されるやうになつた。』



—Professor J. R. Commons, in the Quarterly Journal of Economics, Vol. XIX, pp. 3, 6, 5—の仕事を幾多の労働者の相異なる能力に適應せしめることから得られるところの、分業からの利益の生ずる餘地が茲にあるやうだ、といふことに氣が付くであらう。五五—五六頁参照

## 第七節 地理的分業——合衆國と英國とに依

### つての例證

第十九世紀を通じての輸送機關の大進歩は、我々がまだ考察してゐないところの分業の一面に對して、非常により廣い發達の餘地を與へた。これ即ち地理的分業 (geographical division of labor) である。

中世及び近世の初期に於ては、可成りの長距離を輸送し得るものは、容積が小さくて價値が大きい物に限られてゐた。例へば藥品、香料、美しい織物、珍しい絹布や綿布、上等の武器や甲冑のやうな物に限られてゐた。ところが、此等の物は小數の金持階級に依つて使用された。だから此等の物の取引は、大多數の人々には影響がなかつたのである。なるほど水運を利用することが出來た所では、より嵩張つた貨物の取引交換が多少可能であつた。此の理由で、島國

たる位置と出入の多い海岸線とを有する英國は、比較的早い頃に於て羊毛、銅、及び錫のやうな貨物を輸出することが出來、かくして或る程度まで地理的分業を發達させることが出來た。船舶が改良され且つ大きくなり、海上がより安全になり、そして羅針盤が使用されるやうになると共に、水路の取引が段々と發達して次第により大きくなつた。第十八世紀の終り頃には、文明諸國の内部地方が運河に依つて取引を始めたので、それが尙一層擴張された。しかし、地理的分業の最も重大な發達は鐵道と共に現れた。蓋し、鐵道に依れば陸地のあらゆる地方に到達し得るからである。そして世界の殆んど總ての地方の産業が、此の有力な溶媒に依つて改造されたのである。

現時の合衆國は、低廉輸送の影響を受けて大いに發達した地理的分業の、恐らくは最高度の状態を示してゐる。ニュー・イングランドの南部地方は製造工業般盛の地であるが、其處で使用される食物と原料とは、世界のあらゆる地方から來てゐる。小麥及びその他の麵麩材料は、ミシシッピ流域とミソウリ流域とから來てゐる、食用肉と動物からの諸生産物とは、同地方及び一部分はもつと西部の地方から、綿花は南部諸州から、羊毛はトランスミスウリ地方、濠洲、亞爾然丁、支那、西比利亞から。その代りに、あらゆる種類の製造品——綿布や毛織物、深靴



や短靴、金屬商品、道具や機械——がニュー・イングランドから送り出されてゐる。又、東部ペンシルヴァニアの無煙炭地方は、全然無煙炭の採掘に没頭してゐる、そしてその地方に必要な種々の供給物は、その他の地方から來てゐる。ピッツブルグは、有煙炭の採掘、及び其れを燃料とする鐵や鋼や硝子のやうな物の製造工業に全然没頭してゐるところの、西部ペンシルヴァニアの一地方の中心である。此所でも亦、その食物、衣類、慰安物及び奢侈品が、合衆國及び世界のあらゆる地方から供給されてゐる。合衆國では、どの地方も自足してゐる所は無い、即ちその各地方は、斷えずその生産物を遠方の地方に送り出し、そして更に、遠方の地方の生産物を受け入れてゐるのである。

同様に著しい地理的分業の一例が、<sup>グレートブリテン</sup>英國の現状に於ても見出される筈である。英國は現在、その食物の大部分——その麵麩の材料の五分の四、及びその肉並びにその他の食料品の半分以上——を輸入してゐる。その小麦は主として合衆國、加奈陀、露西亞、亞爾然丁から來てゐる、その肉の殆んど大部分は合衆國と濠洲とから。その國民の衣類となる綿花の全部と羊毛の殆んど全部とも、矢張り他の諸國から買はれてゐる。此等種々の貨物は、熱帶地方から來るその他の貨物と同様に、多種類の輸出製造品と交換して得られてゐる。英國の國民は、その勞

働を主として諸々の製造品に献げ、そして其等の物と交換して諸々の食料品や原料を輸入することに依つて、彼等が總ての物を本國で生産することに依つて得られるよりも、非常により大きな利益を得てゐるのである。ニュー・イングランドとオールド・イングランドとは、その産業的地位が大體同じである。恐らくはその孰れも、それ自身の土地だけでは、その現在の人口を養ひ得ないであらう、また假に養ひ得るとしても、孰れもそれ自身の土地だけでは、確かに、現在よりはすつとより困難な條件に於て又すつとより乏しい結果を以てなければ、衣食住及び燃料に對するその緊急な必要を充し得ないであらう。即ち孰れも他の諸地方との取引に依存してゐるのである、たゞその主たる相異は、前者に於ては事實上その取引の全部が國境を越へて行はれてゐるが、後者に於てはその大部分が同一國民間で行はれてゐる、といふことである。

此の分業の大した發達の結果として、都市の地位が、中世に於けるそれとは實質上變つて來た。都市は最早、食物と原料とに就てその周圍の農業地方に依存してはゐない、又此の農業地方も、その必要とする諸々の加工貨物の供給に就て附近の都市に依存してはゐない。都市は、之をその周圍の田舎の見地からすれば、生産の中心地であるよりは寧ろ財の分配の中心地であ



る。なるほど多くの都市は特殊の製造品を生産してゐる、そして此の意味では、此等の都市は生産の中心地である、しかし此等の都市で生産された諸々の特殊品は、諸々の分配の中心地を経て世界中に賣捌かれてゐる。種々雑多の製造品を生産し、且つ大きな分配的取引を行つてゐるところの諸々の極めて大きな都市は、その経済的地域に於て重り合つてゐるのである。

### 第八節 地理的分業から生ずる二種の利益

地理的分業からは二種の利益が生じてゐるが、それは、個々の人々の間の分業から生ずる二種の利益に類似してゐる。その一部分は、別々の地方を特殊の品物の生産に適合せしめることから、そして一部分は、一つの仕事への排他的従事の結果なる熟達から、生じてゐる。

熱帯諸國と温帯諸國との間の分業は、明かに、特殊の適合から生ずる利益を齎す。熱帯地方の果物、香料、珈琲、砂糖は、温帯地方の小麥や玉蜀黍と交換される。又合衆國の南部地方には、特に綿花の栽培に適した土地がある、一方、その大中央平原には、玉蜀黍帯と小麥帯とがある。——此等重要穀物のどちらかに特に適した氣候と土壤とを有する大平原がある。ペンシルヴァニアの西部地方には優良炭の豊庫があるために、その地方は、石炭の採掘と低廉な燃料を

要する諸工業とに没頭してゐる。鐵の大豊庫がスベツホル湖岸に發見された、それで其處では數千の勞働者が、その消費する種々様々の品物を國內の他の諸地方から仰ぎつゝ、その礦石の採掘に従事してゐる。伊太利の風土は葡萄や柑橘類の栽培に適してゐる、従つて此の國は此等の果物を寒暑の酷しい諸國に輸出してゐる。また伊太利には石炭がない、此の國は其れを、主として英國の大石炭層から輸入してゐる。斯うして數へ挙げれば際限がないであらう。が之を要するに、小麥や玉蜀黍はそれに適した地方で生産し、鐵や石炭はそれが最も豊富な地方で生産し、綿花は最も豊饒な土地で之を生産すれば有利だ、といふことは明かである。なるほど地理的分業は全括的ではない、それが總ての場合に適用されるに就ては、習慣の力や輸送費のやうな原因から生ずるところの諸々の障礙がある。けれども、或る種の生産をば其れに對して自然的便宜が最も大きい所で營まうとする傾向は、強くて而も堅實である。

専門化と習得した熟練といふ事實のみを基礎としてゐるところの、相異なる諸地方間の分業は、結果に於ては同じことであるけれども、その起源と根據とを異にしてゐる。個人間の交換は、なるほどその一部分は生得の才能の相異に基いてゐるが、概してそれは、習得した熟練に基いてゐる。相異なる諸地方間の分業も可なりの程度まではそうである。一旦或る場所で或る



工業が大規模に營まれて、精巧な機械が設備され且つ大きな生産額が擧がるやうになれば、その工業はその場所に集中されるやうになるであらう。しかし、その工業が他の場所には集中されないで或る場所に集中されるといふことには、何も有力な理由は無いかも知れない。何故、ブリッチポートとコネチカットのニュー・ヘイヴンとが金屬商品の製造業の、マサチューセッツのブロックトンが靴製造業の、ニューヨークのコホーズが編物製造業の、英蘭のノッテインガムとブラッドフォードとがレースと毛織物との製造業の、リヨンが絹布製造業の、サクソニーのケムニッツがメリヤス類製造業の、専門的中心地でなければならぬかといふことに就ては、その自然的條件には何等の理由も無いのである。

或る種の工業では、若し同じ種類の作業を營む工場が多数相集れば、容易に或る利益が得られる。即ち附屬的の諸産業が起つて、諸々の原料や補助物が供給されるやうになる。特殊の作業に熟達した職工を要する場合には、その選擇と適合とがより容易になる。都會が大部分の人々に對して有する誘引性だけでも、労働者の或る堅實な數を獲得し且つ保持することがより容易になるのである。或る工業が或る特殊の場所に位置を定める第一の原因は、往々にして、或る個人の精力、創意、資力であつた。彼の指導者としての能力が或る工場を設立する、そこで

他の人々が彼の先導に従ふのである。又時には、或る場所の自然的適合の爲に或る工業がその場所に起り、そしてその後には、既に得た便宜の効果のみで其れが持續されることがある。斯うして、ローウェルやロウレンスのやうな、ニュー・イングランドに於ける工業都市の幾つかは、蒸氣動力がその後のやうに充分に發達しない時に、そして石炭の輸送がより不廉だつた時に、水力を有する場所に發達したのである。水力が得られるといふ理由で今日でも此等の都市が出來るかどうか、といふことは疑問である、しかし既に現存する以上は、それ等の都市は存續する傾向がある。ミシシッピ流域の大平原に亘つて多數の大小の都市——その中の或るものは乗物の、或るものは家具の、或るものは機關や機械の製造地であるところの——が發達してゐるが、何故他の場所には起らないで或る場所にその特殊の工業が起つたか、といふ明かな原因は何も無い。何所でその工業が營まれても、その集中の利益が獲られる。そして低廉輸送の結果市場が擴張されると、その工業を大規模に營むことが出來るやうになり、従つて多額の資本、精巧な機械、専門化、及び細かい分業を利用することが出來るやうになるのである。

諸國民間の分業の可なり大きな部分、従つて彼等の間の取引の多量は、此の第二の原因に基いてゐるやうである。殊に加工品に關しては、若干の國は、自然の諸資源にではなくて習得し



た能率に基いてゐるところの、諸々の生産上の便宜を有する。英蘭に於ける或る種の羊毛製品の製造、佛蘭西に於ける絹の製造、恐らくは北部愛蘭のリンネル製造も、此の種の場合を示してゐるのである。之即ち、新興産業保護論の眞の基礎である。諸國の間の分業及びその貿易が自然的差異の結果である限りは、之を制限しないで成行きに委せて置くに如くはない。しかし、其等が習得した熟練に基いてゐる限りは、少くとも、國內に於ける同様の分業及び同種の取引に依つて、有利に其等に取りつて代れる見込があるのである。<sup>1)</sup>

1) 第四篇第三十七章第二節に於ける此の問題に関する所論参照。

## 第四章 大規模生産

### 第一節

大規模生産の發達——綿製品製造業、製鐵業、農具製造業に依つての例證。

大規模生産 (large-scale production) への傾向が、産業革命以來總ての文明諸國に現れて來た。それは、經濟状態と共に社會状態を根本的に變革した、そして將來に於ても尙一層それ等を變革するやうに思はれる。

此の傾向の特徴は、個々の工場の規模がより大きくなり、そして工場の總數がより少くなるといふことである。なるほど、極めて急速に發達してゐる時期には、常に各工場がより大きくなるといふことのみならず、工場の總數が増加するといふことも亦起り得る。しかし乍らより普通には、その總數が減少するか或はたかだか元の儘である、ところが一方では、個々の工場の規模がより大きくなり、従つて全體としてのその工業の生産力がずつと増大されるのである。次の數字は合衆國の國勢調査報告書から採つたものであるが、それは一八五〇年から一九



一五年に至る期間に於ける、若干の大製造工業の發達を示してゐるから、例證として役立つであらう。

(農具)

年次	工場數	被備者數	資本額 (單位) (百萬弗)	生産額 (單位) (百萬弗)
1850	1,333	7,220	3.6	6.8
1860	1,982	14,814	11.5	17.6
1870	2,076	25,249	34.8	52.1
1880	1,943	39,580	62.1	68.6
1890	910	38,827	145.3	81.3
1900	715	46,582	157.7	101.2
1905	648	47,394	196.7	112.0
1910	640	50,551	256.3	166.3
1915	601	48,459	338.5	164.1

(鐵及鋼)

年次	工場數	被備者數	資本額 (單位) (百萬弗)	生産額 (單位) (百萬弗)
1850	468	24,874	21.9	20.4
1860	542	35,189	44.6	52.8
1870	803	77,555	121.8	207.2
1880	792	140,798	209.9	296.6
1890	719	171,181	405.8	478.7
1900	668	222,490	573.4	804.0
1905	605	242,640	936.3	905.8
1910	654	278,505	1,492.3	1,377.2
1915	587	278,072	1,720.7	1,263.3

(綿製品)

年次	工場數	被備者數	資本額 (單位) (百萬弗)	生産額 (單位) (百萬弗)
1850	1,094	92,286	74.5	61.9
1860	1,091	122,028	98.6	115.7
1870	956	135,369	140.7	177.5
1880	1,005	185,472	219.5	210.9
1890	905	218,876	354.0	268.0
1900	1,055	302,861	467.2	339.2
1905	1,154	315,814	613.1	450.5
1910	1,324	278,880	822.2	628.4
1915	1,328	303,404	899.8	701.3

此等總て三つの場合に於ける數字は、實質上同一のものを示してゐる。即ち總資本額、總生産額、總被備者數が、極めて急劇な割合で増加してゐる。ところが總工場數はそうでない。綿製品の場合に於ては、それは大體に於て變化しないのである、鐵及び鋼の場合では僅かに減少し、農具の場合では急劇に減少してゐる。兎にかく此の半世紀間に於て、平均資本額、平均生

産額、平均被備者數、の大きな且つ相伴つた増加があつたのである(註一)。

(註一) 此の數字は、主として一九〇五年の國勢調査特別報告書(農具に就ては第四部第一表、鐵に就ては第四部第四頁、綿製品に就ては諸織物に關する特別報告書第一表)から引用したものである。鐵の分、一八五〇年と一八六〇年との數字は、それ等の年に就ての國勢調査報告書から追加したものであるが、その價値は不確かである。一八八〇年に於ける綿製品製造工場數は、その項目の下に若干の境界外の工場を含んでゐる爲に膨脹してゐる。此等の理由及びその他の理由の爲に訂正を受けるとしても、此の統計は信頼するに足るものである。

しかし乍ら、此等の數字を解釋するに當つては、それは一切の事實を明かにしてはゐないといふ事を念頭に置かねばならない。農具の場合に於て、一八八〇年と一八九〇年との間にその工場數が急劇に減少してゐるのは、大部分は、國勢調査局に於ける分類方法が改正されたといふことに依つて説明される。

一八九〇年以降の年に於ては、農具と鐵及び鋼との二つの場合に關しては、可なり多數の小工場が、小數の極めて大きな工場と相並んで存続してゐるといふ事實に依つて、毎工場の平均が低下され、且つ大規模作業の發達が曖昧にされてゐる。此等の小數の極めて大きな工場こそ、該工業の状態を眞に表はしたものである、しかし國勢調査の數字は、此の事實を表はしてゐない。更に、此の三つの工業の總てに於て、殊に製鐵業と農具製造業とに於ては、結合と大規模作業とが行はれて來たのであるが、その依つて行はれた形態が、國勢調査の數字に依つては斟酌されてゐない。國勢調査は、或る場所に於ける或る一つの工場をば、たとへ其れが他の場所と同種の數工場を有する個人或は會社に依つて所有され且つ管理されてゐても、やはり獨立した別々のものと看做するのである。ところが事實としては、過去二三十年間に於て、異つた場所に在る數工場が、大分、同一の會社或は個人の支配を受けるやうになつて來た、だからして集中への趨勢は、此の數字が示してゐるよりも著しいわけである。そして最後に、右に挙げた資本額及び生産額に對する物價

\* 工場數で資本額(或は生産額、或は被備者數)を除いたもの。



變動の影響を考慮せねばならない。一九〇〇年までは、此等の品物の価格は下落する傾向があつた、だからして毎工場生産額の増加は、貨幣価値で表はすよりも、分量（鐵は噸、織物はヤール）で表はした方がより大きかつたわけである。之に反して、一九〇〇年以後は物價騰貴の傾向があつた、従つて同じやうな訂正を反對にせねばならぬわけである。

此の三つの場合を例證として擇んだのは、それが、大規模生産の發達上の相異なる諸階段を表はしてゐるからである。棉花工業に於ては、此の半世紀間に於ける變動は極く僅かであつた。此の工業は、既に一八五〇年までに工場組織で營まれてゐた、そしてそれ以來に於ては、そこには何等の本質的に新しい組織形態も發展しなかつた。製鐵業（即ち、粗鐵及び鋼の製造業）は、比較的により大きな變動を示してゐる。が就中最も著しい變化は、第三の工業に於ける其れである。一八五〇年には、農具は矢張り、大體に於て小規模に、且つ手工業的方法によつて作られてゐた。ところがその後、此の工業は大規模生産に依つて、右の數字が示してゐるよりも寧ろより大きな程度にまで改造された、といふのは、多數の小工場が存続してゐる爲に、右に擧げられた工場數が膨脹して居り、従つて毎工場の平均が小さくなつてゐるからである。

	1882	1895	1907
只一人で仕事をしてゐる労働者のパーセント	25.2%	16.4%	10.1%
二人乃至五人を雇つてゐる工場に於ける労働者のパーセント	29.9	23.5	19.4
六人乃至十人を雇つてゐる工場に於ける労働者のパーセント	6.0	7.2	6.6
十一人乃至五十人を雇つてゐる工場に於ける労働者のパーセント	12.6	16.6	18.4
五十一人乃至二百人を雇つてゐる工場に於ける労働者のパーセント	11.9	17.0	20.1
二百一人乃至一千人を雇つてゐる工場に於ける労働者のパーセント	10.9	13.9	17.3
一千人以上を雇つてゐる工場に於ける労働者のパーセント	3.5	5.4	8.1

同じやうな一般的傾向が總ての先進諸國に現れてゐる、即ち大規模生産が盛に行はれてゐる。けれども我々は、その發達に依つてより小規模の企業が全部驅逐されたとか、或は、其等は懸て全滅するの外はなさそうだとさへも、考へてはならない。繼起的數期間の、及び或る一定の國に於ける總ての産業の、比較が出来る數字といふものは容易には得られない。しかし次の數字は確かな——獨逸に對して——ものであり、且つ意味深いものである。それは、獨逸に於ける總被傭者數の幾パーセントが、特定の時に於て、規模を異にする諸々の製造工場に雇はれてゐたか、といふことを示してゐる。

之を見れば、一人で働いてゐる工場と、五人或はそれ以下を雇つてゐる工場とが甚だしく減少したことがわかるであらう。次段の（被傭者が六人乃至十人の）工場は増



減が無い、その他は總て増加してゐる、そして増加率が最も大きかつたのは、極く大きな部の工場である(註二)。

(註二) 此の數字は Zeitschrift für die Gesamte Staatswissenschaft, 1910, Heft 3, p. 430 に於ける ヴンハニャー教授の論文から引いたものである。ピニヒャー教授の指摘するところに依れば、獨逸では、合衆國と同じく、國勢調査の數字は大規模作業の發達に關する一切の事實を明かにしてはゐない、何となれば國勢調査に依つては、一つの合同企業の一部を成してゐる幾多の工場が、屢々、別々の獨立したものととして數へられてゐるから、このことである。

## 第二節 大規模生産の利益、——機械の使用、

### 一般出費の節約、賣買、副生産物の利用、實驗。

大規模生産發達の原因は、主として、過去一世紀半を通じての技術上の革命的變動の中に見出される筈である。それ等原因の總ての根柢には、分業の漸進と機械使用の遞増とが横つてゐる。そしてその一つの必要條件は、市場が低廉輸送の影響を受けて擴張される、といふことであつた。

道具或は機械は、それがどんな種類のものにもせよ、多數の作業に使用されて始めて有利になる。即ち作業の数が多くなればなるほど、精巧な道具を使用し且つ其れを作る爲に多量の労働を費して、割に合ふやうになるのである。動力に依つて運轉される機械は極めて精巧な道具である。企業經營の規模が大きくなればなるほど、機械を有利に使用する機會が多くなる。そして機械の使用からの利益は幾多の原因から生じる。動力そのものは、それが大規模に適用されるにつれて、毎單位より低廉になる。創設費から謂つても經常費から謂つても、大きな蒸氣機關は小さな蒸氣機關よりも、毎馬力の生産費がより少い、といふ意味は、若しその工場が、供給される動力の全部を利用し得るだけに大きいならば、大きな蒸氣機關を使用する方が經濟だといふことである。更に、諸々の補助的作業が機械に依つて有利に遂行され得る。石炭、鑛石、土を取扱ふのに蒸氣鋤が使用され、また船荷を積み降しするのと同じやうな機械が使用されるのは、その仕事の一つの場所に多量に集積してゐるからである。太平洋通ひの一萬噸の汽船は、五千噸の汽船よりもより低廉に荷物を輸送する、そして二萬噸の汽船は尙一層低廉に輸送する。だから、歐羅巴と合衆國との間でのやうに荷物の多い所では、常に大汽船が經濟的である。ところが南亞米利加や邊鄙な地方との貿易でのやうに、荷物がより少く且つより不規則な



所では、あまり大くない汽船が常に用ひられる。大規模生産への傾向を明白に例證してゐるところの、亞米利加の最も大きな農具製造會社——國際收禾機會社 (the International Harvester Company) ——は、荷車と收禾機との轆桿（ギヤ）を製造するに過ぎない機械を持つてゐる。此の機械の價は二千五百弗であつて、それを使用すれば轆桿一本に付き一仙の節約になる、それを使用して引合ふのは、全く、轆桿が毎年數百萬本も製造されるからである。

機械使用の發達が多かれ少かれ密接に結合してゐるところの他の諸原因も、大規模生産への傾向を助長してゐる。先づ、生産額が増加するにつれて——設備や動力に要する種々様々の出費が毎單位より少くなるのと丁度同様に——管理や會計の仕事に要する一般出費がより少くなる傾向がある。即ち、書記達をより休みなく働かし得るやうになり、従つて彼等の間により細密な分業を實施し得るやうになる。監督人や職工長は、その各々が有利に指揮し得る最大数の職工を監督し得るやうになる。番人、技師、時掛りは一人づゝ居れば、小さな工場に於てと同様に、大きな工場に於ても大抵間に合ふのである。かくして、一般管理に要する種々雜多の出費が、生産額より多くなるのに比例して、より少くなるのである。

次に、大企業の商業上の管理——材料を買ふこと、及び生産物を買ふこと——も亦、經濟

と能率とを得る好機會を提供する。大企業に於ては通常、諸々の供給物をより有利に買ふことが出来る。このことは普通には、恰も單に、その大購買者の側に於けるより大きな懸合（バリエーション）力に、従つて彼に賣らうとする人々の間に於ける競争のより大きな壓迫に、起因してゐるかのやうに謂はれてゐる。しかし乍ら、概してそれは、商業上の取引そのもの——殊に卸賣取引——はそれが大規模に行はれる場合により、經濟的に遂行される、といふ事實に起因してゐる。書記の仕事に對する出費、事務所の賃料、等は卸賣商人の主たる經費を構成するものであるが、これ等は、小さな取引によりも大きな取引により、多く掛かるわけではない。だからして仲買人や卸賣商人は、常に多量に買ふ人々に對しては、より安價に賣ることが出来るのである。

更に、生産物の賣捌に要する毎單位の費用は、往々にして、小さな工場の場合よりも大きな工場の場合の方がより少く、又往々にして、相應の大きな工場の場合よりも極めて大きな工場の場合の方が更により少いのである。廣告と評判とは、様々の貨物の賣行きに大いに影響する。一旦、或る限られた地方市場にではなくて、或る大きな廣い市場に認められたならば、近代的工場に依つて生産された多量の財の賣捌きも、決してその支配人の難事とするところでは無くなる。顧客を驅り集める爲の一切の裝置——行商人、商品目錄等——は、それが大規模に



行はれるのに比例してより有効になり、又生産物の毎單位に付てより安上りになる。廣告は、あらゆる種類の趣向を以てそれを至る所に普及させれば、即ちそれを組織化して別の管理者の手に委せてやらせれば、最も有効である。一切の斯かる精巧な賣捌方法は、大量生産の結果であると共に更にその原因となる。

諸々の「副生産物」(by-product)の利用は、大規模生産のもう一つの利益である。合衆國の肉屋の仕事の極めて多量を遂行してゐるところの大罐詰工場に於ては、屠獸のあらゆる分子が利用されてゐる、従つてそこでは、小さな工場に於ては無駄になるに相異ないところの多くの物が、利潤の源となつてゐる。また極めて大きな毛織物工場では、羊毛を羊の背から剪む際にそれに附着してゐるところの、脂肪分を利用して利益を得てゐる。この脂肪分は、兎にかく羊毛から洗ひ去らねばならぬものであるが、より小さな工場ではそれが無駄になつてゐる、ところが大工場では、この脂肪分が、その處分を専門とするところの設備に掛けられて、利得の一資源となつてゐる。また大きな製鐵所では、コークスを作る際に石炭から生ずるところの瓦斯を利用することが出来る、即ちその瓦斯を精製して之を附近の都市に賣るか、或は之を直ちにそれ自身の鑄鐵鑪の燃料として利用することが出来る。また大きな製材工場では、それ自身の鋸屑を

1) 『結合生産物』("joint product")と謂ふ方がよい。第二篇第十六章第一節参照。

燃すための設備を設けることに依つて、動力を得るための他の燃料を節約することが出来る。

大規模生産の他の諸々の利益は、新しい工夫や新しい方法を以て實驗することが出来るといふ事から生じる。或る冒險は失敗し、或る冒險は成功するであらう。が極めて大きな企業に於ては、その成功が長期間に於てはその失敗を償つて餘りあるものと期待することが出来る、謂はゞ、その企業がそれ自身をば、實驗の避くべからざる危険に對して保險してゐるのである。ところが、作業が小規模に營まれてゐる場合には、一つの實驗の失敗がその全事業を破滅させるかも知れない。更に又、大きな工場では、最も秀れた技術的熟練者、即ち最も老練な技師や化學者が、より容易に且つより經濟的に雇はれてゐる。高價な併し有效な機械類に就てもそうであるやうに、彼等を使用することは生産額が極めて多量な場合に始めて有利となり、そして生産額が最も多量な場合に最も經濟的になるのである。

### 第三節

大規模生産の制限は主として監督の

困難から生ずる。農業の場合。その

他の諸産業。制限の一原因としての



有能な管理者の稀少。この人間的素因は普通に社會主義者に依つて無視されてゐる。

大規模生産に對する諸々の制限は、主として人間性の諸々の弱點から生じてゐる。作業の規模が擴張されるといふことは、やがて、雇傭労働者を頼みにすることが絶えず遞増され、且つ自發的私利を頼みにすることが絶えず遞減される、といふことになる。若し總ての労働者が、自分自身の爲に働くのと同じ精力と根氣とを以て雇主の爲に働くならば、大規模生産は殆んど際限なく擴張されるに相違ない。(ところが總ての労働者はそんな風には働かないから、大規模生産の擴張が制限されることになる。)此の制限素因の影響の著しい例證が、農業と製造工業との相異なる傾向の中に現れてゐる。

農業の作業は、必然的に或る廣い面積に擴つてゐる、又それを或る一定した機械的手順に従はせることは容易でない。此の二つの事情は監督を困難にする。之に反して製造工業では、數百或は數千の職工を一つの家根の下に、或は狭い面積の中に集中してゐる。そればかりではな

く、製造工業では機械が使用されてゐるが、その機械は、そこで同一の作業が反復されることを意味する。だからしてそこでは、或る機械的手順を定めて職工を一定の仕事に割當て、斯くして彼等の誠實を比較的容易に取締ることが出来るのである。しかし農業では、多くの仕事を個々の労働者の熱心と智慧とに委して置かねばならない。

その結果として農業では、製造工業では明白に現れてゐるところの、生産規模擴張へのその同じ傾向が何所にも現れてゐない。なるほど若干の國は、普通に大農國だと謂はれてゐる、英國はその典型である。なるほど又、合衆國の或る地方では(例へば、ノース・セントラル地方では)近年、農場の大きさが僅かづゝ増加する傾向があつた。しかし、大きいと謂はれてゐる農場も、産業單位としては比較的小さなものである。年中二十人の労働者を雇つてゐるものは大農場だと考へられてゐる、けれども同數の労働者を雇つてゐる工場は小さな事業である。耕作に従事してゐる二十人の労働者の仕事は、數百エーカーの面積に擴つてゐるに相異ない、従つてその仕事の割當てと監督とに就ては、諸々の厄介な問題が現れるに相異ない。ところがこの大きさの農場は比較的稀である。農業上の仕事の殆んど大部分までは、自分の下に恐らくは一人或は數人の労働者を使用する只一人の人が自分自身の勘定でその作業を營んでゐるところの農



場に於て、遂行されてゐる。合衆國の或る地方の發展の初期には、謂はゆる「ボナンザ」耕作（“bonanza” farming）が暫く行はれた。カリフォルニアの内部地方やダコタのレッド・リヴァー・ヴァレーに於てのやうに、豊饒な大平原地方が突然開墾され始めた場合には、小麦が、暫くの間數千エーカーの面積に亘つて、數十人の労働者と數十臺の馬車と高價な機械とを以て大規模に栽培された。しかし之は一時的の現象に過ぎなかつた。未耕地の豊饒さが使ひ盡され始め、従つて其れをより多様に且つ注意深く使用するの必要が生ずるにつれて、此等の廣大な地域がより小さな單位に分割された。蓋し、大きな工場の管理者は、その職工を監督し且つその命令を確實に遂行する爲の手段を工夫することが出来るが、しかし農場主は、彼自身の模範と彼自身の監督とが必要な刺戟を與へる場合でなければ、その雇ふた労働者を有利に使用することが出来ないからである。

或る種の産業は、なるほど廣大な面積に亘つてゐてその雇傭労働者の監督が困難ではあるけれども、若し其れを大規模に經營すれば非常に有效であつて、その監督上の不利益は決定的のものでない。鐵道はその一例である。その被傭者の多くは必然的に廣い地域に散布されてゐる。そして此の無數の労働者を監督する爲には、種々の規則や規定、簿記や監査、といふやう

1) 第五篇第四十二章第五節参照。

な複雑な而も高價な装置が必要である。しかし、その仕事は大きな規模で非常に安上りに遂行されてゐるから、此の困難とそれに伴ふ出費とが相殺されて餘りあるのである。

他方に於ては往々にして、若し大規模作業に依れば經濟が得られる筈の産業が、他の諸々の理由の爲に制限されてゐるものがある。小賣取引は、若し之を大規模に行へば有利に——仕入れ上及び管理上の經濟や、家屋のより十分な利用や、大勢の賣子達のより休みなき活動やに依つて——營まれ得るのであるが、より小さな店が矢張り残つてゐる。大規模小賣業の機會は、謂はゆる百貨商店デパートメントストアに依つて、都會に於て利用されてゐる、此の百貨商店の發達は、近年、都會の輸送機關の進歩に依つて非常に促進された。しかし大都會に於てさへも、殊にその場末の方では、小さな或はあまり大きくない小賣店がやはり残つてゐる。その理由は、近所に店が無いと購買者がやりきれないことがある、といふことである。斯くして我が亞米利加の諸都市の到る所に在る町角の藥店は、その大きな競争者に對抗して矢張り存続してゐる。最近では昔と變つて來て、多數の店が一個の管理の下に結合されてゐる、併しそれ等の店はよく擴つてゐて、各々の店がその顧客の近所に在るやうになつてゐる、之には監査や勘定に關する込入つた組織が必要であるが、それは此の場合では實行不可能だとは思はれない。



合衆國統計提要 (Statistical Abstract of the United States) のやうな書物を一見すれば、種々の商工業の商店或は工場の數とその取引高とが一括されてゐるから、それ等の内のどれが、此の種の理由に依つて集中への傾向に逆つてゐるか、といふ事でわかる。嚴密な意味での製造工場は、かの近代的變動を特色付けてゐるところの特徴を示してゐる。即ちそこでは、取引高が非常に増加してゐるけれども工場數が減少してゐる。農具、靴、絨氈、藥品、銃砲、硝子、綿織物、毛織物及び絹織物、ミシン等の製造工業がさうである。ところが小賣店のやうに、消費者に對してより直接に調達するか、或はその他の理由でその取引の相手方たる人々の近くにゐなければならぬ商工業に於ては、その店或は工場の數が、人口及びそれ自身の取引高の増加に比例して増加してゐる。鍛冶屋、大工、鉛職、麵麩屋、印刷業、ペンキ屋、壁貼職がさうである。こゝでは、個々の店或は工場規模の擴大される傾向の見るべきものなく、大規模生産の勝利といふに至つては尙更見るべきものがない。

人間の能力に限りがあるといふことは、何故大規模生産が製造工業に於てさへも間違の無い確實さを以て發達しないかといふ事を説明する。以上數段に於て論じたところは、より大きな規模への推移は準自動的に起るものだ、といふことを意味すると思はれるかも知れない。しか

し事實は決してさうでない。それは個々の人々の精力、野心、識見に依存してゐる。總ての新しい機械、總ての大規模への變動は、危険を伴ひ、計劃や判断を要し、誰か或る個人の創始に依存してゐる。若し無數の人々が此の種の仕事を爲し得るわけであるならば、進歩の歩調がより速かになるに相異なく、従つて大規模作業がより確實に且つより迅速に發達するに相異ない。ところが實は、斯様な變動は、産業指導者たるの能力を有するところの、比較的小數の人々に依つて與へられる刺戟に俟つてゐるのである。偶々斯かる人物が自分の事業をば、より大きな規模に、そしてよりよく進歩した設備と機械とを以て、改造することがある。すると他の人々が彼の先導に従ひ、かくしてその産業の全部が急速に改造されるやうになる。これは、過去二三十年間に於て製鐵業に、殊に合衆國と獨逸とに於て起つたことである。前者に於てはカーチギー、後者に於てはクルツプが、目醒しい發展の先導をした。しかし乍ら普通には、大規模への發達は、大洋汽船の大きさの發達に於けるそのやうに、漸進的且つ試験的の歩調で現れる。産業革命は、その歩調に關する限りでは、實は革命ではなくて、個々の人々の精力と工夫とに依存し且つ斯かる能力を有する人々の稀少に依つて制限されたところの、緩慢な且つ漸進的な變動であつた。



此の人間の素因は普通に、社會主義者達及び夢想國建設者達に依つて無視されてゐる。此等の人々の考へに依れば、生産能力を増加するといふことは造作のない事であり、就中製造工業に於ては最も容易なことである。彼等は謂ふ、個々の工場の規模を二倍にし四倍にせよ、小さな工場を閉鎖してその職工を大きな工場に移せ——茲に、生産額を増加し、且つ全人類の物質的生活を安樂にするところの近道がある、と。また斯かる空想家は、一方に於て、將來どんな社會状態となつても機械の改良が絶えず確實に得られると考へてゐるがその實、技術上の大進歩は、それが新しい發明を要するにしても或はより上手な管理を要するにしても、或は又（普通にはさうであるやうに）此等の素因の兩方を要するにしても、とにかく個人の創始、個人の計劃、個人の先導から起るものである。社會主義國家に於ても、私有財産制度の下に於けると同様に、どうすれば人々が計劃し且つ發明し、その才能を出来るだけ改良し且つ完成するやうになるか、といふことが問題となるであらう。現在ではどんな動機が人々をして産業上の進歩の路を開拓せしめてゐるか、又社會状態が變つて來ればどんな動機が人々を活動させるであらうか——これ等のことは後段の論究に譲らねばならない。しかし、どんな社會組織の下に於ても生産増加の速成法があるなど、考へてはならない。

#### 第四節

横斷的合同と縱斷的合同。一例とし

ての製鋼會社。他の諸例。縱斷的合

同への傾向は横斷的合同への傾向よ

りも弱い。

一つの新しい形態の大規模生産が、此の三四十年間に於て、大きな且つ殆んど豫表的な意義を有するものとなつて來た。恐らくそれは、大規模生産と呼ぶよりは寧ろ大規模管理と呼ぶべきであらう、何となればその必然の結果として、個々の工場の規模が増大されるよりは、寧ろ幾多の工場が單一の管理の下に結合されるからである。それは、横斷的及び縱斷的と呼び得べき二つの形態を採つてゐる。

横斷的合同 (horizontal combination) とは、同じ種類の幾つかの企業が單一の管理の下に結合されたものである。それは通常稀にしか見られないが、その各々は大規模なのが常である。或る工業の代表的工場の規模が擴大され、そして個々の工場の數が減少するにつれて、遂にはほんの僅かしか——恐らくは一打しか——殘存しなくなる。そこで此等の工場が合同する、とい



ふのは、一つの巨大な工場がその一打の工場に取つて代るといふ意味で、その一打の工場がそれ等の技術的獨立を保持しながら、一個のものとして所有され且つ管理されといふ意味である。なるほど大規模作業は、その機械的生産装置に關する限りでは、既にその限界に達してゐるかも知れないが、合同された大規模管理からは尙多少の利益が獲得され得る。亞米利加精糖會社 (the American Sugar Refining Company) は、その典型的な一例である。凡そ現代の精糖工場は、數百萬弗も掛つてゐるところの巨大な事業であつて、毎日一萬樽或は一萬五千樽もの砂糖を生産してゐる。けれどもその規模には限度がある。或る一定の點を越えると、いくら擴張しても最早作業上の經濟が増して來ない。だから若し此の能力以上の生産額が要求されるならば、同じ種類の第二の精糖工場が設立され、かくしてその全部供給が調達されるまで幾つでも設立されるのである。しかし乍ら此等總ての精糖工場は、少くとも經濟になるだらうといふ見込を以て、これを一つの共通の中心から管理することが出来る。かくして、此等工場の諸々の入用品をば共通に購買し、そしてそれをば、作業上の繼續と最小の輸送費とが保證されるやうな方法で、此等工場の間で分配することが出来る。此の後の素因即ち輸送上の經濟は、主たる材料(此の場合では粗糖)が大變な遠方から送られて居り、而も、迅速に仕上

げられるが故にそれが絶えず且つ組織的に置換へられねばならぬ場合に、甚だ重要なものとなる。またその機械をば、別々の工場に於ける機械と同じやうに、即ち「標準に合せて」作ることが出来る、そしてその修繕や置換へを便利にすることが出来る。此等の及びその他の得られべき經濟は、なるほど、大規模管理固有の困難——殊に監督上の困難の遞増に依つて、その全部或は一部分が相殺されるであらう。しかしその利益がその不利益を相殺するや否やといふことを確實に決定し得るものは、實驗、殊に競争といふ試験のみである。

横斷的の典型は所謂「トラスト」(Trust)である。單一の管理の下で斯かる合同が行はれる動機は二重になつてゐる。その一部分は、管理上の經濟を得る爲である、がしかしその大部分は、競争を絶やして多かれ少かれ有效な獨占を齎す爲である。經濟が得られる限りでは、この合同への趨勢は社會の利益となるであらう。しかし、若し獨占が發達すれば、それは社會の不利益となる憂ひがある。實際どの程度まで獨占が生ずるであらうか、又實際どの程度まで生産が低廉になるであらうか、といふことは未だ確かでない、それはたゞ時日と經驗とを俟つてのみ知ることが出来る。しかし、少くとも若干の點では、又若干の産業に於ては、斯様な合同は大規模生産と集中管理との擴張を生ずる、といふことが明かである。



その本質的特徴を異にしてゐるものは、縦斷的合同 (vertical combination)、即ち、それがよく呼ばれてゐる言葉を以て謂へば、産業の合成 (the integration of industry) である。分業の普通の結果は、時間的に繼起するところの幾多の生産階段が獨立の諸工場で營まれる、といふことであつた。しかし若干の重要な産業に於ては、斯かる繼起的諸階段が單一の管理の下に結合される傾向が現れて來た。製鐵業は、そのより古い組織形態に於ては次に述べるやうに、幾つかの別個の部門に分割されてゐた。一人の生産者——即ち、一團の勞働者を雇ひ且つ指揮してゐるところの一人の資本家——は採鑛を營み、そしてその鑛石をば、それを熔解して銑鐵を作る事業に従事してゐるところの、他の生産者達に賣却した。尙一人の生産者は、同じやうに、木を伐つて木炭を作つた——尤も、之は木が製鐵業の燃料を供給したところの昔のことである、或は、コークスが木炭を驅逐してからは、石炭を採掘してコークスを作つた。此の鑛石と燃料とを買つたところの銑鐵製造業者は、彼の生産物をば鍊鐵業者即ち鋼鐵製造業者に賣り、此の後者は更に又、その棒鐵或は鋼鐵を機械製造業者、建築業者、針金製造業者に賣つた。縦斷的合同即ち産業の合成は、此等總ての繼起的諸階段が單一の管理の下に合同された場合——即ち製鐵鋼業上の此等多數の形態が一個の大企業に結合された場合に現れるのである。

合衆國製鋼會社 (the United States Steel Corporation) は、此の種の合同を典型的に而も極めて大規模に實現してゐる。此の會社は、同一方法を既に大規模に採用してゐたところの、既存の諸々の合同を更に結合したものであつて、鐵鑛、石炭、石灰石の夥しい鑛山を所有してゐる。その鐵鑛山は主としてスベリオル湖岸に、炭鑛山は主としてペンシルヴァニアに在る。その鑛石の大部分はその石炭の所に運ばれて、ピッツバーグを中心とするところの大製鐵業地方で熔解されてゐる、しかしその一部分は、その石炭が北及び西に運ばれて途中で鑛石と出會ひ、グレート・レークス地方の所々方々で熔解されてゐる。此の會社は、此等の原料を輸送する爲に、スベリオル湖地方及びピッツバーグからエリー湖に至る地方に、自分の鐵道を持つてゐる、また此等の諸々の湖上には、多數の汽船と荷揚船とを持つてゐる。會社自身の熔鑛鑛で作られたところの銑鐵が、會社自身の製鋼工場で種々の形の鋼鐵に作られてゐる。その他に尙、鋼鐵を軌條、建築用及び橋梁用の形、板金や葉板、鐵管、及び針金に依る作業が、矢張り此の會社の他の諸工場で營まれてゐる。他のどの産業に於ても、又この他に世界の何所に於ても、縦斷的の合同の實驗がこんなに大規模に營まれたものはない。

製鐵鋼業に於ては縦斷的の合同を生ずる誘惑が非常に多いが、それは主として、原料——石炭



と鐵鑛と——の供給が集中してゐるからであらう。その需要が増加しつゝ、ある場合に石炭と鐵との鑛山を持つてゐる人々は、その市場を支配することが出来るわけである。だからして、より完成された形態の鐵及び鋼の製造業者達は、購入或は合同に依つて、此等鑛山の支配權を得ようとする努力してゐる。此の傾向は、或る程度までは英國にも現れて居り、又獨逸に於ては、合衆國に於てと殆んど同じところまで進んでゐる。かくして一系列の相重つた工場を合同したものが、今や製鐵業に於ける正常の組織形態となつてゐる。

同じ種類の若干の傾向が、他の諸工業にも見出される。國際製紙會社(the International Paper Company)は、廣大な地域の「たうひ」林を所有し、その木を伐り、之を河流に依つてそれ自身のパルプ工場に送り、そして其處で、我々の新聞紙に依つて巨大量に使用されてゐるところの紙を製造してゐる。既に言及したところの收禾機會社は、森林を所有してゐてその木を伐つてゐる、又それは、自分の鐵鑛山及び炭鑛山を所有してゐて、自分で使ふ鐵及び鋼を製造してゐる。かの精糖會社は、自分の森林を所有してゐて自分の使ふ樽を製造してゐる。又他の諸工業は、他の方面に於て——財の販賣に於て——同様な發展を示してゐる。普通の組織では製造と販賣とが分離されてゐる。例へば製靴業者は、普通に、その生産物を卸賣商人即ち「販賣代理

者」に賣り、此の後者は更に又、それを往々にして取次商人即ち仲買人に賣り、又時には直接に小賣商人に賣つてゐる。しかし、若干の製靴業者は既に、管にその商品の製造のみならず、その販賣にも従事してゐる。即ち彼等は既に、國中の多數の都市に自分自身の小賣店を設けて居り、そして其等の小賣店を通して、直接に消費者と取引してゐるのである。更に、亞米利加煙草會社(the American Tobacco Company)は、それ自身の小賣店を多數に設けることに依つて、同じやうに、財の分配とその生産とを結合してゐる。

縱斷的合同と横斷的合同とは相提携して發達し得る。亞米利加煙草會社は、あらゆる種類の煙草の製造工場の總てを結合しようとして企てた、そして、此の會社の事業がその生産物の小賣捌にまで擴張されたといふことは、此の全括的横斷的合同を形成し且つ強大ならしめようとの努力の結果であつた。かの製鋼會社は多數の鎔鑛爐、多數の製鋼工場、多數の製管工場、多數の鋼板及びブリキ工場を所有してゐる、従つてそれは矢張り、此の二種の合同の結合を例證してゐる。そしてこの製鋼會社は、既に横斷的合同をば、若干の部門に於ては殆んど完全な獨占の點にまで進めてゐる、斯くしてそれは事實上、合衆國に於ける鋼板及びブリキ工場並びに製管工場の全部を所有してゐる。しかし其の生産する銑鐵は、合衆國に於けるその總産額の半分し



かない、従つてそれは決して、鋼鐵軌條或は建築用の鋼を獨占してはゐない。獨逸では、製鋼工場同盟(Stahlwerksverband)が製鐵鋼業に於て、なるほど完全に所有を統一するまでには進んでゐないが、堅固な聯合を形成してゐる。英國では之に反して、既に多數の大工場がその事業をば、一方では鑛山の管理にまで他方では完成生産物の製造にまで擴張してはゐるが、横斷的の合同は殆んど見られない、即ちそこでは、幾多の大企業が獨立して勝手に振舞つてゐるのである。今言及したところの、自分自身の鞣皮工場を所有し、或は自分自身の製造した靴を小賣で賣つてゐる製靴業者達の場合に於ても、その合同はたゞ縦斷的たるに過ぎない、即ちそこでは、横斷的の合同の企ては何も見られないのである。

縦斷的の合同への趨勢は横斷的の合同への趨勢よりも弱い。鐵工業は、縦斷的の合同への趨勢の極めて顯著な場合を示してゐるが、之は例外である。或る限られた、或は少くとも集中された原料の支配權を獲得しようとの願望は、なるほど鐵工業の合成を促進したものであるが、その原料の源がより散在してゐるところの他の諸工業には影響しなかつた。綿布、毛織物、絹布、或はリンネルの製造業に於ては、苟も、原料の供給の支配への、或は何か他の方法での縦斷的の合同への、推移の徴候は何も無い。その反對に、傾向としては寧ろより細かい分割に向つてゐるやうである。英國及び歐羅巴大陸に於ける織物工業は、常に、合衆國に於けるよりもより大きな程度にまで、別々の工業に分割されてゐる。歐羅巴に於ては、紡績業、機織業、布晒業、染色業、更紗業が、通常別個の工業として營まれてゐる。合衆國では從來、此等の生産階段の幾つか——殊に紡績業と機織業とが——結合されて一つの組織體になつてゐる、が此の國に於てさへも、近年の趨勢は反對の方向に向つてゐるやうである。例へば製靴業に於ては、既に前述の販賣設備があるし、又或る場合には鞣皮業と製靴業とが結合されてゐるけれども、その大勢がより大きな合同に向つてゐるものとは思はれない。即ち若干の工場は靴底しか作らないし、他の工場は爪尖しか作らない、といふ有様である。

合同への趨勢は、——それが横斷的なるを問はず、——一部分は、固定資本がより多く放下され、そして別々の企業の規模がより大きくなるにつれて生ずるところの、激烈な競争の結果である。しかしその大部分は、合同組織の見込みが明かになつた結果である。一單位として管理し得る企業の大きさに對する制限は何であるか。單一の工場或は商店——恐らくは大きな——が、比較的近年まで、その限度を表はしてゐると考へられてゐた。しかし、産業の規模が擴張されるにつれて、諸々の作業が組織化され、そしてより完全な管理を受けるや



うになつた。管理の仕事そのものが分割されて来た。斯くして諸々の入用品の購買、生産物の賣却、設備の維持、労働者の雇傭及び監督、會計や監査が、別々の人々に委任されてゐる。偉大な生得の事業能力を有する天才達は、常により完全な組織に導いた。電信、電話、改良された郵便事業は、それ等が大規模生産を促進したやうに、大規模管理を促進した。此等の著しい變動は、指導者達の熟練、判断及び管理能力の結果であつた、そしてまた、斯かる能力を有する人々に對する需要遞増の原因でもあつた。

それにも拘らず、作業の規模がより大きくなればなる程、その諸々の不利益が現れて来る。即ちそこでは、高價な管理組織が——監督、會計、監査、精力と經濟との有效な鼓舞が——必要になる。大きな合同が生産上より有效な能因であるか否かといふことは、競争といふ試験に依つて長期間に決定される。若し大合同がより低廉に生産し得るならば、其れはより低廉に賣ることか出来、従つてその競争者達を驅逐し得るわけである。<sup>1)</sup>

## 第五節

競争は往々にして浪費となる、なる  
ほごその浪費は外見よりは少いけれ

1) 此の競争の自動的作用に關する記述に對しては若干の制限が加へられる。第七篇第六十五章第三節参照。

ごも。合同は産業の一部分に君臨し  
てゐるに過ぎない。

競争は浪費となり、且つ大規模生産は經濟になる見込があるにも拘らず、産業界の大部分に亘つて、諸々の工場或は商店がやはり競争を續けてゐる。現在のところでは、競争が段々と合同及び獨占到依つて取つて代られるだらうといふ見込は無い。

競争が浪費となることは、若干の場合では明かなやうである。例へば、都會の牛乳は通常幾人かの商人に依つて供給されてゐるが、その各商人が持つてゐる一組の顧客は、廣い地域に亘つて不規則に散在してゐるのである。で若し、或る一定の區域に住んでゐる總ての需要者が、一人の商人に依つて供給されることになれば、配達上明かに經濟が得られるに相異なる。又若し、或る都會の全地域に對する全部供給が、單一の大規模管理の下に置かれることになれば、その生産物を尙一層低廉にし、そして(之は此の場合に於ては殊に重要である)その質を改良することが出来るに相異なる。ところが諸々の小賣商人——殊に雜貨類や食料品のやうな物の小賣商人も、矢張り浪費を生ずるやうな工合に重り合つてゐる。互に競争しつゝある製造業者達



に依つて供給されてゐる地域も亦、普通に重り合つてゐる。更に廣告といふものは、その大部分までは、單に他の商人の顧客を奪ふ爲に企てられるやうである。若し競争が無くなつたならば、——若し一つの大工場或は大商店が十の競争者に取つて代つたならば、——恐らくは同一の慾望が感じられ、同一の物が購買され、廣告費が削除され、財がより低廉に賣られるやうになるに相異なる。

浪費を生ずる諸原因が段々無くならうとする多少の傾向は見ゆるけれども、この傾向はあまり著しくはない。大都市の發達につれて、大商店や大會社が都會の牛乳の供給を大いに管理するやうになつては來たが、まだ完全な且つ組織的な合同が現れそうな徴候は殆んど無い。大きな製造業『トラスト』は、自分の諸工場の中で配達地に最も近い工場から積荷をすることに依つて、喰違ひの輸送を避けようと努めてゐる。しかし概して製造業者達は、一寸見たところでは出鱈目に競争と送荷とを續けてゐる。小賣業に就ても同じことであつて、そこでは大小あらゆる種類の商店が、因襲的な且つ明かに浪費的な方法で、顧客を得る爲に競争し且つ消費者の便宜を二重にしてゐる。

その浪費は、恐らくは見たところよりは少いであらう。競争は、各人をしてその調子<sup>ピッチ</sup>を上げ

させ、抜目なく且つ油断なき人々を鼓舞激勵し、無能な人々を淘汰する。また廣告は、合同の機構<sup>メカニズム</sup>の一部分であると共に、競争の機構の一部分である。競争が購買者に對して多少の選擇の餘地を與へる、といふ事は重大なことである、即ち競争が行はれてゐる場合には、購買者は、一人しかない供給者から買ふか、さもなければ無しで済ませるか、二者その一を擇ぶやうな羽目には陥らない。最も情け深ひ且つ思ひ遣りある獨占者でさへも、時には購買者を怒らせることがある、若し競争に依つて刺戟されることが無くなつたならば、普通の商人の暴悪は如何に甚だしくなるであらう！ 人々が得たいと思ふ物と、それを得たいと思ふ時及び方法とに關する選擇の自由は、根深い人間の本能を満足させるものである。社會主義的組織の主張の中には、供給品統一の利益が大いに絮説されてゐる。しかし、社會主義國に於ける消費者は、一切を支配してゐる公の管理者に依つて提供された物を、それがどんな物であつても受取らねばならぬであらう。——選擇の自由から生ずる満足は、競争が持續される所以の大部分を説明する。

合同への趨勢は近年極めて顯著になつたので、その蔽ふてゐる産業の範圍が誇張されて來た。農業には其れは殆んど現れてゐない、輸送——殊に陸路輸送には最もよく現れてゐる。鐵



業では、鐵工業の場合が顯著である、尙鑛業では、合衆國に於ては無煙炭の場合が顯著であるが、此の場合に於ては、供給地域が嚴密に限られてゐるのと、鐵道と同盟することが容易なことの爲に、有効な合同が實現されたのである。けれども大部分の鑛業は矢張り、獨立の生産者達に依つて營まれてゐる。また製造工業に於ても、大部分のものはまだ合同を生ずるに至つてはゐない。産業界の大部分に亘つて、なるほど生産は機械の大使用とより細かい分業とに依つて大規模になる傾向があるけれども、矢張り競争が廣く行はれてゐる。

## 第五章 資本

### 第一節

生産は時間的に擴つてゐる。此の事實は分業に依つて蔽はれてゐる。現代に於ける設備と機械との使用の遞増。

分業の複雑さの遞増と機械の使用の發達とが、別々の生産階段の數と、生産の全過程に要する時間の長さとを増加した。そこで、道具と材料との供給がより必要になり、資本(Capital)が重要になり、資本の所有者と資本からの所得とに關する諸々の問題が現れて來た。

生産は、最も原始的な野蠻状態を脱した社會では常に、時間的に擴つてゐる、そしてこれは、生産を更に細かく分割したものに就てのみならず、全體としての生産に就てもそうである。農業が、種蒔きから刈入れまでの時日を要することは明かである。しかし種蒔きがその初めでもなく、刈入れがその終りでもない。種子そのものが既に蒔かれて耕作されて居らねば



ならぬし、又耕作用具が豫め用意されて居らねばならぬのである。收穫が終れば、なるほどその刈入れられた穀物は、殆んど直ちに人々の必要を充す爲に役立てられるかも知れない、今尙北印度の村落にあるやうな、小さな自足社會に於てはさうである。しかし先進文明諸國に於ては、穀物は鐵道或は水路に依つて製粉場——恐らくは遠方の——に運ばれ、そこで粉に碾かれ、それから又遠方の商人達の所に運ばれ、そして最後に、可なり長い期日を経てから、その消費者の手に這入るのである。此等の階段の各々は、嘗にそれ自體に於て時日を要してゐるのみならず、既に過去に於て製造され且つ製造する爲に時日を要してゐるところの諸々の装置——鐵道或は汽船、製粉場、仲介商人の倉庫や店——の存在を意味してゐる。殆んど總ての生産作業は、先づ、自然の資源から材料を獲得することを要し、次いで、道具や機械の助力に依つて其れを形成することを要する。若し讀者にして手近かな日用品——例へば衣類や履物、家具や臺所道具、書籍や裝飾品、住宅——が手に這入つて來た形式を顧みさへすれば、その一系列の作業が如何に長かつたか、各貨物を生産する爲の分業が如何に錯雜して居たか、そして生産に着手してから最後に消費物或は享樂物が完成されるまでの期間が如何に長かつたか、といふことがわかるであらう。

複雑分業に基いてゐるところの此の根本的事實は、その複雑分業そのものに依つて却つて蔽はれてゐる。鞣皮を市場に提供する鞣皮師、亞麻を賣る農夫、鋼や鐵を賣る鐵職人は、各々、自分は完成品を賣つてゐるのだと思つてゐる。彼は、その賣却に依つて貨幣を得、そして斯くすることに依つて、その買ひたいと思ふ諸々の享樂物、或は生産を續けて行く爲に必要な諸々の物を支配してゐるのである。彼は決して、自分が賣る物に對して更にどんなことが爲されねばならぬかといふこと——即ち、それが消費財となつて最後に慾望を充たす人々の手に這入るまでには、それが如何に多數の一系列を爲せる生産者及び商人の手を経なければならぬかといふこと——を顧慮することはない。

現代に於ては、此の生産に於ける時間要素といふ最も重大な局面が、あらゆる種類の機械及び設備の使用の遞増に現れてゐる。機械は、——なるほど其れはより複雑な道具に過ぎぬかも知れないが——それが豫備的の仕事を甚だしく増加する爲に、生産の時間的擴張から生ずるところの諸問題を甚だしく重大にした。工場を建築するには一年或は數年を要する、その工場の機械を製造するには尙より多くの時日を要する。鐵道を敷設するには多年を要する、スエズ運河やパナマ運河のやうな工事には數十年を要する。ところがこの工場及びその機械は、結局



は、使用され且つ享樂さるべき諸々の物を生産する目的の爲に存在してゐるのである。鐵道や運河は、地理的分業を容易にし、そして結局は、此等の輸送手段が完成されて初めて始められる一系列の生産階段を通して、使用され且つ享樂さるべき諸々の物の豊富を促進するために役立つてゐるのである。——一つの簡単な事實に依つて、産業革命の始まつて此の方、機械設備の使用増加の傾向が如何に著しかつたか、といふことが例證される。世界の年々の鐵産額は、半世紀前の十倍に、一世紀前の六十倍に増加してゐる(註一)。鐵は専ら(その除外例は取るに足らない)生産の手段として使用される、それは、文明の物質的裝置の基礎である、即ちそれは、設備、道具、機械を意味する。近代に於て生産された鐵の巨大量は、精功な且つ高價な機械類の製造の異常な増加、及び諸々の生産作業に於けるそれに相應した時間の延長を、表はしてゐる。

(註一) 世界の年々の鐵産額は次の如くであつた、——

一八〇〇年には……………	八二五・〇〇〇噸
一八五〇年には……………	四・七五〇・〇〇〇噸
一八七〇年には……………	一一・九〇〇・〇〇〇噸
一九一〇年には……………	六〇・五〇〇・〇〇〇噸

## 第二節 生産者用の富と消費者用の富、資本。

若し我々が、或る一定の時に於ける社會の所有物の横断面を見ることが出来るならば、その所有物は極めて多種多様の物から成立つてゐるに相違ない。鐵鑛石や棒鋼、材木や羊毛や綿花、工場や鐵道や船舶、あらゆる種類の在庫品、小賣商人の店頭にある諸商品——先づ斯様な物があるに相違ない。そして次には、家屋、家具、衣類及び食物が、慾望を充たす爲にそれ等の物を使用してゐる人々の手に在るに相違ない。我々は、此の第一種の物を名付けて資本、或は生産者資本と謂ひ、第二種の物を名付けて消費者用の財、或は資本でない富と謂つてゐる。又我々は、第一種の物を未完成財と呼び、第二種の物を完成した享樂財と呼ぶことも出来る。經濟學研究上これ等二種の物は、若干の目的の爲には相似たる物であり、その他の目的の爲には相似ざる物である。それ等の間の相異は、實質的には程度上の相異である、けれどもそれは極めて大きな相異であるから、區別するだけの譯がある(註二)。差當つては、「資本」なる言葉を、特に第一種の物に——生産者資本に適用する方が便利である。第二種の物は、享樂財或は消費財或は完成財として言及されるであらう、そして、第一種の物に類似した状態及び關係に於て



其等の物に言及する場合に限り、消費者資本としてそれに言及するであらう。

(註二) 此の程度上の相異は、満足或は效用の生ずる時に關するものである。その時は、普通に、消費者用の財の場合に於てはより近く、生産者資本の場合に於てはより遠い。第五篇第四十章に於ける此の問題に關する所論参照。

だから資本——生産者資本——は享樂され得る形態を採つてはゐない、即ちそれは、現在では満足の資源ではない。それは、消費者用の富を増加する目的の爲に存在するのである。それが享樂財に對する關係は二重である。一方では、それは段々に「熟し」て享樂財となる、と謂ひ得られる。他方では、それは享樂財の供給を増加する爲の手段である。

原料が——普通に謂はれてゐるやうに——熟して完成財となることは、容易に之を見ること出来る。例へば、諸々の繼起的生産階段を経て、羊毛が衣類と成り、小麦が麵麩と成り、石材と材木とが家と成つてゐる。しかし、實質上同一の過程が道具や機械に就ても起る。今假りに、印刷機械が使用に耐へるのは一年限りであつて、その年の終りには使ひ盡されて駄目になるものと假定しよう。それを援用して印刷した書物は、常に紙及びその他の材料の製造に適用された労働、及び印刷所で植字工やその他の職工に依つて適用された労働の生産物であるのみならず、その印刷機械そのもの、製造に適用された労働の生産物でもあるのである。で若しそ

の一年間に百冊の書物が印刷されたと假定するならば、その機械が熟してそれ丈の享樂財になつたのだと謂ふことが出来、従つてその各冊はその中に、この機械の製造に費された労働の百分の一を體現してゐると謂ふことが出来る。丁度、紙やインクとしてのその紙やインクが消滅したやうに、機械としてのその機械は消滅したのである、かくして總て三つの物の代りに、その印刷された書物が出来たのである。若しその機械が十年間或は二十年間の使用に耐へるならば、其れを製造した労働は、遙かにより多數の書物の製造に貢献するわけであり、従つてその労働のより少い部分が、各書物に體現されるわけである。總ての機械及び總ての設備に就てもそうである。其れは早晚使ひ盡される、従つて、其れは早晚熟して我々の慾望を充すところの財に成るのでと謂ふことが出来る。

消費財の豊富の、従つて人類の物質的福祉の増進の、最も重要な唯一の原因が、普通に固定資本と呼ばれてゐる諸々の資本形態に——道具、機械、設備に——見出される。確かに之が、文明諸國が前世紀に於て爲し遂げたところの、物質的福祉の驚くべき増進の最も重要な原因であつた。若し大きな紡績工場或は毛織物工場、製靴工場、大きな精糖工場或は製粉工場を設立するならば——精巧な装置を準備する爲に多くの時間を掛け且つ多量の労働を適用するならば



——結局は生産物がより豊富に得られ、而も各單位に體現される労働がより少くなるであらう。機械そのもの、製造も他の生産部門と同様に、此の傾向を顯著に例證してゐる。精巧な且つ高價な設備を以て大規模に營まれてゐる製鐵鋼業は、一般の生産装置に必要缺ぐべからざる金屬をば、安價に而も豊富に生産する爲に役立つてゐる。職工の使用するより、簡單な道具は謂ふに及ばず、機關車、織物機械、農具そのものも、機械を以て製造されてゐるのである。

此の機械設備を應用した一切の装置が平滑に且つ有効に作用し得るが爲には、材料が亦大規模に供給されて居らねばならない、そして之にも亦長い準備が必要なのである。晝も夜も、年から年中活動してゐる大鎔鑛爐は、その胃の腑に巨大量の鐵鑛石、石炭、石灰石を入れてゐる。ところが此等の物は、鎔鑛爐そのものと同様に、豫め準備して置かれねばならない。同様に、織物工場はその羊毛或は綿絲或は絹絲を、製靴工場はその鞣皮を、精糖工場はその粗糖を、必要とする。複雑な諸々の生産作業の總てを一貫して此の趨勢は一つである、即ち込入つた準備、生産の時間的擴張、多額の資本、消費財の結局の豊富と低廉——此等の傾向が一切の複雑な生産作業に共通してゐる。

### 第三節 資本は剩餘を基礎とする。

資本が存在し且つ時日を要する生産が行はれるが爲には、それより以前に或る剩餘が生じて居らねばならない。使用さるべき資本がより多くなればなるほど、資本となるべき剩餘がより多くなければならない。

資本形成の極く初期に於ては、その剩餘は、餘分の時間といふ事實に直接に現れた。最初の粗末な石器や銅器は、已むべからざる欲望を充す爲に労働せねばならぬ時間以外の時間に——何か他の事をする機會のある時間に——形作られたものに相違ない。此の時代に於てはどんな動機が人々を支配したであらうか、又どんな機會で最初の道具が思ひ付かれたであらうか、といふ事は我々にはわからない。恐らくは、單なる工夫本能がその主因だつたであらう。道具や糧食などを所有することからの利益は、早くから理解されてゐたに相違ない。最も單純な状態の下に於ける選擇は、現在と將來との間に——目下の怠惰或は逸樂と、將來の必要に對する準備との間に——在るのである。

剩餘が多くなればなるほど、將來の必要の爲に費され得る時間と労働とが多くなる。生産技



術の階段が極めて低くて、單なる生存必需品以上には殆んど生産されてゐない場合には、將來に對する準備は極く小さな規模でしか、之を爲すことが出来ない。他方に於ては、資本の缺乏そのものが、勞働の能率に對し、従つて可なり大きな剰餘の存在に對し、一つの障礙となつてゐる。長い間、人類は斯くして二重に困難な境遇に在つた。即ち、資本が無いために勞働の生産力が貧弱であつた、ところが又勞働の生産力が貧弱なために、より多くの資本を創造する見込が殆んど無かつたのである。

剰餘貯藏物の僅少が資本の創造に對する唯一の障礙だつたといふ事は、合點さるべくも無い。自然法則を知らぬこと及び道具を作り得ることを知らぬこと、將來に就ての無頓着、——此等と同じく重大であつた。しかし剰餘がなかつた爲に、有效な生産装置を設ける基礎そのものが缺けてゐたのである。此の場合には、多くの場合がそうであるやうに、第一步が最も困難であつた。一旦既に幾らかの資本が得られてからは、勞働の生産力がより大きくなり、そしてそれに依つて、尙より多くの資本の創造が一層容易になつたのである。

#### 第四節

ごんな意味で資本が貯蓄に基くか。

蓄藏と、放資の爲の貯蓄との比較對照。

我々は前節に於て、資本とは形成され或は創造された物だと謂つた。しかし資本はまた、貯蓄され且つ蓄積された物だとも謂はれてゐる。どちらの言表し方でも差支ない。若し我々が、或る一人の人(或は一組の人々)が資本を生み出すところの幾多の生産階段に獨りで従事してゐるものと考へるならば、我々は、此の人(或は其の一組の人々)が嘗に貯蓄に依つて將來に備へてゐるのみならず、自分の剰餘を使用して道具を形作り或は材料を作つてもゐる、といふことを知ることが出来る。しかし細密な分業の行はれてゐる社會では、此の二つのことが一人の人に依つて爲される場合は稀である、即ち、どの一定の項目の資本に就ても、此の二つが共に一人の人に依つて爲されることは稀である。或る機械操縦業者は貯蓄するかも知れない、しかし彼の現在の貯金と、機械に對する彼の現在の勞働との間には、何の聯絡も無い。現に有るところの諸々の材料や機械の形成を可能ならしめたものは、他の人々の以前の貯金である。總ての収入や支出が貨幣の形態を採つてゐる場合の貯蓄は、自分自身の使用の爲に實物を貯へることには



依らないで、將來の必要の爲に貨幣を貯へることに依つて行はれる。他方に於て、道具及びその他の生産装置は、將來の爲に意識的にそれを準備するのではない人々に依つて、市場に提供する爲に作られてゐる。そこで其等の物が、『放資』(“invest”)したいと思つてゐる他の人々に依つて買はれる。如何なる過程を経て、此等別々の手續が近代の産業組織上にその結合結果を齎すやうになつてゐるか、といふことは充分の考察に價する問題である。

貯蓄(saving)は、單なる蓄藏(hoarding)の形態を探るかも知れない。澤山の鑄貨を仕舞つて置く守銭奴は、自分自身の或は他人の必要に應ずる爲に、貯蓄して準備するのである。しかし斯かる貯蓄からは、生産装置は少しも増加されない。財産が——暴君の掠奪の爲に、或は政府の無力から外國の侵略者に對する保護が與へられない爲に——脅されてゐる場合には、往々にして蓄藏が大規模に行はれる。英領印度では、英國の占領以前の多數世紀間を通じて、此の不安の原因が二つながら有つた。だからして資産を有する人々は、それを大抵正金や寶石の形に換へた——蓋し、此等の物は小さな嵩で價值が多く、従つて其れを隠したり持つて逃げたりが出来るからである。第十七世紀或は第十八世紀に於ける歐羅巴の侵略者達は、北印度に斯様な富が大變豊富に有るのを知つたが、それは、印度が豊饒な鑛山を持つてゐたからではなくて、

その住民が既に可なりの文明と繁榮とに達して居り、そして既に久しく蓄藏してゐたからであつた。印度では、英國の統治に依つてその泰平と安固とが久しく維持されてゐるにも拘らず、蓄積された資産を此の形態に換へる習慣が引續き今日まで行はれて來た。佛蘭西では、佛蘭西革命以前の長い間、その小農階級——といつても實はその中で、何か苟も剩餘といふやうな物を持つてゐたところの比較的僅かの人々——が、鑄貨を一個づゝその煙突や屋根部屋の中に隠して置いて、僅かばかりの土地を買ふに足りるまで之を蓄積した。彼等の貯蓄が蓄藏の形式を探るに至つたのは、彼等が掠奪を恐れ、而も他に貨幣の利用方法を知らなかつたからである。この蓄藏に依つては、資本の増加が少しも鼓舞されなかつた。又、その蓄積された鑄貨が土地を購買する爲に持出された場合でさへも、資本は少しも増加されなかつた。何となれば、その土地を賣つた貴族は大抵、その賣上金を浪費してしまつた、従つてその小農の蓄積の直接の結果は、土地が一人の手から他人の手に移轉したといふことに過ぎなかつたからである。斯かる習慣が佛蘭西では、佛蘭西革命以後實に第十九世紀を通じて繼續された。ところが一八七〇——七一年の普佛戦争及び殊に一九一四——一八年の大戦に依つて、公債が巨大量に而も廣く流布さるゝに至つたので、正金を蓄藏して仕舞つて置くといふ此の小農達の習慣が遂に破れたので



ある。

しかし乍ら近代に於ては、巨大量の貯蓄が放資の形態を採つてゐる。今、蓄藏の過程を、貨幣が貯蓄銀行に預入れられた場合に起る過程と比較對照して見よう——此の latter は、近代社會に於ける放資方法中、典型的のものとして選んでよいものである。自分の現金を貯蓄銀行に預ける人々は、普通には只、それが安全だといふこと、及びそれに對して幾らかの利子が支拂はれるといふことを考へるに過ぎない。しかしその現金は、その銀行の金庫に仕舞つては置かれぬ。即ち只だその一小部分が、引出したいと思ふ預金者達の起り得べき要求に應ずる爲に、保持されてゐるに過ぎないのである。その殆んど全部は、利潤を得る爲にそれを利用する人々に貸出されてゐる。さて利潤は、事の尋常の經過に於ては、諸々の生産作業から生ずる、従つて金を借りた人々は、それを以て生産に必要な諸々の物を買ふのである。或は彼は製造業者であつて、工場を建て、機械や諸々の入用品を買ひ、職工を雇ふかも知れない。或は彼は商人であつて、製造業者から諸々の商品を買ひ、そして其等の物をば、その消費者に更に一步を近づけしめるかも知れない。生産を指導してゐる人——右の製造業者や商人のやうな人——は總て、その資金の大部分を以て、一階段前の生産者達から材料や道具や店を買ひ、斯くして此等

の生産者達が既に費せる經費を彼等に償ふのである。——全體としての實業家階級が自由にし得る貨幣手段は、社會の具體的生產裝置を増加する爲の機構の最も重要な一部分である。

### 第五節

放資は労働者への前貸を意味する。  
財産の不平等と前貸との關係。放資  
及び前貸の仲介業者。

此の、貯蓄及び放資といふ込入つた機構の根本的事實は、諸々の労働者に對して前貸 (advance) が爲されるといふ事である。一組の人々が貨幣手段を貯蓄する、種々の徑路を経て他の人々が此の貨幣手段を手に入れ、そして其れに依て諸々の労働者を働かせる。が茲でも亦、諸々の繼起的生産階段を營める人々の間の分業が、彼等の諸作業の本質を隠蔽してゐる。製造業者は、直接に労働者を雇ふ爲にはその資金の一部分しか費さない、彼はその残りを以て設備や材料を買ひ、又その他の生産出費に充てるのである。然し、此等の材料はそれ自體が諸々の労働者に依つて形作られた物であつて、此等の労働者に對しては、その以前の資本家が矢張り前貸せねばならなかつたのである。卸賣商人或は小賣商人が雇ふ労働者は比較的僅かである——即



ち一組の手代番頭と一二人の擔夫かろことに過ぎない。然し彼は諸々の財を購入することに依て、彼自身は全生産過程の仕上げをするに過ぎないけれども、一系列を爲せるその以前の多數の雇主の前貸を償ふのである。全體としての資本家及び雇主の作業を観察し、そして彼等及び彼等の労働者達の間に分業の結果を分析して見ると、總ての資本が労働に依て形成されてゐる事、及び、資本家階級の總ての作業が諸々の労働者に對する前貸の連續に歸着する事がわかる。

此等の前貸は、労働者達に譲渡された貨幣だと謂つたが、それは結局に於ては、彼等に依つて使用さるべき諸商品の準備から成立つてゐる。その貨幣は、依つて以て労働者達が、その買ふところの諸商品を支配する媒介物に過ぎない。だから此等の商品——衣食住——は、最後まで分析すれば、雇主階級がその雇人達に手渡しするところの物である。ところが此等の前貸の内幾つかは過去に爲されたものであつて、現在では今も使用されてゐる設備や材料に依つて表象されて居り、その全等價物は、未だ完成された商品形態では復生産されてゐない。また幾つかの前貸は、現在の作業の経過に於て毎日爲されてゐる。だからして現存の資本の全部は、將來の爲に準備を爲しつゝ、労働を維持する爲に既に使用され且つ現に使用されつゝあるところの、蓄積された一大剩餘であると謂ふことが出来る。生産の初めの諸階段（材料や諸設備の生産）に

於て労働者を働かす爲の前貸が常に行はれてゐる、と同様にまた、諸々の品物を消費財といふ最後の形態に齎す爲の前貸も常に行はれてゐるのである。

近代社會に於て、資本の創造に必要な二つの行爲——貯蓄と労働の適用と——が甚だしく分離されてゐるのは、主として富の不平等の結果である。有産階級の人々は、當時の必要物以上に可なり大きな剩餘を有する、従つて比較的容易に貯蓄する。彼等は生産装置の大部分を所有してゐる。然し、近代社會に於ける大多數の人々は有産階級の者ではなく、従つて剩餘といふやうなものは殆んど持つてゐない。彼等は殆んど貯蓄が無い、従つて彼等は他の人々に雇はれて、時日の掛かる諸々の生産作業を營み、そして資本を形成し且つ維持してゐる。疑もなく、労働者階級に依つても多少の貯金がされてゐる、また貯蓄銀行及び之と類似の機關に依つて、その貯金が急激に増加した。しかしその貯金は、絶對的には可なり大きな額になるが、蓄積されてゐる總資金の一部分に過ぎない。現代社會に於て所有され且つ維持されてゐる資本の大部分は、比較的小數のより幸福な階級の人々の貯金から生じてゐるのである。

貯蓄してゐる個人と前貸される労働者とは、普通に一系列の仲介業者に依つて結付けられてゐる。雇主そのものは、なるほど殆んど常に自分自身の多少の資金を使用してはゐるが、普通



には借手である。しかし乍ら、彼は、直接に貯金者達から借りるのではなくて、彼等のいろいろの代理者や代表者から借りるのである。例へば貯蓄銀行は、個々の貯金者から剰餘金を寄せ集めるが、労働の雇主とは往々にして、ブローカーその他の仲介業者の手を通じてしか取引しない。即ち貯蓄銀行は、ブローカーや銀行業者の手から株券や債券を買ひ取るのであるが、此等の有價證券は、諸々の銀行業者に依つて、全系列の取引が結局は其れに向けられてゐる諸事業に従事せる人々(労働者の雇主達)との商議の上で、發行されたものである。銀行家は典型的の媒介者である、その主たる職分は、剰餘貨幣所得の流を一方或は他方に導き、かくしてこれ或は他の雇主團體に労働者を働かせる爲の資金を支配させることである。生命保險會社は、將來の必要に備へる爲に多數の個人に依つて貯蓄されたところの、資金を蒐集し且つ平等化するものであるが、之は、近代的大貯蓄機關の一つである。其の放資は、貯蓄銀行の其れと同様に、普通には、雇主への直接の貸付には依らずして、生産の第一の危険を負擔して放資者には確實な利益を保證するところの、銀行家及びその他の媒介業者の手を経て行はれてゐる。過去半世紀間に於て、自分自身は活潑に生産作業を指揮することを欲しないか、或はその能力の無い人々に依つての、貯金及び放資の額が非常に増加した。そこで、此等の人々と活潑な生産管理者達

との間に介在するところの、仲介業者階級が大いに發達した、かくして此等仲介業者の利潤の見込が大きくなり、その受托の地位を濫用する恐れが甚だしくなつたが、しかしまた一方では、現代社會の總資本の巨大なる成長の基礎を爲す貯金が、極めて有効に蒐集され且つ放下されるやうになつたのである。

## 第六節 資本の維持は其の創造と同様に、貯

蓄を必要とする。

労働と貯蓄とを必要とするのは、常に資本の創造のみでない、資本の維持も亦それ等を必要とする。

あらゆる形態の有形の富は、時日の経過につれて使ひ盡される。なるほど或る種の資本は、例へば灌漑用の堰や花崗岩の船渠のやうに、極めて耐久である。また或る種のもものは、建物や機械のやうに、可なり長時日の使用に耐へる。がその他のものは、汽罐の下で燃される石炭のやうに、極めて急速に使ひ盡される。かくして總ての資本が、時日の経過するにつれて置換へられねばならないのである、——或るものは、その耐久性に比例して徐々に、或るものは、



その急減性に比例して迅速に。だからして、現存の生産装置を維持しようとする爲には、絶えず或る一定量の労働を其の更新と取換とに費さねばならない。そして此の労働は扶持されねばならぬのであるが、この扶持は、剰餘と貯金とに對する絶わざる需要を意味してゐる。

それがどんな風に行はれるかといふことは、あらゆる製造工業の帳簿に現れる消耗費の計算に依つて、例證することが出来る。製造業者は、自分の機械類が使ひ盡されるといふこと、及び、若し自分の資本(機械類)を損じさせないで置かうとするには、其れを取換へる爲に彼が年々幾らかを貯蓄しなければならぬといふことを知つてゐる。彼の機械は、常に使ひ盡されるのみではない、現時のやうに改良や發明がどん／＼行はれる時代には、其れが直ぐに時代後れになる、従つて彼は、それがまだ使ひ盡されない前でも其れを打棄てねばならぬ、といふ可能性に備へねばならない。若し假に其の生命を十年とするならば、彼は年々、其の價値の十分の一ばかりのものを積立てなければならぬ、これをより正確に謂へば、彼は、放下され且つ纏められたものがその十年の終りにその價値を埋め合せるだけの金額を、据置かねばならない。だから若し彼が不變の利潤を得ようとするならば、彼は此の金額をもその出費の一部として勘定しなければならぬ。けれども最初には、その金額は、費用に充てることは出来るが

經常費に充てるつもりではないところの、それだけの剰餘額である(註三)。それは恐らく、新しい生産装置を買つて使ひ盡されたものと取換へる爲に使用されるであらう、がそれは、必ずしも斯く使用されるわけではない。

(註三) 實際に於ては、消耗費に充てる別個の基金として、現實に金を積立て、之を數年間に亘つて下ろして置くことは、恐らくは稀であらう。普通には、消耗費に充てる爲に毎年或る金額が、利益金に對して帳簿の借方に記入される。他方に於て、これ或は他の項目の設備が毎年取換へられ或は修繕される——その全部が一舉に駄目になることはい——そしてその取換に費された金額は消耗費の勘定に附け出される。或る一定の年に於て斯く費される金額は、消耗費に充てる爲にきまつて積立てられてゐる金額よりも、多いかも知れないし或は少いかも知れない。若しより、少く費されて消耗基金が蓄積すれば、それは往々にして、有利な企業に於ては、機械類を増設し或は改良物を取入れる爲に使用される——それは、設備の爲によりは寧ろ設備の中に下ろされてゐるのである。

普通には、資本はその儘で維持される、といふのは、その同一の機械或は材料が何時までも維持されるといふ意味で、ではなくて、それ等が使ひ盡されるにつれて、他の機械及び材料が規則正しく生産されてそれ等と置換へられるといふ意味である。消耗費を埋め合せる爲に据置かれてゐる剰餘金が、更にその同一の企圖及びその同一の手段に、或は何か他の企圖及び手段に、放下されるのである。貯蓄の習慣は有産階級の間にて牢として扱くべからざるものであ



る。浪費者は滅多に無い、そして現に行はれてゐるやうな浪費は、新しい貯蓄者達及び放資者達の新たな蓄財に依つて相殺して餘りがある。その結果、新しい資本——機械類、諸々の材料、及びあらゆる種類の装置——の形成が絶えず行はれてゐる。確立された分業の下で機械製造業に従事してゐる人々は、使ひ盡されたものと取換へる爲に彼等の生産に係る装置が買はれるであらう、といふ根拠のある期待を持つてゐる。かくして製造業者は、既に準備されてゐるところの新しい機械を見出す。分業が行はれてゐる下では、必要を豫想して絶えず準備が爲されてゐるが、此等の必要の中で、資本の置換といふ必要は着實に感じられてゐるのである。

資本の修繕は、それが使ひ盡された場合のその完全な取換と同様に、貯蓄が絶えず行はれることを要する。或る種の装置は、運轉の工合を悪くせぬ爲に毎日少しつゝ手を入れねばならない。鐵道の道敷の場合がそうであつて、之は殆んど毎時間の注意を要する、そして若し二三週間も顧みなかつたならば、其れは全く役に立たぬやうになるであらう。又、鐵道の機關車は絶えず重い物を引かされてゐる、だから其れは屢々機械工場に送られねばならない、かくして使用したり修繕したりしても、恐らく三十年も経てば、其れは遂に大きな廢物となつて、新しいものと取換へられねばならなくなる。此の種の作業に依つて資本を絶えず維持して行くといふ

ことは、自分の資本をその儘で維持しようとする人々に依つての——殆んど常に、繼起的に——系列を爲せる諸々の仲介業者の手を経ての——雇傭労働の不斷の適用を意味する。



## 第六章 産業の會社組織

### 第一節 組合と會社。有限責任。法的見地及

び經濟的見地から見たる會社。

大規模作業の發達の結果、生産者と放資者との——即ち、生産を嚮導する人々と生産装置を所有する人々との、合同事業が大いに發達した。生産管理を目的とする筋肉労働者達だけの聯合は別種のものである。之は或は、産業組織の重要な、否寧ろ支配的な形態だと思はれるかも知れない、が實はそうではない。<sup>1)</sup>近代世界に於て他のどれよりも重要な形態は、企業團體に於ける資本所有者と管理者との聯合である。

斯かる人々の聯合の最も單純な形態は、二人或はそれ以上の人々より成る組合 (partnership) である。法律上の見地から見た組合の特徴は、元來、一切の債務に對する組合員の共同の而も各自の責任であつた、そして之は今尙、大抵の場合にその儘である。即ち各組合員は、その組合の一切の債務に對して、各自に而も無制限に責任を負ふてゐる。だから債權者は、若しその

1) 第六篇第六十一章に於ける労働者の産業組合に関する所論参照。

請求權が契約に従つて應じられない場合には、組合員の誰をでも差押へることが出來、そしてその者から、自分の貸金の全額を得る事が出來るのである。そしてその場合に組合員達が、その債務を彼等の間に如何にして分配するかといふことは、その債權者が之に關係するの必要な問題である。

會社 (corporation)\* の特徴は有限責任である。個々の聯合員はその事業に對し、株式或は資本金に對する拂込金の形式で、或る一定の金額を寄與する。債務に對する各人の責任は、此の場合に於ては、その拂込金に比例して有限である。通常それは、丁度その拂込金額に限られてゐる。だから一旦彼等が、その金額を全部——彼等の株式の額面價值——を拂込んだならば、彼等は最早支拂を要求されることがない。尤も偶々或る別種の責任があることがある。例へば、合衆國の國立銀行に於ては、責任が二重になつてゐる、即ちその株主は、常にその本來の拂込金のみならず、(債務辨濟の爲に必要な場合には)更にそれと同額だけの支拂を要求されるかも知れない。が多少の制限は殆んど常に有る。合衆國に於ては(殆んど例外なしに)、會社の株主は組合員と異り、自分の財産の全額までの責任を負ふことはない。

組合と會社との間の法律上の區別は、經濟學研究の目的の爲に重要な區別と平行してはゐな

\* 本章に於ける corporation といふ言葉の意味は、之を廣く解すれば「法人」のことであり、之を狭く解すれば「株式會社」のことであると思はれるが、譯者は、必要と認めらるゝ場合の外は、總て之を「會社」と譯出した。



い。經濟學者に取つて重大な區別は、組合は、互によく知り合つてゐてその事業に活潑に従事してゐる極めて小數の人々の聯合であり、會社は、互に未知であつて概してその管理に密接には干與してゐない放資者であるところの可なり多數の人々の聯合である、といふことである。その規模は必ずしも重要なことではないが、でも其れに依つて大體、これ等二種の産業組織を區別することが出来る。なるほど小さな會社が澤山あるし、大きな組合も多少は有る。しかし大規模に行はれ且つ可なり多數の干與者を有する事業の經營は、會社の形式を採つてゐるのが常である、之に反して組合は、通常、あまり大きくない事業に限られてゐる。

過去半世紀間に於て、英語國に於ては、組合と會社との間の昔の法律上の明確な區別が甚だしく變更されて來た。組合は、昔の普通法の嚴重な規則の下では、厄介な組織形態を採つてゐた。即ち其れは、誰か組合員が死ぬると解散せねばならなかつた、また其れは、他の種々の方法でその事業の繼續を妨げられてゐた。そこで法令が、組合をして會社の特徴の幾つか——繼續的存在、活動しない成員、多少の責任制限——を採ることを許したのである。他方に於て會社は、從來は禁止されてゐたところの、あらゆる方面の産業界に這入ることを許された。元來、産業を目的とする法人は、第十七世紀及び第十八世紀に於ける大きな外國貿易

會社、銀行業を營む會社、及び近くは運河、税道、鐵道等の場合に於けるが如く、何か特殊の公益が齎されると考へられた場合に限つて認可されたものである。しかし、此の形態の聯合事業は組合の厄介さと比較して便利なものだから、その範圍が次第に擴張され、遂に今日では、有りとあらゆる種類の産業上の企圖が會社の形態で經營され得るやうになつた。

その結果、小規模の會社が澤山に出來たのであるが、此等の會社は、その相互間の關係は實質上組合員間の其れであるところの少數の人々に依つて、所有され且つ管理されてゐるのである。此の種の會社と舊式の組合との孰れを採るかは、往々にして、その設立地に於ける法律の諸特性に依つて、即ちその課税方法に依りその訴訟手續に依つて、決定されてゐる。斯くして責任の制限に關するその根本的區別は、肝心要のものではなくなつた。なるほど無限責任を有する組合は、其れに對して貸出す人々が萬一の場合に頼みとすべきより多くのものを有するものだから、其れはよりよき信用を享けるやうに思はれるかも知れない。しかし現代に於ける信用は、借手の人格及びその事業上の評判に依存すること甚だ大である、或は、借手の事業上の地位に關して疑がある場合には、其れは財産の直接の保證に依存するのである。また會社組織に伴ふ他の諸々の利益は、信用の點でのどの不利益をも之を相殺して餘りがある。だからして



“Smith & Jones, Incorporated” 或は “Smith & Jones, Limited” 或は “Smith & Jones Company” が單なる “Smith & Jones” に取つて代つた、しかし此の法律上の組織形態に於ける變化は、經濟的には殆んど重要なものでない。

繰返して謂ふが、我々が眞の會社コーポレーションと呼び得べきもの、經濟的意義は、組合の其れとはその趣を甚だしく異にする。即ち眞の會社に於ては、多數の株主と、株主の間から選舉された理事と、理事に依つて選ばれた支配人とが——換言すれば、所有者と管理者との間の明白な分離が——あるのである。そして此の種の組織は、主として、生産が極めて大規模に行はれる場合に現れる。

現時、殊に合衆國に於ては、多くの人々は、「コーポレーション」と謂へば何かなほ別種のもの——即ち、常に所有權が分割されて居り且つ大規模に營まれてゐるのみならず、なほ特殊の公共的重要を有するものを——聯想する。即ち彼等は、コーポレーションとは獨占力を有し、従つて特に公の取締を受けてゐるものだと考へる。「パブリック・サーヴィス・コーポレーション」（公益法人）は、恰も其れがコーポレーションそのものであるかのやうに謂はれてゐる。謂はゆる「パブリック」コーポレーションとその他のコーポレーションとが明確に區別されるかどうか、ま

た大規模作業がそれだけで獨占と公共團體の責任とを生ずるかどうか、といふことは之を他の場所で考察するであらう。<sup>1)</sup> 差當り我々に關係があるのは、只だ近代に於ける大規模生産の發達と貯蓄及び放資といふ近代的機構とに關係してゐるところの、會社の發達の状態のみである。そして斯かる發達の状態は、常に「公益」的の會社にのみならず、公共的の特殊の義務或は關係はないと通常看做されてゐるところの、他の會社にも現れてゐるのである。だからして我々は次の諸節に於て、右に略述した意味で——即ち、大規模に作業し、多數の株主を有し、そして其れに於ては放資者と管理者とが明確に分離されてゐるコーポレーションの意味で、「會社」と謂ふであらう。

## 第二節

會社組織からの諸々の利益。大規模作業が容易になる、新しく且つ冒險的な放資が鼓舞される、貯金と放資とに對する刺戟。

1) 第七篇第六十四章参照。



會社は産業の發達に對して諸々の大きな利益を興へた。先づ、大規模作業が容易になつた。多くの近代的企業は極めて多額の資本を要するから、誰も一個人では之を供給し得ないであらう。若干の古い經濟學書には、斯かる企業を始め得るのは國家のみだと書かれてゐる、そして此の考からして、單なる規模の大小だけが産業の公共管理の標準だと看做されたのである。が公共管理に訴へるが爲の此の理由は、今日では何等の力も持ち得ない。なるほど一個人や數人だけの小團體では、とても必要な資金を提供することは出来ないが、しかし多數の個人が團結すれば、どんな事業にでも——如何に大きくても——その資金を供給することが出来る。

責任が有限だといふことも、會社組織の下で大規模作業が促進されたところの主たる一素因であつた。どんな企業でも、殊にその初期に於て、危険を伴はないものはない。企業が大きい場合には、賭けられた金額及びその結果なる責任が、それに應じて大きいわけである。だから若し株主が組合員のやうに、債務に對して無限の責任を負ふわけであるならば、放資は阻止されるに相違ない。偶々、實質上では會社の形態を採つてゐたが、有限責任といふ法律上の保護なしに營まれてゐた大事業が、失敗して破産したことがある。斯かる場合には各株主は、自分の全財産に對して差押を蒙つた。斯くしてグラスゴウ銀行が一八七八年に破産した時に、蘇蘭

に於ける數百人の小株主は、その各々が債務に對して無限責任を負ふてゐた爲に、皆破滅したのである。恐らく彼等の中で、自分がその株主となつた時に、此の可能性を明かに氣付いてゐた者は殆んど無かつたであらう。彼等がうつかりしてゐたのは、當時一般に、嚴密な意味での會社組織及びその結果なる有限責任が實施されてゐたからである。が若し彼等のやうな経験を度々嘗めさせられることになれば、大企業の資本を多數の散在せる個人からの出資に依つて集めることは、恐らくは不可能となるであらう。

なほ又新しい企業が、大企業模の模も小規模の模も共に、そして殊に大規模のが、責任の有限といふことに依つて鼓舞された。近代に於ける發明の進歩、産業の多様化、生産力の増加——これ等は總て冒險に次ぐに冒險を以てして起つたものであるが、これ等の冒險は各々、その當初には不確實と危険とを意味してゐた。或る人を勧誘して、利潤の見込のある新事業の株を少し或は相當に多くをさへ持たせることは、比較的容易である、が若しその事業に干與することが彼の全財産を失ふ可能性をも伴ふてゐるならば、彼は容易には之に加入しないであらう。斯かる危険が冒されるのは、その利潤の見込が實に極めて大きな場合——即ち、その事業に依つて生産される貨物或は勤勞の價格が充分に高くて、例外的な利潤を生ずる見込のある場合——に限



られるであらう。凡そ責任が有限だといふこと、及びその結果なる冒險的事業に放資され易いといふことは、常に斯かる事業がより多く營まれるであらうといふことのみならず、その社會がよりよき條件でその生産物を得るであらうといふことをも意味する。

會社組織が産業の發達を促進したところの一切の方法の中で恐らく最も重要なものは、放資の容易と、その結果なる貯蓄及び資本の形成に對する刺戟とであつた。第十八世紀に於ては、有價證券に放資するといふことは、殆んど公債を買ふことに依つてのみ可能であつた、而も此の公債は、なるほど個人の放資を意味したけれども、社會の資本の増加を齎さないのが常であつた。なるほど大商人や實業家は、彼等の剩餘資金を工場、倉庫、船舶等に放下することが出来た。しかし純粹な且つ單なる放資者は、これ等のものに手を出すことは出来なかつた。若し彼が國債證書を買はなかつたならば、彼は、不動産を買ひ且つ之を改良するの外には殆んど選擇の餘地がなかつたのである。ところが不動産は、之を便利な持分に分割することが出来ず、而も可なり面倒な管理と少なからざる危険とを伴つてゐる。之に反して現代の株式市場は、大小の貯金の放下の爲に殆んど無限の原野を提供してゐる。鐵道、工場、汽船、鑛山——これ等は總て會社の形式で經營されて居り、而も此等を代表する社債は、一寸注意して居れば

誰でも之を買ふことが出来る。謂はゞ貯金が流動體になつてゐるのであつて、其れは、容易に且つどれだけでも望む分量で、何所にでも其れが有利に使用されそうな場所に流れて行けるのである。——會社企業に放資することが容易になつた爲に、貯金が鼓舞され、そして交互作用に依つて、貯金が絶えず蓄積された爲に、會社的管理の下に於ける眞の資本を莫大に増加することが出来るやうになつた。

### 第三節

讓渡の容易は、危険を分配し従つて放資を鼓舞する爲に、及び管理を有能者の手に齎す爲に、役立つ。しかし其れは大きな弊害をも生ずる、——欺瞞、株式賭博、不徳者の管理。

株券の讓渡が容易だといふことの結果は、特別の注目に値する。之は決して、會社組織に必要缺くべからざることではない、何となれば、株主として或る會社に放資した人々が、利害共



にその會社と運命を共にするといふ場合も考へられるから。しかしその讓渡性 (transferability) は極めて古くから存在するものであり、而も殆んど普遍的なものだから、それは通常、會社組織の自然の且つ必然の一部分だと思はれてゐる。

この讓渡性は、有限責任と同様に、それに依つて危険がよりよく分配され得るといふ點に於て、社會に取つて有利である。即ち、株主となることに依つて或る一定の會社に放資した人は、それに依つて何所までも束縛されはしない。若し彼がその會社の前途を悲觀するか、或は何かより有望だと思はれる事業を見出すならば、彼は自分の株券をば、その會社に就て彼が考へるよりもより有望だと考へてゐる他の人に、賣ることが出来るのである。投機及び取引所に關する後段の論究に於てより、充分に説明するであらうやうに、どんな種類の賣買取引に於ても、若し賣却が容易であるならば冒險的な取引が容易になり、従つて斯かる取引がより小さな利潤で遂行されるやうになる。<sup>1)</sup> 株式取引所に於ける有價證券の賣却や投機的取引に就てもそうである。斯かる取引が社會に齎す主要な利益は、此等の取引が危険に對する一種の保險として作用し、従つて放資——殊に新しい企業に於ける——を鼓舞するといふことである。

株券の讓渡性は、恐らくもう一つの利益を齎すであらう。即ちそれは、所有權と管理とを機

1) 第二篇第十一章参照。

敏な且つ有能な人々の手に齎す傾向がある。或る會社の前途を最もよく判斷し、且つ其れを巧に管理する爲に賢明に勢力を振ふ人々は、より有能ならざる人々から其の株券を買取るのである。確實な判斷力は、賣買取引に成功する爲の恐らくは最も重要な資格であらう、そしてそれは、個人の金儲の爲にも、社會の勞働及び資本の有効な利用の爲にも、莫大な効果がある。<sup>1)</sup> として斯かる判斷力に依つて得られる報酬は、往々にして極めて大きく、且つ極めて迅速に獲得されてゐるが、此の報酬がその爲された勤勞に比例してゐるか否かといふことは、これ一個の未決問題である。が兎にかく判斷力は、産業を有効に經營する爲に莫大な効果があり、そして株券の讓渡性は其の奏效を援けてゐるのである。

しかし乍らその讓渡性は、明かに斯く有利ではないところの若干の結果を生じてゐる。共同の目的の爲の聯合といふ感じは、近代的會社の株主の間には事實上無くなつてゐる。なるほど其れは、その株主が親密な關係にあるところの、<sup>ファミリー・コーポレーション</sup> 一族會社 (準組合) に於ては多少存続してゐるけれども、その株主が多くて而も遠く相離れてゐる場合に於ては、其れが無くなつてゐる。そして各株主は、自分の利益の爲に獨立行動を取つてゐる、即ち彼は、損失の恐れがある場合には、鼠が沈みゆく舟を見棄てるやうにその事業を見棄て、また利得の見込がある場合に

1) 第五篇第四十九章第四節参照。



は、自分自身の利益の爲に、多数の株券を仲間から迅速に買集めるのである。凡そ、或る会社の景氣が悪くなりかけてゐる場合にはその株券を賣拂ひ、よくなりかけてゐる場合には其れを買入れる、といふことは事業的聰明の絶頂である。之は全く、共同の利益或は共同の損失を目的とする連帶冒險といふ、その元來の觀念と矛盾してゐる、しかしそれは、何か倫理或は尋常の勝負の原則の違反だとは一寸も考へられてゐない。疑もなくそれは、前述の諸々の利益を齎す、即ち株券の絶わざる賣買に依つては、個人の危険が減少され、また機敏な且つ有能な人々に依つての管理が助成される。しかし乍らそれは、繊細な道德心に或る激動を與へるところの、個人主義の種々相の一つである(註一)。

(註一) 此の、株主間に連帶といふ感じが全然無くなつてゐるといふことは、債券が普通に發行されてゐるやうに無記名株式を發行するところの、獨逸の慣例に於て明らかに認められてゐる、此の株券には、一定の期日に生ずべき配當金の爲に配當札が附せられてゐるのである。

會社企業の異常な發達とその株券の讓渡性などに依つて、近代の株式取引所が、その一切の顯著な且つ往々にして掩蔽的な影響を伴つて現れて來た。株券及びその他の有價證券は、その同質性の爲に、あらゆる種類の人々の賣買の目的物とされて居り、またその爲に、特に投

機的取引に適用されてゐる。株式取引所に於ける取引の殆んど大部分までは、現實の放資の過程と直接には何の關係もない、即ちその取引は、有價證券が登録されぬ前に完了されるのが常である。株式取引所に於ける賣買が、工場、鐵道等の具體的資本の増加を促進するのは、讓渡が容易だといふ見込に間接に影響されて、見越し賣買をするといふ方面に限られてゐる。なるほど此の方面での利益は事實であるが、それには、株式賭博といふやうな巨大量の不生産的勢力が伴つてゐる、だからして、その社會的利益が大體に於てその社會的損失に優つてゐるか否かといふことは、之を明言するに容易ではない。此等の問題を論ずる人々の大部分は、何が社會的利益或は損失を構成してゐるかといふことに關しては、實に不明瞭な觀念しか持つてゐないのである。彼等は産業の會社組織をば、それがどの點で眞に一般の利益になるかといふことは識別しないで、その利益は之を問題とする餘地の無い事實だと臆斷する。即ち彼等は、株券の讓渡性の利益は之と問題とするの餘地なき事實だと臆斷して、放資促進からの利益が賭博的行爲からの物質的及び道德的の損失に優つてゐるか否かといふことは、之を顧慮しない。況んや彼等は、機敏な人々の手に於けるより、有效な管理からの利益が、富のより、大きな不平等から生ずる不利益に優つてゐるか否かといふことは、之を考慮するわけもないのである。

1) 第二篇第十一章に於ける所論參照。



讓渡性は往々にして、なほ他の面白からぬ結果を生ずる。即ち管理が、常に機敏な人々の手にのみならず、不徳な輩の手にもまた移るのである。或る會社の前途の見込に就て最もよく知つてゐる理事やその他の“insiders”（内幕に明るい人々）が、普通の株主と賣買をする場合には、彼等は不正骰子で勝負をするわけである。なるほど此の種の行爲は、法律に依つても輿論に依つても、普通の株主間の賣買が認められてゐるやうに認められてはゐない。法律上の見地では、理事は受托者の地位にゐる。即ち彼は、委托者との賣買から利益を得ることは許されてゐない、そして斯かる不誠實な所爲からの利益は、總て之を償還するの義務を負ふてゐる。その株主が親密な關係にあるところの餘り大きくない會社の場合には、受托義務の違犯は輿論に依つても亦禁じられてゐる。が併し大きな會社の場合には、人爲的に相場を狂はせることや、内部の消息に通じてゐることを利用しての投機的利潤は、實業界では嚴しく咎められてゐない、そして此のことは、極めて多數の人々がこの勝負を爲し或は爲さうとする理由の大部分である。株式賣買者の全群は、皆互に出し抜かうとしてゐる。失敗する者は、只だ儲ける爲の機敏或は運が無いだけであつて、儲けようとの意思がないのではない。株式賭博に於て、力強く且つ機敏な比較的少數の不徳者に好機會を作つて與へるのは、貪慾な而も欺され易い人々の大群が在

存してゐるといふことであつて、これは、博奕や骨牌勝負や穀物或は綿花での投機に於けると同じことである。

一寸附言すべきは、會社の幹部（理事及びその他の役員）が往々にして、——殊に、今述べたやうに不誠實な行爲が輿論に依つて今尙力強く非難されてゐるところの、あまり大きくない會社の場合に、——自分達の義務を充分に尊重してゐるといふことである。そして殆んど常に、所有權が極めて雜然としてゐる會社に於てさへも、正當に帳簿に記載されてゐるところの株主の權利は嚴重に尊重されてゐる。即ち彼は、管理上の詳細な點に就ては如何に無智或は無能であつても、一切の利潤の、即ち一切の思ひがけない利得の、利益を受け得るのである。株主に對する此の種の尊重は、實に、會社放資の必要條件である。そして其れは、點頭一つ或は賣買票への一筆に依つてのみ表されてゐる賣買契約を嚴重に固守する點での、仲買人の誠實に似てゐる。若し契約した取引を遂行する爲の機構が確實に維持されなかつたならば、會社放資といふ全組織が崩潰するに相異なる。誤魔化しの餘地があるのは、賣買の、即ち株主となるの、過程に在るのである。そして此の場合でも亦、確實な判斷力を行使すること、職務上の地位を濫用すること、を明確に區別することは、往々にして困難である。



## 第四節 放資媒介業者の重要さの遞増。信任

された銀行家及び管理者の力。

會社の發達のもう一つの結果は、放資媒介業者 (financial middleman) の力の遞増といふことであつた。放資者は、常に資本の管理をしなくなつたのみならず、資本を創造する爲の自分の貯金の使用を自ら世話し且つ判断することもしなくなつた。そして放資銀行 (investment bank) が、放資の過程の最も重要な眞の指導者となつてゐる。英蘭や合衆國の歴史的な私營銀行屋 (private banking house) ——ヘアリング家、ロスチャイルド家、モルガン家——及び一切の近代諸國の、恐らくは獨逸に於て最も著しいところの、新しく發達した大銀行がそれである。そして此等の銀行からして「公衆」が、諸々の有價證券——主として會社の株券や債券を買ふのである。此の購買は、その放資媒介銀行の助言や評判に依つて大いに影響されるが、兎にかく其れに依つて、個人の放資行爲が構成されるのである。そしてどんな會社を組織すべきか、どんな産業を經營すべきか、どんな鐵道、鑛山、工場、を裝備すべきかといふことは、放資媒介業者達に依つて、より直接に活動してゐる産業管理者達との商議の上で決定されるのである。

だからして、多數の放資者の信頼と後援とを得てゐるところの、此等の銀行家の力は偉大である。或る一定の企業——例へば、或る鐵道、或る工場若しくは數工場の合同したもの、或る鑛山若しくは數鑛山の合同したもの——の「支配」が一個人若しくは數人の者の手中に在る、と普通に謂はれてゐる、そして公衆は、數十億も數百億もの値打ちある資本が、一モルガン或は一ロスチャイルドに依つて支配されてゐるのに驚嘆してゐる。此の種の支配は、必然に或は通常、斯かる巨額の資本の所有權の集中を表はしてゐるわけではないが、然し其れは、多數の放資者が統帥的人物の判斷力と指導力とに置く信頼に基いてゐるところの、力の集中を表はしてゐるのである。

少數の人々への支配の集中が最も顯著に現れてゐるのは合衆國である。不思議にも我國民は不承不承に政治的支配を集中したが、産業的支配の集中は之を躊躇せず承認した。英國に於ては奇妙にも、公務上では(少くとも中央政府では)責任の歸一が既にその極度まで實行されてゐるのに、産業では今尙理事が指揮してゐて、社長の權力は今尙嚴正に制限されてゐる。ところが、抑制及び權衡といふ傳統が常に政治組織を形成してゐる合衆國に於ては、大會社の理事は往々にして置物に過ぎないのに反し、社長は情深い專制君主である。此の一人の支配の發達



は疑もなく、大膽、能率、進歩、を促進した、しかし其れはまた、不安を感じるのが無理もないまでに權力を集中したのである。

### 第五節

多額の會社財産が極めて安全だとい

ふことは、有閑階級をしてより永久  
的のものたらしめる。

會社組織の發達及び精巧の尙も一つの結果は、常に放資を爲すことの容易さが増したのみならず、單なる放資者の地位の鞏固さも増した、といふことである。放資媒介業者達の工夫力は、大群の貯蓄者の愛顧と後援とを得る爲に競争して、だんくより安全な放資方法を提供するやうになつた。かくして凡ゆる種類の有價證券が提供されてゐる、即ち常に、危険を伴ふと共に大きな利益の見込を伴ふ有價證券のみならず、低い利益と絶對的安全とを伴ふ有價證券も亦提供されてゐるのである。國債證書は今尙、安全といふ點での特殊の名聲を有する、そして其れは最も低率の利子しか生じない。また之と殆んど同様に安全な、従つて、その購買者が元本と所得との維持に關する一切の心配を免れ得るところの、株券や債券も提供されてゐる。斯

くして財産家の地位は、若し彼が低率の利益で甘んじてゐるならば、甚だ安全になつてゐるのである。身代を維持するには其れを作るだけの能力を要する、金には羽がある、裸一貫から裸一貫までは只の三代、などはよく謂はれたことであり、また今でも時々聞くところである。が今日ではずつと事情が變つてゐる。即ち今日では、主として會社組織の結果として、一種の抽象的の或は蒸溜された財産が、産業の浮沈を外にして増殖してゐるのである。富豪や有産階級は、若し彼等が低率の利益で甘んずるならば、その地位を殆んど不拔にすることが出來、そして相續に依つて、其れを無窮に維持することが出來るのである。斯くして、封建的特權にではなくて、貯金、放資、及び生産的企業に立脚してゐるところの有閑階級が、近代社會の堅固な一部分となつて來た。



## 第七章 生産力を影響する原因若干

## 第一節

労働の生産力に及ぼす高い勞賃（豊かな食物）の効果。高い勞賃は概して、能率の原因ではなくてその結果である。

前諸章に於ては、分業、大規模生産の發達、資本の使用及び増殖、といふやうな、産業の生産力を影響するところの諸原因を取扱つた。本章に於ては、生産に於ける労働の能率に關係ある若干の他の諸素因を考察するであらう。

此等の素因の中には労働者達の品質がある。凡そ生産の増加は、常に労働者達の配列及び組織、並びに彼等が使用する生産裝備に依存してゐるのみならず、その個々の労働者の力と熟練とも亦依存してゐるのである。そして此等二つの素因——力と熟練と——は、之を別々に論ずることが出来る。

労働の能率に關しては蒸氣機關説とも呼び得べき説がある。その主張するところ——否、主張するといふよりは寧ろ恐らく暗示するところに依れば、労働者の活動力はその消費する分量に比例してゐる。即ち、労働者の受取る分量が多くなればなるほど、彼はより強くなるであらう、従つて彼はより多く生産するであらう、そして此のことは丁度、蒸氣機關から得られる動力が、その火室で燃される燃料に依存してゐるのと同じである。——労働者により多くの食物を與へよ、然らば彼はそれだけより多く働き得るであらう。此の説は、より高い勞賃を支拂ふことは、雇主に取つて常に有利——少くとも、利潤の維持と矛盾しない——であらう、といふことを表はしてゐるやうに思はれる。

此の見解には多少の眞理がある。それは殊に、繼續的な而も烈しい筋肉的努力を要求するやうな、最も單純な不熟練労働の場合に當嵌まる。往々にして労働者達は、極めて不十分にしか食はされてゐない爲に、その肉體的力が害はれてゐることがある。そして此の場合には、大群の労働者の雇主は、彼等に充分に食はせても報はれることになる。烈しい労働を伴ふところの軍隊的活動、殊に長行軍を伴ふ其れは、若し兵卒に充分な糧食を與へるならば、大抵は成功するであらう。支那や印度のやうな後れた半開國に於ては、その夥しい國民が不十分にしか食は



されてゐない。だから彼等の能率は、恐らくは、より豊富な食物とよりよき住居とに依つて、増進され得るであらう。また文明諸國に於ける労働者の少なからざる部分も、之と同じ地位にある。ロウンツリー氏は、英蘭のヨーク市に關する彼の調査書に於て、當時の英蘭の物價を標準にして、肉體的能率の爲に必要な衣食住を得べき貨幣勞賃の見積りを立て、ゐる。その金額は、五人の家族に就て毎週約二十志であつた、而もヨーク市に於ける賃労働者階級の六分の一に當る者の収入は、此の金額に足りなかつたのである。歐羅巴のあらゆる地方に於ける多數の労働者の状態も、恐らくは之に劣らず悲惨なものであらう、また合衆國に於ては、その一般勞賃率がより高いにも拘らず、若干の——恐らくは、相對的には僅かであらうがその絶對數に於ては輕視すべからざる——労働者が、矢張り同じく悲惨な状態に在ることであらう。

労働者達が充分に食はされてゐない場合に、充分な肉體的能率を擧ぐるに足る營養が得られる點にまで勞賃を増加することは、困難ではないであらうと思はれるかも知れない、何となれば、生産物が増加すれば勞賃を増加しても引合ふであらうから。しかし此の問題は、一見したところでのやうに單純ではない。なるほど労働者は、より充分な生計を得ることに依つて生産力を増加するかも知れないし、またその社會は、斯くしてより健全な且つより幸福な社會團體

1) B. S. Rowntree, Poverty: a Study of Town Life, Chapter IV.

となるかも知れないが、しかし労働者にその前賃をする雇主は必ずしも利益を得るとは限らない。なるほど、若しその労働者が奴隸であつたならば、之によりよく食はせて直接に利益を得る多少の見込があるであらう。その奴隸は依然としてその主人の財産であらう、だからその主人は、自分が蒔いた場所で刈取るであらう。が奴隸に關してさへも、確かに、充分に食はせるといふ出費を爲すことが必ずしも有利なわけではない。即ち粗末な食物を與へて之を酷使し、數年間で之を使ひ盡し、そして新しい奴隸を買つて又之を同様に非道く使役する方が、より安上りになるかも知れない——此の方法はかの奴隸時代に於て、若干の南部植民地方で熟慮の上採用されたことである。それは兎に角として自由労働者の場合は、明かにその事情が實質的に相異してゐる。即ち、よりよき食物から得られる能率の増進は、その労働者自身の利益になる。そして其れに必要な前賃をする雇主は誰も、その出費を自分の手に回收すべき何等の保證も得られないのである。凡そ、充分な生計は労働者の能率の上に効果を生ずるわけではないが、その効果の現れる過程は迅速でなく、また確實でもない。その過程が迅速でないといふのは、蓋し、衰弱し且つ頽廢した労働者をよい状態に齎す爲には時日を要するからである。又それが確實でないといふのは、蓋し、労働者の中の若干は、その久しい艱難の爲に極めて衰弱し



てゐるか、或はその體質が生來極めて弱いので、到底健康體になれそうにもないからである。なるほど、充分に食はされてゐない一團の労働者でさへも、若し組織的に世話すれば、之を充分な活動力の最高點にまで齎すことが出来ぬでは無いとしても、それは危険であり且つ不確實であると共に、一方では、斯くして改造された労働者が他の職業に轉ずる恐れがあるので、利潤を目的とする雇主には、此の種の企てを實行するの望みがないのである。充分な生活資料を與へることが雇主の直接の利益となる場合は、大群の労働者が邊鄙な場所で働いて居り、従つて準強制的にその仕事を固守させられてゐる場合——例へば、パナマ運河の開鑿や邊鄙な地方に於ける建設隊でのやうに、例外的な事情の場合に限られてゐる。

充分に食はされてゐない労働者階級は、なるほど現代の社會に於てはその數は比較的に少いけれども、一つの悲惨な問題を提出してゐる。彼等の勞賃が少いのは彼等が無能だからである、そして彼等が無能なのは、一つには彼等の勞賃が少いからである。而も彼等は造作もなく頽廢する、そして彼等は、救恤資金からより充分に支給されても、矢張り殆んど常に依然として無能である。肉體的にも道德的にも、彼等を改善する見込は仲々無く、往々にして大人は絶望である、たゞ手を著けて成功する見込があるのは、その子供達ばかりである。だからして、

勞賃を増加することに依つて一見勞働の生産力が増加されそうな場合でさへも、その成果を擧げる爲の精確な方法といふものは、之を工夫するに困難である。この難問題と闘ひ得るものは、公共團體の、或は準公共團體の、活動のみである、そして之は、潜在的有能者を引上げることに、共に、不適任者を絶滅し或は廢除することをも含まねばならない。

しかし乍ら、以上の推論と考察とは全く、健康と體力を維持する爲に必要な最小限度のものに關聯してゐるに過ぎない、茲に注意すべきは、健康と體力を維持する爲に必要な最小限度のものであつて、生命を繋ぐ爲に必要な其れではないといふことである。人々は、充分に働き得る爲に必要なよりもより少ない食物を以て、なほ生存し且つ働くことが出来る、が、能率を擧げる爲の最小限度は、飢餓線以上に在るのである。しかし、一旦、充分な肉體的活動力の爲に必要なものを得たならば、それ以上の追加物は單なる剩餘である、即ちそれは、最早能率をそれ以上に増進しないといふ意味で、剩餘である。若し斯かる剩餘が得られるならば、其れは、熟練及び生産力の結果としていなければならぬ、即ち其れは、高い能率の結果となつて、能率の原因ではなくなる。若し然らざれば、充分な活動力を得る爲の最小限度が、極めて高いものになる。豊富な菜食、粗末な住居、質素な衣類——これだけの物があれば、身體の



耐へ得る最も困難な仕事をなす爲めにでも、不足はない。伊太利人は粗食であり、支那人は米食をしてゐるが、この質素な食物でも之を充分に得さへすれば、彼等は、肉食のアイリッシュユース・アメリカン、と同様に働くことが出来るのである。

若干のより、高等な職業に於ては、能率を擧げる爲の最小限度が、疑も無く、より寛大に見積られるべきである。即ち此の場合には、肉體的能率の爲に必要缺くべからざるものよりも、幾らかより、多くのものを要する。辯護士、醫師、教師、實業家の仕事には、肉體的活動力以上に、精神作用の神速と肉體的健康とが必要である。若しその環境が、その精神作用を鈍くし、或はその根氣を弱めるやうな場合には、往々にして、その仕事に必要な理解力の反應が不十分になるであらう。だからして智的活動に關しては、我々は、その能率を擧げる爲の必要物の中に、多種多様の食物、餘裕のある住居、安らかな休養を數へることが出来る。しかし、より大きな所得に依つて得られるところの斯かる享樂の諸資源の内、丁度そのどれだけが、精神的勞働者の最高の活動の爲に眞に必要であるかといふことは、之を明言するに困難である。安樂な生活や快い氣晴しに慣れてゐる人々は、彼等が倦まずに自分の仕事を續けて行く爲には此等のものが必要だ、といふことを無造作に信じてゐる。より多くの所得を得る仕事は、そのより多くの

所得に依つて得られるところの、そのより自由な生活なしには遂行され得ないといふ意味で、此等の享樂の資源が必要缺くべからざるものだと考へることは、現存の所得の不平等に就ての、一種の言譯或は辯解である。けれども、單純生活と深い思索とは調和しないわけではない。有産階級の大部分の者が慣れてゐるところの贅澤物と慰安物とは、活動力、或は仕事の新鮮味を失はずして、その大部分を棄て得るであらう。なるほど多少の慰安、多少の餘暇、多少の氣晴しは、疑も無く最高の智的活動に必要である。しかし適度な所得と支出の程度とは、有産階級の大部分の人々が以て足れりとするよりも、ずつと下に在るのである。

## 第二節

生産力に及ぼす熟練と理解力との効果。普通教育。専門教育——個人に及ぼすその効果と社會に及ぼすその効果。

熟練及び理解力は、體力とはその趣を異にする。此等は、個々の勞働者の能率に對し、従つ



て産業一般の生産力に對して、力強く効果を生じる。

技術上の改良物の多くは、之を應用する爲には可なりの程度の理解力を要する。ホットテント  
ット族は、その腦力がよく發達してゐない爲に、道具を——比較的簡單なものでさへも——使  
用することが出来ない。南亞佛利加の金鑛山や金鋼石鑛山では黒人が夥しく使用されてゐる  
が、彼等の仕事は、簡単な鶴嘴やシャベルの仕事に限られてゐる。そして、機械を取扱ひ且つ  
之を嚮導する仕事には、熟練にして賢明な白人技手を雇はねばならない。農業上の作業の多く  
は、鋤掘りや溝掘り以上には何も要しない。しかし先進諸國民の果物栽培には、注意、眼識、  
理解力が必要である、だから其れは、印度の百姓に依つては勿論、恐らくは露西亞の農夫に依  
つても従事されないであらう。近代的産業に於ける手順の定つた作業の多くは、著實な注意を  
拂ひ得る人ならば、誰でも之を遂行することが出来る。しかし此の能力そのものは、長い繼續  
的の勞働に従事する爲の才能や意ウィリシテス向と同様に、誰にでも當然具つてゐるわけではない。そ  
れは野蠻人には具つてゐない、即ちそれは、徐々に獲得されたところの文明人の特性である。  
疑もなく今日では、機械作業の行はれる範圍が段々と廣くなつてゐるが、此の範圍内に於て  
は、智的或は道德的の特性は極く僅かしか要しない。近代の工場作業の多くに於ては、勞働者

としての人間は、確實な且つ信頼すべき自動機械と殆んど何も擇ぶところが無い。しかし乍ら  
其處では常に、此の種の勞働と相並んで、或る割合の、より屈伸的な、より注意深い、よりよ  
く訓練された勞働が行はねばならない。之は技手の仕事の性質であつて、それは、狭い意味  
での「勞働者の仕事」とは、その趣が異つてゐる。即ち技手の仕事に於ては、正確、用意周到、熟  
練、理解力が必要である、そして此の場合に於ては、此等の特性は、能率を擧げる爲に必要缺  
くべからざるものである。

勞働の生産力に及ぼす教育の効果の問題は單純でない。一面では、教育が廣く普及すれば人  
類一般の能率がより大きくなる、が他面では、教育が普及すれば容易には解決し難い諸々の經  
濟問題が起つて来る。

鶴嘴やシャベルの仕事の中で最も單純なものは、無學な勞働者でも教育ある勞働者と同様  
に、之を有効に遂行し得るやうである。今一寸注意したやうに、多くの近代的工場勞働に就て  
見ても矢張りそうである。また多くの手工業に於てさへも、學問は、高度の熟練を得る爲に必  
要缺ぐべからざるものではない。歐羅巴の中世の職人の仕事に就ても、また近代の日本及  
び實に現代の歐羅巴の若干地方に於ける同種類の勞働者(職人)の仕事に就ても、無學とい



ふことが、道具の最も巧な使用に對する障礙ではないことがわかる。

それにも拘らず、教育を廣く普及させることが、生産を高める爲の最も有效な手段だといふことは、やはり依然として事實である。其れは殊に、新しい種類の有効な生産方法を促進し且つ普及させる爲に有效である。既に或る技術が、一旦徐々に——といふのは、歴史的には斯くして人類が、大抵の技術を習得して來たのである——習得されてゐるならば、其の技術の代から代への單なる傳達、その維持、及びその完成までもが、學問の助力は藉りないで、最も單純な模倣に依つて行はれる。しかし諸々の改良物の迅速な普及と利用とは、容易な智的交通機關(文字)に依つて莫大に促進されてゐる。只だ読み書きが出来るといふだけで、立所に新しい全世界が開けて來る。読み書きの出来る者は、最早その両親や親方のみの經驗からでなく、全人類の經驗から學ぶことが出来る。代替式機械組織 (the system of interchangeable parts) のやうな偉大なる改良物が普及したといふことは、概して、初等教育が廣く普及した爲であつた。複雑な道具或は機械——例へば犁、收禾機、自轉車、自動車——は、その各構成部分が同一の鑄型で作られた總ての同一部分の精密な複製物であるが爲に、今日では、標準の定つた鑄型に依つて製造されてゐる。だから、若しそれに損所が出来たならば、その必要な部分を直ちに取換

へることが出来る。複雑な機械が、修繕工場から遠い地方で廣く使用され得るのは、全く此の組織の爲である。しかし其れを採用することは、更に又、その機械を使用すべき人々が多少の一般理解力を有し、且つその説明書を読み得る場合に初めて可能である。合衆國では、總てが部分的に取換へられるやうに出来てゐるところの、勞働節約農具が他に類例なく廣く使用されてゐるが、これは當に、國民の理解力に負ふてゐるのみならず、初等教育の普遍的普及にも負ふてゐる。前代に於て獨逸の産業が大いに發達したのも、その大部分は、矢張りこの同じ諸素因に負ふてゐるのである。

専門教育は明かに直接の經濟的效果を有する。土木技師、機械技師、電氣技師の養成は、既得の精巧な技術を代から代へ傳達する。それはまた、技術の進歩を促進する。過去に於ては、諸々の偉大な發明物や改良物が、恐らくは實驗場からと同様に屢々工場からも現れたであらう。が現代世界の狀態、殊に技術に對して自然科學がより多く方法的に應用されてゐる狀態の下では、實驗場が、恐らく直接に——そこから簇生する諸々の發明物を通して——も又間接に——そこで養成された人々の活動を通して——も、益々より大きな役割を演ずるであらう。

諸々の技術及び職業に對する一切の訓練は、現代世界に於てはより組織的になる傾向があ



る。即ち技師がその基礎的訓練を受けるのは、工場に於てはも仕事場に於てはもなく、工藝學校に於てはあり、醫師や辯護士がその基礎的訓練を受けるのは、實際家からではなくて、その専門の學校からである。之と同じ趨勢が、卑近な機械的技術に對する産業的訓練の擴張にも現れてゐる。徒弟奉公を経て職人になることは、數世紀間、依つて以て此等の技術が維持され且つ傳達された方法であつた。しかし近代の産業の事情の下では、徒弟奉公は、無効な且つ事實上陳腐なものとなつて仕舞つた。昔の「親方」は殆んどその影を失つた、即ち親方は、大きな雇<sup>エンプロイヤー</sup>主に依つて驅逐されたのであるが、此の雇主は、その老若の如何に拘らず自分の個々の労働者とは接觸しないのである。斯くして、昔は徒弟奉公に依つて準備されたところの産業的訓練の初步の諸階段が、今日では組織的な職業學校に依つて受持たれねばならなくなり、従つて公共教育の一般組織の一部分とならねばならぬやうになつた。丁度、謂はゆる自由職業<sup>リベラル・プロフェッション</sup>が通常その専門學校を経て就業されてゐるやうに、或る一定の職<sup>トビレット</sup>も遠からずして、通常その職業學校を経て就業されるやうになるであらう。

斯かる教育が個人に及ぼす効果と、社會に及ぼす効果とは、之を明確に區別せねばならぬ。個々の人々の間に就て謂へば、教育を受ける機會の普及は、只だ平等化の効果を有するに

過ぎない。社會に就て謂へば、其れは一般能率を増進する傾向がある、が併し、その爲に一般能率が増進するといつても、恐らくその程度は、その爲に若干の個人の収入が増加する程ではないであらう。また其れは、今日技術的或は専門的の熟練を有する人々の間に存在し得るところの、特權的地位を壓倒する傾向がある。また其れは、斯かる人々の収入をより少くする傾向があり得る。が他方に於て其れは、斯かる熟練をより容易に獲得し得るやうになつた人々の、収入を増加する傾向がある。労働組合は普通に、職業學校の設立に反對してゐるが、蓋しそれは、斯かる學校を設立すれば、より高く支拂はれてゐる職業に於ける勞賃率が下落するであらう、といふ危懼の爲である。此の危懼は、甚だ誇張されてはゐるが、全然根據が無いわけではない。教育の、殊に産業的教育の、利益を架説する人々の中には、往々にして熟練職工或は訓練された技師の高い勞賃と不熟練労働者の低い勞賃とを對照して、その差は此の兩者の相對的生産力を測定するものだ、と臆斷するものがある。が斯かる人々は、若し總ての人々が勞賃のより高い職業の訓練を容易に受け得るやうになつたならば、その職業に従事する人數が増加するに相違なく、従つてその職業に於ける勞賃が下落するに相違ない、といふことを忘れてゐるのである。要するに、あらゆる種類の職業的訓練が廣く且つ自由に普及すれば、殆んど確實



に、全體としての社會の生産力が増加するであらう、しかしそうなればまた、現存の収入の不平等が減少し、そして現在恵まれてゐる若干の個人及び若干の階級の収入が減少するであらう。<sup>1)</sup>

初等學校の教育から大學の教育までの、全階段の一般的教育は、明かに之といふ産業上の目的に向けられたものではないけれども、疑もなくそれは、可なり大きな經濟的效果を有する。なるほど其れは、概して其れ自體が目的である、或は少くとも、産業上の能率よりは寧ろ他の目的の爲の手段である。單に智識や理解力を得るといふことが既に、それ自體一つの満足であり、若干の人々に取つては大きな悦びである。人間の特性の中で、森羅萬象に關するその飽くどころなき好奇心より著しいものはない、そして此の好奇心の満足は、人類の努力の不斷の目的の一つである。そして知識は、謂ふまでも無いことであるが、人世のより高度の且つより高尚な享樂への、途を開拓する。しかし乍ら一般的教育は、やはり、そのより直接な經濟的效果をも有する。なるほど、読み書きが出来るからとて溝掘人がより強壯になるわけではなく、また幾何や文學をやつたからとて技手の熟練さが増加するわけではないけれども、凡そ教育は、理解力や、辨別力や、機會の利用や、改良物の普及を助成する。また其れは、眞面目、正直、及び著實な努力をも助成する。其れに依つて品性が向上され、且つ諸々の有能者が訓練される

1) 此の問題に關しては、第五篇第四十七章に詳論されてゐる。

やうになればなるほど、また其れがだれた形式に捉はれることが少くなればなるほど、右に擧げた諸々の目的が一層よく達成されるのである。また其れが此等の目的を達成し得ない場合の救済方法は、單なる産業上の能率といふ利益の點から見ても、矢張り其れを廢除することではなくて、其れを改良することである。

### 第三節

指導。實業家、科學者。指導を鼓舞

するものごとしての自由と可動性。指

導への諸々の動機。

生産力に關係ある諸々の力の中で少なからず有效なものは、指導<sup>インストラクション</sup>である。それは、事業管理者に依つて、技師や技術的老練者に依つて、及び科學者に依つて、行はれてゐる。凡そ經濟上の能率は、社會がよい指導者を得ることに成功するか否かに依つて、深大に影響されるのである。

複雑な道具や機械が熟練職工の手で製造され、そして此等一切の裝置が尙他の熟練職工の手